ハードモード1年放置神浜を実況プレイ

hukinoto

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

レギュレーション：難易度はハード。ゲーム時間内で本編開始１年前から１年オートモードで放置

９／６なんか完全非公開になってました。ご迷惑をおかけしました

９／７盗作警告該当箇所を修正。すみません。

目　次

コールサイン・プロローグ
１：キャラクリ ―― 1
２：初戦闘 ―― 5
３：１年放置 ―― 9
１年放置後神浜
４：一年放置後神浜探索、【ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴ・はじまりのいろは】 ―― 12
５：カガリ・調整屋・はじまりのいろは ―― 18
ｅｘ：みんなから見た霧子 ―― 25
ホオズキ市編～ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴＩＯＮ～
６：ホオズキ市介入下準備その１ ―― 32
７：ホオズキ市介入下準備その２ ―― 35
８：ホオズキ市突入まで ―― 38
９：ホオズキ市介入 ―― 42
１０：ホオズキ市介入・残酷な真実 ―― 46
１１：決戦への狼煙 ―― 52
１２：ホオズキ市決戦 ―― 61
１３：あとかたづけと、種明かし ―― 70
Ｉｎｔｅｒｌｕｄｅ．不穏 ―― 76
あすみ編～Ｅｎｔｂｅｈｒｌｉｃｈｅ　Ｂｒａｕｔ～
１４：再会、そして。 ―― 85
１５：ありうべからざる少女 ―― 91
１６：あーもうめちゃくちゃだよ（あすみ ―― 95
１７：これで私のサヨナラ勝ち ―― 100

１８：誤解晴らしのために　103
１９：ＶＳユゥ　107
２０：預言者　110
２１：業　117
２２：絶交ルールのそのウワサ　122
２３：対あすみ戦線　128
２４：過去　132
２５：ＶＳ絶交階段　138
ＰＶ：第一部終了後　146
２６：ＶＳあすみ　152
２７：断ち切るなんてできないんだよ　159
２８：■■な花嫁　162
おまけ：もし朝倉霧子と神名あすみがマギレコ内で実装されたら
171
マギウス編～Ｐｒａｙｅｒ　ｔｏ　ｌｏｖｅ　ｐａｉｎ～
２９：謝罪行脚～ミラーズにて謔ェ鬲斐冖繧?繧峨←繧医ｋ謾ッ謠エ繝輔Λ繧ｰを成立　181
３０：ファッ!?まどかさん!?　188
焔の意志　191
３１：ＶＳほむら、そして邂逅　194
３２：これから　197

コールサイン・プロローグ

1・キャラクリ

それでは、マギアレコード実況プレイ、はっじまっるよー

ニューゲームを選択。難易度はハードにします。ＲＴＡじゃないやんけ！と不満な皆様、いるでしょう。そんなみ　な　さ　ま　のた　め　にぃー

今回のプレイでは、難易度ハードの修羅の国・神浜を一年放置してみます。

もうＲＴＡもへったくれもありません。

ノーマルなら完全放置しても原作通りに展開していきますが、ハードだと必須イベの成否すらランダムです。みたまの願いが正常にかなえられたり、いろはが契約せずマギレコそのものが始まらない場合すらあります。

私はハードモードで１回プレイしたことがありますが散花愁章でいろいろこじらせてアザレア組・団地組全滅、ＳＡＮ値メガトンコインして組長がゆきちゃん化、悲鳴合唱団まで参戦してあーもうめちゃくちゃだよ…トラウマがよみがえった気がしますが難易度ハード神浜はそんな魔境ＤＥＡＴＨ。

長くなりましたがキャラクリをしていきたいと思います。名前は「朝倉　霧子」

出身地は風見野、活動地は神浜。魔法少女歴は２年で年齢は１４。開始時期は本編開始１年前とします。なぜこんなキャラクリにしたかというと出身地ボーナスを受けつつ神浜でも十分に活動できるようにするためですね。

お待ちかねの願いですが【生き延びるための力を】です。自身の生存を望む願いはそれだけで生存能力・基本ステータスを上げてくれま

すし、武器は糸など〝つなぎとめるためのもの〟ですが年数を積めばほかの武器も生成できます。
さて、それではこれらのデータをコピーしてから入力・キャラ生成を行います。リセマラのためですね。
時間も空くので出身地ボーナスについて説明しましょう。
出身地ボーナスはその名の通り出身地によって変動するステータスです
例えば神浜では特になし。自由度の高いキャラクリができます。
見滝原では因果律が高くなる代わりに高確率で性格に【善性】がついて外道働きしにくくなります。もしその状態で外道プレイしようもんならジェムの濁りマッハです。精神値も低くなりやすいです。豆腐です。
二木では因果律にばらつきがありますが、対人技能が高く・札人忌避が低くなる傾向になります。ソウルジェムを直接破壊できる【処刑】を修得できるのはこの街と霧峰村で粛清役に選ばれたときだけです。半面神浜にはなじみにくくなりますがそこは頑張ってください。ほかにもミスドメンバーとの和解をしたいという方にも向いてますね。
今回の風見野は精神値がほかの町よりずば抜けて高いです。絶望しても割と濁りにくいです。グリーフシードが一つもあればリカバリーできます。もしこれが見滝原だったら即刻魔女化ですよ。魔女化の真実を知ってもどこぞの黄色のような発狂もしません。
さらに生存能力も高いため難易度ハード神浜で1年放置されても比較的高確率で生き残ってくれます。半面因果律にはばらつきがありますね。
説明を終えたらちょうどゲームが始まりましたね。暗転してから白いナマモノの声が聞こえてきます。
『おめでとう。君の祈りはエントロピーを凌駕した。』
…よし。これは高い因果律を持っている証です。かなり高い魔力が期待できますね。
まず目に飛び込んでくるのは白い天井。

家は…（プレイヤー探索中）おそらく空き家を使用している形でしょうね。外を見てみましたが神浜壊滅はしていませんでした。
願いの時点で覚悟はしていましたが空き家を使っているということはおそらくロクな過去ではないでしょう。
さて、次は霧子の心情を閲覧してみましょうか。現在の状況とキャラの性格に合わせた心情が見られます。

「神浜に来てしばらくたつがここは良い街だ。魔女が多く、しかも自身の強化もできる。魔法少女が多数いるにもかかわらず争いが少なく、見られなくなった顔も今のところいない。特に治安が比較的悪いのがいい。俺のような魔法少女でも住みやすい。今日も魔女を狩ろうか。鶴乃と遊ぶのもいいかな。」

くぉれは…俺っ娘ですね。しかも治安が悪いのをいいといえるのは利己的にもなれる証拠
です。これはかなり生き残りやすい傾向の魔法少女ですね。見られなくなった顔というのはおそらくそれがあるほど場数を踏んだ証でしょう。これはますます期待が持てます。
人間関係は…
由比　鶴乃〈友好〉
神楽　燦〈顔見知り〉
三栗あやめ〈友好〉
七海　やちよ〈知人〉
和泉　十七夜〈知人〉
都　ひなの〈顔見知り〉
佐倉　杏子〈友好・幼馴染〉
優木　沙々〈敵対〉
逾槫錐縲?縺ゅ☆縺ソ縲域柑谿コ蟇セ雎。縲
ｅｔｃ…
ＲＴＡ泣（リ）かせ（ナ）の例のあの６文字（グレイ）はありませんでしたね。代わりに不穏さＭＡＸなものがありますが現時点ではわからないので保留。し

かし代わりに杏子と友好関係にあり、ささささと敵対関係にあります。前者は風見野出身かつ苗字に「さくら」があり、名前が似ているためでしょう。後者は風見野で活動した時期もあった以上こうなるのは確定でしょう。２部メンバーの燦がいますが１部ではさほど影響は及ぼさないでしょう。

複数のモブ少女とも知り合いのようですね。ただし数人氏んでると…

容姿は黒髪ロングに黒目のかなえのような目つき。身長は１６０ほど。あと胸は慎まやか（穏当表現）ですね。

＞ドアの鳴る音がする…神楽あたりが魔女狩りに誘いに来たのか？

そうこう言ってたらチュートリアルが来ましたね。きりもいいのでこの辺で。それではまた次回‼

2：初戦闘

「神浜にはもう慣れた？…といっても、私もよその町の魔法少女だけどね。」

＞団子のように二点で束ねられた銀色の髪、緑色の目、そして剣を思わせるような一種の美しさを備えた脚…神楽　燦だ。

＞俺より一足先に神浜に来た彼女は、ほかの町からの魔法少女という縁もあり、俺にとっても話しやすい魔法少女の一人だ。

神楽燦が来ましたね。チュートリアルの共闘枠は彼女でしょう。彼女は宝崎の生まれで1部時点では白羽根の一人であり、その中でもずば抜けて戦闘技能とカリスマ性が高いです。共に行動するにしても申し分ないですし、マギウス指導者ルートを通るにしても最高クラスのキャラです。

難易度ハードである以上チュートリアルで死亡なんてこともあり得ますが…勝ったぞ綺礼。このチュートリアル、我々の勝利だ…！

さて、ここからは移動中の会話ストーリーですね。ここからは町の情勢などがうかがえます。

「おかげさまで、全域で動けるようになったよ。そこら辺では東がどーの西がどーのとか言ってるが、俺達にはあまり関係ないしな。」

「あら、町で動くにはその町の事情ってものを知ったほうが身のためよ…？実際町の事情の影響はその町の魔法少女に影響を及ぼしてるし、油断してると痛い目見るわよ。」

「そうかい、まぁヤバくなったとしても、戦うだけだけどな。俺にはそれしか能がない。しかし知らないままというのもすわりが悪い…教えてもらおうか？」

「頼み方ってもんがあるでしょ。」

「ご教授お願いします。」

さて、ここからは神浜の事情レクチャーですが…要約すると戦国時代に東の土地の一族が

ルラギッタため東を嫌う空気が流れ、そこからも亀裂がひろがって

いったということですね。
　実際これは2部になるとすさまじく影響を及ぼしてきますし、なんなら必須イベの一つ【呼び水になりて綻び】にも影響します。実際東と西の関係性悪化を感じ取れる以上【呼び水になりて綻び】はかなり面倒なことになりかけてるでしょうね…まぁ今回は丸ごと吹き飛ばしますが（無慈悲

「なるほどねぇ…以前東のトップに尋ねてみたが部外者が口を出すなとか言われて突っぱねられたんだが、そういう事情…。かなり面倒っちい街に来たのかも。」
「そういうところなのよ。」
「で、さっきから市内のある場所へ進んでいるようだが…魔女か？」
「ええ、一人より二人で挑んだほうがいいでしょ？…さあついたわ。」
〉一見薄暗い、よくある裏路地だが、奇妙な気配がある。ソウルジェムも反応している。魔女の結界だ。
　魔女結界発見ですね。
　強さとしては中の上と言ったことでしょう。結界発見時のメッセージで魔女の強さはおおまかにわかります。以下のように
　弱弱しい〈特殊メッセージなし〈奇妙な〈禍々しい〈死が目の前にあるかのような
　ですね。特に最後のものはその魔法少女単騎では絶対勝てません。
　さて説明してる間に変身完了‼衣装は…黒色でスーツ風。スカートのような部分がありますが広がりは最小限。片目にはモノクルがあり、その装飾にソウルジェムがありますね。
　割とあたりです。武器は…
〉糸
〉中量西洋剣
〉軽量双剣
〉ランス
〉大剣
〉メイス＆ハンマー

＞アックス（調整中
＞刀（調整中
＞ナックルガントレット
＞ナイフ
＞拳銃
＞スナイパーライフル（調整中
なんだこの武器レパートリーははたまげたなぁ…ですが自己生存系の願いをした魔法少女としては不思議なことではありません。大方糸から派生させたのでしょう。マミさんと同じパターンですね。
魔女は…
Ｄｕｒｂａｒ
イキガミの魔女ですね。
「ちゃりゃぁぁぁっ！」
この掛け声は…どうやら鶴乃が先に参戦しているようです。少々押され気味なので死なせないようにすぐに援護しに行きましょう。
燦のガトリングと霧子のメイスで周囲の使い魔を一瞬で殲滅。そのまま霧子はメイスを糸に分解・ランスに変えて突撃。燦はガトリングで援護してますね。
「下がれ鶴乃。おそらくお前とは相性の悪い魔女だ。」
「うーん…分かった。お願いね！」
鶴乃から任されるとは、結構好感度稼いでらっしゃるな？鶴乃はかなり自分でため込みやすい性分です。実際それが1部7章で響いてくるんですよね…
鶴乃と入れ替わりざまに魔女に一突き。直後にランスを双剣に変化させて切り裂きます。そのまま離れてスナイパーライフルで射撃…普通の魔法少女から考えてこの戦闘スタイルは異質そのものですね…様々な武器での連撃と燦のガトリングも相まって魔女の体力がどんどん溶けていきます。
＞感覚をつかんだ…
＞マギア：ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯが発動可能になりました。
マギアが打てるようになりした。戦闘後に浄化できるので惜しみ

なく使いましょう。
「ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯ」
銃撃三発で魔女をけん制。ランスで高速突撃してから双剣で切り抜き、そのまま目にもとまらぬ速さで連撃。ナックルガントレットとナイフで何回も魔女とすれ違う形で攻撃。メイスとハンマーと大剣の３連撃から西洋剣の一閃でしめました。
戦い方からしてパワータイプというよりスピード・テクニカルタイプといったところでしょう。魔女とも戦えますが対魔法少女戦が本懐みたいな戦い方ですね。この先のストーリーで役に立ちそうです。マギアにもかかわらず消費魔力が比較的少ないのもいいですね。
「神楽、鶴野。グリーフシードは山分けでどうだ？」
「あ～、私は自分のあるからいいや。それに魔女を狩ってくれたのは霧子ちゃんだし。」
「そうね。グリーフシードは魔女を仕留めたものにのみ使えるものだけど…ご相伴にあずかりましょうか。」
「りょーかい。」
＞グリーフシードが二人のソウルジェムの汚れを吸収する…
＞魔力が完全に回復した。
＞スナイパーライフルが完成した。
浄化も完了した後、技術向上なのかスナイパーライフルから調整中の文字が消えましたね。
今回はここまでです。…次回はお待ちかねの一年放置、やっていきましょう！
それでは。

3：1年放置

さて、今回一年放置するということで、本編一年前に発生するイベントをまとめてみましょうか。

まず、【呼び水となりて綻び】これは東西の話題がよその町の魔法少女である霧子ちゃんから出る時点でだいぶ深刻なことになりかけていますね。ミラーズ産魔法少女による攻撃が誤解され、東西対立が深まってしまうという内容のイベントで、失敗すると神浜が世紀末サツバツ都市になっていろはが動けなくなります。また鏡の魔女は成長することで様々な厄介ごとを引き起こします。

次に【バイバイ、また明日】これは団地組の魔法少女契約イベで、失敗すると散花愁章の発生フラグが立たず”混沌”更紗帆奈が野放しになるという大惨事が発生します。

【そしてアザレアの花咲く】アザレア組の疑いを晴らすイベです。あち死という言葉ができるのも納得レベルであやめが氏にやすいです。友好関係のキャラが氏ぬと精神値がごっそり持ってかれますが…祈りましょう。

【散花愁章】このイベでようやく更紗帆奈と出会えます。ここまで来たら何としてでも彼女を出現させ、始末をつけることが必須です。本編通りに自害させた場合ハードモードでは自身の氏を固有魔法のコピーで偽装するという案件が発生しかねません。また、下手にフラグを立てると帆奈が一般人にも手を出し始めます。それが発生した場合神浜の一部が爆撃後もかくやのありさまになります。爆弾持っているバンピーがいるので当然ですね。

…ほんとなんなんだこの町

以上のイベントを放置してみます。なおフリー状態になる霧子ですが、そのキャラのパーソナルデータに基づいて行動します。そのため必須イベの成否ランダム＋霧子のやらかしという混沌とした状態になりますね。

ほかにもネームドキャラがＳＡＴＳＵＧＡＩされかねないランダム発生イベ【ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴＩＯＮ】、そしてそもそもマ

ギウスが結成されるかもわかりません。この場合ジェムを濁らせても普通に魔女化します。
そして交友関係の文字化け…数え厄満でしかないですがこれは私が始めた物語だろ。責任もってやり遂げましょう。
「霧子じゃーん！元気してたかー!?」
市外近くを歩いていたらあやめに出くわしましたね。どのくらいの好感度かはまだわかりませんがシナリオ進行／オート操作に移行して…
1年放置行ってみましょう！
～少女奔走中～

「朝倉霧子…お前という奴は…」「排除するのは早計だわ。少なくとも東西対立の危機を回避したのはあの子のおかげなんだもの」「しかし七海…」

「あ、ありがとうございます！」

「いえいえ、年若き少女が身を投げる不幸、見過ごせなかっただけですよ。」

「まったく、うわさを流しているのはどこのどいつだか…」

「もういい……もういいわ。決めた……疑いを晴らすなんてどうでもいい……私たち以外の魔法少女を全員叩き潰す……！」
「なにを馬鹿なこと言ってんだあんたは！そんなことをすればあやめが、あんたの仲間が神浜にいられなくなる！」

「取り逃がしたわバカ！早く止めないと！」
「そんな…これっ…て…じゃあ今まで倒してきたのは・・」
「このはーっ！どこにいるんだーっ……このは？」
「せめて・・殺されるのなら…」
「あやめーっ！」
「……見てんだろ？なぁ、見つけ出すから覚悟しろ。」

「どうして、こうなるんだろうな。」

1年放置後神浜

4：一年放置後神浜探索、【ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴ・はじまりのいろは】

おっは～

1年放置完了しました。霧子ちゃんは無事生存していたようで何より。氏んでた時用のキャラクリコピーデータも出る幕はありませんでした。

さて一年後の神浜の様子ですが…なんということでしょう

目に飛び込んでくる天井は1年前は普通の家のような感じだったというのに、今は金属質な見ためです。ていうか前の空き家は二階建てだったのにここは一階建てですね。壁に関しても金属質ですが牢屋というわけではありません。トタン製の家でしょうね。

霧子はソファーで寝ていてその前のテーブルの上にはコンビニ弁当・及び配給の食糧のものと思われるごみ、エナジードリンクの空き缶が散乱しています。完全に精神値が持ってかれた魔法少女の生活環境ですね。髪は断髪したのかショートになっており、目はドブのような目になってます。心情は…

「……」

虚無ですね。この先大丈夫でしょうか。

人間関係は…

由比　鶴乃〈親愛？〉
神楽　燦〈顔見知り〉
三栗　あやめ〈死亡〉
静海　このは〈殺害〉
遊佐　葉月〈消息不明〉
七海　やちよ〈知人〉
和泉　十七夜〈険悪〉
都　ひなの〈顔見知り〉

八雲　みたま〈顔見知り〉
佐倉　杏子〈友好・幼馴染〉
優木　沙々〈敵対〉
天乃　鈴音〈敵対〉
更紗　帆奈〈殺害〉？

逾槫錐縲？縺ゅ☆縺ソ縲域柑谿コ蟇セ雎。縲

ファッ!?…何殺らかしたんですかあんたは。アザレア組はほぼ全滅してますね。東のトップとは敵対一歩手前。鈴音に敵対されているということは彼女の襲撃から生き延びたと…？うせやろ？少なくとも彼女から生き残ってしまった場合様々な厄介ごとに巻き込まれることが確定します。そして更紗帆奈を殺害にまでもっていったと…なんなんだあんたいったい。鶴乃とは親愛関係になっていますが文字が揺らいでます。この場合関係が共依存など不健全な状態になってる証ですね…

イベ履歴を見てみましたが【そしてアザレアの花咲く】は失敗。【バイバイ、また明日】は発生すらしていません。つまり出現フラグがまったく立っていない状態でＳＡＴＳＵＧＡＩしたと…？

ん、ちょっと待って。【散花愁章】の代わりに【復讐譚に黒薔薇は咲いて】の文字がありますねぇ…くぉれはオリジナルイベントが生成されましたな？また変なフラグが立ちそうでいやんなりますよもー。

とりあえず外に出てみましょう。イクゾォー！　デッデッデデデデ！（カーン）

住処は中央区あたりですが、みろよこれ、あたり一面がれきだらけでスラム街みたいなありさまになっていますよ。西区は本編で存在した建物の一部が潰れています。『一人ぼっちの最果て』の場所も潰れています。（５章）どうしてくれるんじゃ。

東は…地図上では西同様一部潰れてますがが大規模な魔力反応が感じられます。確実に何かまずいことが進行しているでしょう。

実際の景色に目を向けてみますがやはりかなり殺風景ですね。君の知らない神浜すぎる。

というより空中にどでかい紋章が見えますね。一般人には見えて

いないようです。
弩級魔女に成長した鏡の魔女結界の入り口でしょう。これはミラーズにつながるだけでなく過去・未来・並行世界から様々な存在を吐き出します。
某管理局の白い悪魔が出てきかねませんし、プラグイン次第では歌って戦うまどか声の娘や根源の姫も出てきかねません。
とりあえず今後の動きとしては神浜のパトロールが中心になりますね。鈴音がいる時点でほかのネームドがＳＡＴＳＵＧＡＩされかねません。

＞電話だ。
「霧子か。駅回りでスズネと思しき少女が見つかったらしい。お前に頼み続けるのは申し訳ないと思うが…見回り頼む。」
「りょーかい。今度こそ片づけてやりますよ。」
一応やちよにも電話を入れて…
パトロール、行ってみましょう！

～ｓｉｄｅ：いろは～
以前神浜に来てから、同じ夢ばっかりみる。
知らない少女が出てくる夢。そして、小さいキュウべえのこと。その真相を探るために神浜にきたんだけど…とても神浜の空気が悪い。魔女が多いのもその一つなんだろうけど、それ以外の何かがあるような気がする。
私たち魔法少女は人々を守るために魔女と戦う…けど‥
「っっうっ！」
今回の魔女はとても強い。何発ボウガンを打っても攻撃がきく様子がないし、使い魔に関してもよそとは比べ物にならないくらい攻撃

が重い…ジェムも濁ってきた。このままじゃ負けてしまうかもしれない…魔女に跳ね飛ばされたとき――――

――――チリン

鈴の音が鳴り響いた。上から炎が降ってきて、魔女を切り裂く。

「大丈夫？私も協力するよ。」

現れたのは銀色の魔法少女。その子はとっても強くって、私が手も足も出なかった魔女を滅多切りにして倒してしまった。

「…私の名前は天乃鈴音。あなたの名前は？」

「私の名前は、環いろはです。あの…助けてくれてありがとうございます。」

「そう…さよなら」

「え…？」

一瞬で姿が掻き消える。炎の刃が迫ってきて…!?

あっぶねえええええええ!?

はい、今何が起きたかというと鈴音がいろはを襲ってました。これがハード版【ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴＩＯＮ】のイヤなところです。シナリオ進行に必要な魔法少女だろうが誰だろうが、無差別に頃しにきます。ＲＴＡ泣かせのイベの一つですが、【はじまりのいろは】に重なって発生しやがったようですね。

「朝倉霧子…邪魔をするの？」

「フン…これ以上神浜で暴れるようなら容赦はしない。ここでアンタを殺す。」

現在西洋剣でつばぜり合いしていますね。それとなく剣をずらしていって…ナイフに変化。そのまま攻げｋ…消えた!?十中八九姿を消す「陽炎」でしょう。とりあえず1年たってるので新技もあるかと

おもいます。範囲技があればいいんですけど……よし。
「そのまま動くなよ！」
いろはに接近！そして、霧子の掲げた手の上にどんどん糸が集まっていき…爆発！
この技が何かというと、魔力と糸を高圧で凝縮。そしてそれを解き放ちます。周りを巻き込んでしまうのが欠点です。だから、いろはに接近する必要があったんですね。
「っ痛ぁっ!?」
姿を現しましたね。いたるところに切り傷ができています。というか周囲全体に斬撃痕があります。
双剣を構えて突撃！…
と見せかけてぇ、メイス＆ハンマー！予想外、それは大質量！ですが鈴音も一筋縄ではいかないようですね。炎を大量に放出。この大質量を押し出し…てちょっと待って。進行方向にはいろはが!?ウアアアアこのままだといろはが死んじゃうぅぅぅぅ!?
「そこまでよ。」
青い槍が降ってきて、鈴音の進行を阻みましたよかった、（いろは）生きてるー！アーッハッハッハッハッハ！防いでくれたー！ハッハハッハ！生きてるぅー！
「そのピンクの保護を頼む！」
あとはやちよさんにいろはの保護を適当に頼んで…銃撃！鈴音を足止め！大剣で切りかかり！
「つまだまだ！」
「炎舞」で焼き切られましたね。しかしこちらもナックルガントレット生成！防御！からのぉ～
「ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯ」
次々武器を変えて連撃連撃ぃ!!ははははどうしたどうしたぁ!!最初の威勢はどこ行ったぁ！
そしてネックレスのソウルジェムに向けて西洋剣をシュウー！
あれ、殺す気でやっていいかですって？いいのです。そもそも鈴音はこの状態では絶対に殺せません

なぜかって？それは…

「困るなぁ、そいつを殺されるとさ、」

クレイジーサイコレズ（日向華々莉）がやってくるからです。

そういうわけで、ご視聴ありがとうございました。

5：カガリ・調整屋・はじまりのいろは

……はい。ぅあ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”!デタァァァァァァァァァァ!

落ち着きました。彼女こそすずね☆マギカの真の黒幕。ラスボスである『日向　華々莉』でございます。

彼女の固有魔法は『記憶操作』この魔法を使い鈴音を操り、魔法少女を『鈴音の意思で』ＳＡＴＳＵＧＡＩさせました。そのすべては椿を奪った鈴音への復讐のためという思い込みに満ちた筋金入りの吐き気を催す邪悪です。その性格から通常プレイでは和解はほぼ不可能。下手に取り逃がしたら更紗帆奈と同等かそれ以上のガバメーカーと化します。一応鈴音を見捨ててホオズキ市にぶちこめば復讐を完遂して安らかに魔女ってくれるのが救いですが…救いってなんだよ（哲学

戦闘面でも厄介で、その固有魔法で幻を見せ、華々莉を倒したと思ったらそれは仲間でした…という事故を引き起こします。しかも精神攻撃もお手の物。とりあえず殺されないようにしましょう。ここでは最悪魔女化はしないと思われます。いろはが来ている時点で逆説的にマギウスが結成されてるとも言えますから

「あ…」

＞紫の魔法少女が突然倒れ伏したスズネを抱えている…年下だとは思うが油断はできない。

最悪鈴音の司令塔である可能性もある。その場合はここで抹殺するのも辞さない。

（不正解では）ないです。ですが冷静にここまで思考を整理しかつ半ば真実に気づきかけるとは…かなり有能じゃな？

「まて。アンタ何が目的だ？見たところスズネを回収にでも来たのか？」

「ま～そんなところだよ。で、分かったんならさっさとあっちいってくんない？私はそい

つを運びたいだけなんだけど。」

〉追跡用糸
……工事完了です……（達成感

「はいはい、他人の事情に口出しはしませんよっと。」
去っていくように見せかけて…もう手は打ってあります。霧子の左中指と華々莉の足首を極細の糸で結びました。強度も折り紙つきです。とりあえずすずマギに手を出すかは未定ですがやって損はないでしょう。これはＲＴＡではなくただの実況プレイです。ガバがなんぼのもんじゃい！かかってきやがれ！
〉視界がゆがむ…!?…俺は何をしようとしていた？あいつは…な…
ッギャアアアアアアアア!!!!（リンボ
とりあえずジェム割りはしないで！何でもしますから！（霧子が画面がブラックアウトしましたね。…ガメオベラは嫌だガメオベラは嫌だガメオベラは嫌だ…

「……ちゃん！……こちゃん!?…きりこちゃん!!!」
「……鶴乃か？…悪い、心配かけた。」
「良かったぁ～目が覚めなかったらどうしようと……」
生きてる～！はっはっは！目立った精神異常もなし～！
交友関係を見ましたが特に文字化けは増えてませんでした。これは「名　前　を　知　ら　な　い　か　ら」　で　す　ね。あのクレイジーサイコアーティストと出くわしても名前を教えられない限りは交友関係リストに乗りません。

「大丈夫？何されたの？まさか…」
「あー多分魔女だわ。」
「…ほんと？たしかスズネの追跡を頼んで、それで駅前近くに行ったって。」
「……？」
「そうみゃーこ先輩が…」
「ちょちまて鶴乃。話が追い付かない。そもそも…スズネって誰だ？」
「……霧子ちゃん？」
「鶴乃の話では俺はスズネとやらを追いに駅前に行ったそうじゃないか。俺は…あれ？」
「とりあえず調整屋いこ。何かわかるかも。」
鶴乃のおかげで記憶の違和感に気づけましたね。しかし華々莉の干渉を受けて記憶抹消だけとは。相当運がよかったですね。最悪認識をいじられて周りがすべて魔女に見えるとかされるリスクもあったんですが。
まぁいいでしょう。（元マスターロゴス
とりあえず調整屋へイクゾー
～（調整屋へ移動中）～
はいつきました調整屋です。ていうか普通にできてたんですね。みたまもちゃんといます。ここではソウルジェムの調整でステータスを割り振りできま……今どうやら食事中のようですね。誘われても絶対食べちゃいけません。デバフのオンパレードで最悪死にます。
「あらいらっしゃ～い♪」
「おいまてその物体はなんだ」
「オムライスよ～」
「たぶんオムライスはそんな色しない。」
「それよりみたまさん。霧子ちゃんを診て欲しいんだけど。」
「ああそうだった。どうも鶴乃がいうに俺には記憶の欠落があるらしい。グリーフシードはあるからそれを探ってくれないか？一応都も呼んでくれ。スズネとやらで関係あるらしいから。」

「わかったわよ～。」
ひなのが呼ばれたので、待ち時間ついでにステータスの割り振りをしましょう。とりあえず速度に４割、攻撃に５割、耐久に１割…

～ｓｉｄｅカガリ～
「ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯ」
うーん、少しまずいな。スズネちゃんを絶望させるために魔法少女殺しをするように仕向けたけど、このままだとスズネちゃん自身が死んじゃうし、この町の魔法少女の実力も高い。彼女じゃなくともスズネちゃんを殺しえるかもしれない。それじゃあ意味がない。
少し邪魔をしよう。スズネちゃんが勝てない魔法少女もいるし、この町ともお別れかな？
「まて。アンタ何が目的だ？見たところスズネを回収にでも来たのか？」
まーそんなところだよ。どうせ、もう覚えていないだろうけど。
ソイツが背を向けた瞬間記憶操作の魔法をかける。
さて、私の復讐の邪魔をしたんだ。どう壊し……な～るほど。
すでに”先客”がいたんだ。かなりイイ趣味の仕掛けをしてるじゃない。
そのせいでこっちがロクに干渉できないけど。
とりあえず私たち関連のことは忘れてもらおう。さて、そろそろキュウベえからも通告が来てるし、ちょっと早いけどホオズキ市で仕上げと行こうじゃない。私からツバキがとられた場所で…ね？

「…ということは朝倉、お前はスズネのことをきれいさっぱり忘れているのか。」
「どうもそうらしい。…やっぱり厄介だな。記憶操作というものは。」
「みたまさん、ほかに手掛かりはないの？」
「う～ん、前にもそうだったけど、やっぱり探りにくいわねぇ…ちょっと待って。霧子ちゃん。少し左中指の先に魔力を込めてみて。」
「りょーかい…これは・糸か？」
「おぉ、１０センチぐらいしか見えないけどどこかにつながってそう！」
「少ししか可視化してないけど、おそらくその先に記憶を消した人がいるのでしょうね…」
「それをたどればおそらく黒幕のもとへ行けるかもな…スズネの件で不安な思いをしている魔法少女も多い。１週間前に常盤が最初に発見していなければ数人犠牲になっていただろうな。ここで禍根を断っておくか？」

ということで、自分に糸がついていることを自覚したことで、華々莉のもとへ向かえるようになりました。正確にはすずマギ介入フラグが立ったということですね。
さてすずマギ介入ですが…この後アンケートをとってその結果に従うとしましょう。
とりあえず適当に解散しましょうか。
「……俺の所感では、この町にまだ残ってる確率は少ないと思うけどな。もしこの後もこの町で殺しを続けたいなら、俺の記憶を消さんでも俺の意識を混濁させてから殺したほうが都合がいい。」

「しかし朝倉、中央の魔法少女たちは不安にさいなまれているんだ。彼女たちを悪く言うようだが黒幕の血を見ないと収まらない。無理にとは言わないが…頼む。最近はウワサとやらもいるらしい。不安の種は少ないほうがいいからな。」
「検討します。」
少し鶴乃ちゃんを愛でてからいろはを探しに行きましょうか。
やっぱり神浜の魔法少女情勢が不安定になってるのか、よその町に行って黒幕をたたこうという選択肢が出てきましたね。
「じゃあまたねー。霧子ちゃん。」
「おう。またな。」

とりあえず適当な魔女結界の周りに…いましたね。

「さっきも言ったけどここは危険な街よ。いくら調整を受けたとしてもあなたが生き残れるとは思えない。命を失わないうちに帰りなさい。」
「でも…私、目的があってこの町に来たんです！…だから。」
俗にいう初邂逅イベです。本来ならももこの助けがあるんですが…とりあえずいろはが今後も神浜にいられるように協力しましょう。やちよに自分も協力すると取り付けて、魔女結界の中で神浜に来た理由を聞いて…
「あの…あのときは助けてくれてありがとうございました。」
「そういえばいったいどうしてこんな町に来たんだ。魔女を狩るんならほかの町でもいいだろうに。」
「いえ…実は私、最近変な夢ばっかり見て…その原因を探しに来たんです。」
「変な夢ねぇ…調整は受けたんだろ。下手な精神干渉ならわかると思うんだが。」
「原因はもうわかってるんです。小さなキュウべえ。あの子を見つければほかに何かわかるかもしれません。」
「……わかった。外見はどんな感じだ？」

いろはから小さいキュウべえの外見を聞いたことで自分で探すことができるようになりました。てかさっそくいましたね。こちらをじっと見つめています。
「いた！」
「よそ見していていいのかしら、さきに失礼するわね。」
「あんたは魔女をやれ！
俺があの小さいキュウべえをつかまえるから！」
結界中に糸を張り巡らせて…収束！捕獲完了！だてに3年も魔法少女をやってるわけじゃありませんからね！いろはが魔女にとどめを刺し、やちよからも一応認められたところで小キュウべえを引き渡しますが…ここで一つ問題が発生します。
「……!?」
いろはが意識を失ってしまいます。それをみたやちよがやはり小キュウべえは危険と判断し、小キュウべえを殺そうとしてくるんですよね…とりあえず止めて言いくるめましょう。
「どうして止めるの？そいつが危険かどうか、今わかったでしょう。」
「いや、一度頼みを引き受けたんだ。客がどんな形であれ注文が完了するまで面倒見るのが常ってもんだろ。」
「混沌事変を忘れたというの？もし起き上がったこの子が暴れ始めたらどう言い訳するつもり？」
「ま、その場合は俺が鎮圧する。」
「さ、お目覚めだ。」
いろはがういを思い出したことを伝えたので今回はここまで。
それではまた次回！

ｅｘ：みんなから見た霧子

ｓｉｄｅ：七海　やちよ

この町に根付いてる東西問題。それが最近になって再燃してきた。なんでもあちこちで魔法少女が敵対する区の魔法少女に襲撃を受けているらしい。これを仲裁・解決に導かなければ西のトップとしての名が地に落ち、東西が戦争状態になってしまう深刻な事態になりかねない。

「で、なんでついてきてるの。」

「いや～俺もその魔法少女に襲われまして。いろいろ原因を探りたいんですよ。」

「あなたが介入する問題じゃないわ。」

「ししょー、教えてあげてよ。私たちだってこれを解決したいんだから。一緒に動く人は多いほうがいいよ。」

少し前に神浜に来た…というより流れ着いた朝倉霧子。最初に発見したというつながりからか鶴乃と仲良くなっていて、今では神浜になじみ切っている。グリーフシードの取り分が減ったとかいううわさが出ないのも不思議だけど、鶴乃もうれしそうだし、ほかの魔法少女からの反感もなく一程度の信頼を得られている。

この問題には市街の魔法少女はかかわりにくいとは思うけど…教えられるだけ教えましょうか。

「つまりしくったらしっちゃかめっちゃかの戦争状態になる…か。」

「あなたには解決できないでしょうけどね。」

「そういってるあんたも手間取ってる様子で。」

少し言葉を交わしてから分かれる。一時の抑えにしかならないけど仲裁をしたり、魔女を狩る必要があるから。

～翌日～

「やっちゃん！魔力反応、そっちに行きました！」
「わかったわみふゆ！」
魔力反応から魔女を追う。みふゆが突然強い反応を感じて、そのあとに私も強い反応を感じ取った。メルとももこ、鶴乃も呼んでおいて……!?
周囲の風景が切り替わる。魔女の結界だ。黒いトカゲのような魔女。けれど…
「魔力反応の割にはかなり小さいわね。」
「それでも反応としては一緒です。倒しますよ！」
戦いは拍子抜けするほど早く済んだ。私とみふゆがそれぞれ魔力を強く含ませた武器で一撃。ただそれだけ。
「結局グリーフシードもなかったわね。」
「…やっちゃん。あれって…」
見かけたのは黄色の魔法少女と、黒い魔法少女。いや、この黒い魔法少女は朝倉霧子だろう。何を話しているの…？
「あんたはどこから来たんだ？というか誰だ？」
「私はあなたと敵対する区の魔法少女だよ」
「で、あんた何が目的だ？金？縄張り？グリーフシード？」
「私はあなたと敵対する区の魔法少女だよ」
「あんたはだれを狙ってる？それとも…魔法少女ならだれでもいいのか？」
「私はあなたと敵対する区の魔法少女だよ」
不思議とかみ合わない会話。しかしそれは突然に途切れる。
「じゃあ西のトップもいることですし…終わらせますか。」
突如霧子が飛びのき、その手にナイフが出現したかと思うと、それは一瞬で剣となり…黄色の魔法少女の首をはねた。
「っ!!何をしてるの！」
本当に何をやってるのかしら!?こんなことをしたら、それこそ取り返しのつかない事態に…！
「ああ、町のトップ格にちょうど見せたいものがあってね。」

「今のはどう見ても殺人行為です。場合によっては…」
「見ろよこれ、殺人だの言ってるが、人ですらねーぞ。」
首をはねられた魔法少女のほうを見る。そこには本来流れるはずの血はなく、代わりに光が立ち上り、消滅していった。
「…これ…どちらかというと使い魔に似てます。」
「おそらく”そういう使い魔”だ。魔力を気にせず戦うことはできるが戦い方はお粗末。おまけにロクな知性もないときた。話せばすぐに見分けられるぜ」
「ええ…すぐに東西中央で会議を開くわ。…感謝するわ、あなたのおかげで東西の対立は避けられそうだもの。」
「じゃあ俺はこれで…」
「ちょっと待ってください。あなたにも重要参考人として来てもらいますよ?」
「うげ」
みふゆに引っ張られていく霧子。
のちの事情聴取で事故的に中央の魔法少女が事故的に偽魔法少女を殺害。その際の現象を目撃した霧子が私たちに見せるために偽魔法少女を殺害したことが判明した。
やり方に関しては過激だけど、東西戦争の危機は回避された。これからは偽魔法少女の大本と思われる魔女の討伐に行く。一人も犠牲が出なければいいのだけど…

～side out～

side：三栗　あやめ
「そこだー！」
「終わらせる！」
夏の昼下がり、私たちは魔女を狩る。

「ふー！疲れたつかれた！」
「今回はハズレか。ほれ、使え。」
「いーのか？」
「俺は先に済ませたからな。」
　私たちは今、カザミノっていう町にいる。葉月やこのはには内緒だけど、友達ができたんだ。
「ねー、次は何する？」
「……」
　けど、キリコはなんだか変な表情。前から思ってたけど結構顔に出やすいのかな。そしてこういう時はたいてい悲しそうな表情か申し訳なさそうな表情なんだ。
「どーしたの？」
「…ああ、実はここでちょっとあってな。」
　悲しげな表情。このはが園長先生を思い出してる時のような。
「…少し席外してもいいか。」
「え～、どーしたのさ～」
　このままだとどこかへ行って、そのままいなくなってしまう。そう思った。
「…あやめにはあまり関係ないだろう」
「あのさ、キリコ。つらいことあったら言ってよ。たぶん、それだけで少しは楽になると思うから。」
「…そっか。」
　過去の話が語られる。
「昔、俺が魔法少女になりたての頃友達がいたんだ。同業のさ。」
「それなりに楽しく過ごせてたさ。けどある日魔法少女のバカ共が風見野を牛耳ったんだ。あいつら力だけはあったからな。そいつらのせいで、友達が死んじまったんだよ。まぁあのとき一緒にいれなかった俺にも責はあるがな…そのあとはあのバカ共を処理した。」
「…ごめん、けど、少しは吐き出せて楽になったか？」
「ああ。…久しぶりにお参りに行くか。」
「あちしもついてくよ」

明日からカミハマってところに行くらしい。その時にこのはと葉月にキリコのことを伝えよう。受け入れてくれたらいいな…いや、受け入れてもらうんだ。あちしたち3人だけじゃない。ほかにも仲間ができるんだって。

～side　out～

side：優木　沙々

ホンッッットーにムカつく。新しく契約した奴ら。全員私の嫌いな部類のやつらじゃねーか。

強さばっかり振り回して。まぁあいつと仲の良かった奴が死んだらしいのはいい気味だけど。

いつもいつも邪魔してばっかり。何度顔面つぶされたか…まぁ核（ソウルジェム）をつぶされない限り死なないってことがわかったけどさ。

っと。魔女の反応。まぁ稼ぎに行きますか。

魔女を片づけたら、奴らがいた。せっかくだから私の魔法で遊んでやったよ。私の魔法は『強者操作』私より強ければだれでも操れる無敵の魔法だ。てきとうに一人選んで操ってやった。ほらほらどーだい。抵抗しなきゃ死ぬよー？ま、てめーらは攻撃できないだろうがな！

魔女もけしかける。うまくいけばグリーフシードもてに入…っ!?

奴らの一人からの感覚が”はじける”まさか自分で洗脳を解除しやがったってことかよ！

やめだにげようころされる！

逃げ回っていたら十字路に黒い魔法少女…霧子か。ちょうどいいこいつを洗脳して手ごまにして…って偽物か。糸に分解しちまった。その糸が形を作る。何々…『右へ行け』？

はっ誰が従うかよ。逆側に行ってみると凄まじい魔力を感じた。魔女としては上玉だ。すぐに駒にしてやったよ。コイツであの新入りどもを襲撃しようとも思ったけど、今日は見つからなかった。

翌日。新人どもを追跡してみる。どうもあいつら、とてもまずいことになっているようだ。狩る魔女は種無しばかり。しかも無駄に強いし、学校周りでもよくないこと続き…やめようこの話は。私にも当てはまる…この分だと数日ほどで憔悴しきるだろうな。その時に襲撃しよう。

”その時”は最悪な形になった。

私が魔女を使って追い詰めたまでは良いんだ。あいつらもかなり弱っていて、痛覚を切って突撃したり、前まで使っていた魔法を使えなかった奴もいた。全部私の魔女で対処できる。

そして霧子が来て、魔女が沸き上がった。何匹の魔女だ？１０？２０？そして霧子が奴らの一人に何かを突き付けて何か言ったら…

ソウルジェムが砕けてグリーフシードになった。嘘だ。そんな。

当然あいつらにとっても絶望そのものだろう。蜘蛛の子を散らすように逃げていくが魔女に阻まれ、霧子に追いつかれ、一人、また一人と殺されていく。血は流されない。ただソウルジェムのみが的確に砕かれていく。

こんなところにいたら私も殺されるのか？いやだ、いやだ、とっさに適当な魔女に洗脳をかけ…ちょっと待て。この魔女が生まれた時見たもの…、霧子か？じゃああの魔女は全部霧子が用意した…!?結界から抜け出し、自害させる。得たグリーフシードでソウルジェムを浄化する。けれどなかなか穢れが落ちない。どれほどの時間がたっただろう。私の目の前に霧子が顕れた。

「よっ！」

「ひぃっ!?な、やめて、見逃してくれ、ていうかあれはなんだ!?ソウルジェムがグリーフシードに…ていうかあの魔女ども、てｍ…」

「あ～、とりあえず心を落ち着かせたほうがいいぜ？あんたもあいつ

らのようにはなりたくないだろ？精神が負の感情に傾いてるとジェムは汚れる。なんたって俺らの魂だからな。穢れの生成に浄化が追い付いてないんだわ。」
　言葉の調子はいつもものだった。けどいつも浮かべていた笑みはなく、ただ能面のような無表情だった。６人殺しておいてなお平然としている様子は恐ろしかった。
「いったい、なんなんですかあいつら、ソウルジェムが…」
「けがれ切ったソウルジェムはグリーフシードになる。俺の友達もそれで死んだ。あいつらのせいでグリーフシードが不足してな。これが知れ渡ったらどうなるだろうな？あちこちで戦争が始まりかねない。この魔法少女の数だ。民間にも被害が及ぶかもしれない。そうなるのはあのインディアンちゃんとの契約的にまずいことになる。」
「なんでてめーは平然としてられんだよ！あんなの、ひどすぎ…」
「そうか？俺は”そういう最期”として受け入れた。それと…」
　理解できない。なんでこれで平然としていられる？震えが止まらない。この状況は、いやあいつらの不調もすべて霧子が仕立て上げたものという確信からくる恐怖が心を蝕む。突然吊り上げられた。見るとソウルジェムにも糸がかかっている。
「ま、俺はこれで立ち去るとするよ。アンタも逃げたほうがいいぜ？」
　霧子の姿が消える。糸も崩れ落ちた。逃げよう。あんなのになるなんてごめんだ。
　もっと魔女が多いところに。霧子がいないところに。早く、早く、早く…！
～ｓｉｄｅ　ｏｕｔ～

ホオズキ市編～ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴＩＯＮ～

６：ホオズキ市介入下準備その１

アンケート結果に従い、ホオズキ市へ介入することにしました！

ということで早速突入…するのは二流、否、三流にて。拙僧は一流を志しておりますれば（羅刹王

難易度ハードでホオズキ市ツアーは普通に死ねます。単純に強いシリアルキラー（天乃鈴音）や策謀攪乱なんでもござれの駄々っ子（日向華々莉）、下手したら一般魔法少女，ｓも敵に回りかねません。

一応目的は定めてあります。まずホオズキ市の魔法少女生存に伴うスズネの生存及び味方化。そして日向華々莉の始末です。

前者は難易度ハード神浜における仲間ユニットを増やすためですね。そしてスズネを生存させるうえではどうしてもホオズキ市の魔法少女を助けなければなりません。このゲームの仕様上、ホオズキ市の魔法少女が一人でも鈴音の手によってＳＡＴＳＵＧＡＩされていると原作エンド（鈴音自害）になってしまうんですよね。一応時期的には【ＣＲＯＳＳ　ＣＯＮＮＥＣＴＩＯＮ】直後なのである程度は生きている確率が高いと思いますが。単純に私がそういうのは嫌っていうのもありますし。そしてここは修羅の国（難易度ハード一年放置神浜）。仲間は多いほうがいいです。

そして次に華々莉の始末は…これは実はそれほど優先度は高くないです。もし仮に鈴音が死ぬようなことになった場合燃え尽きて無害化して遅かれ早かれ魔女化死します。ただし鈴音を助けるなら話は別。もし華々莉放置で鈴音と仲間になった場合確実にこっちまで被害が及びます。それを避けるために今華々莉を始末する必要が生じるわけですね。

ということで調整屋に知らせに行きましょう。

「わかったわ…鶴乃ちゃんたちにも知らせる？」

「いや、いい。鶴乃はいろはに（西のトップの近く）つける。」

「そう…一人で抱え込んでるといつか潰れるわよぉ」

「ああ、今回は助っ人も用意しないとな。」
＞＞助っ人を探そう。
さて、ホオズキ市…否、カガリへの対処には助っ人が入用になるでしょうね。
カガリは精神系なので本来なら同じ精神系の帆奈を相手取っていたななか組長あたりがよろしいでしょうか…そのためにはかこや美雨と会う必要が出てきますが…
おや、選択肢が出てきましたｎ…
↓インキュベーターに聞く
盗聴糸などを仕掛ける
なんでそんなのがでてくるの
はい完全に外伝ボス的思考です本当にありがとうございました。
まずあんな方法とろうもんなら確実に組長は協力してくれなくなるでしょう。
とりあえずななか組長と手を結ぶために先駆者様たちはウォールナッツやらブロッサムやらでイベントを起こしていましたが…
１年放置神浜では軒並み潰れてました
あーもうめちゃくちゃだよ（ｎ回目。まぁブロッサムでバイトしているかこがどうなってるか知りませんがもし生きていればいい傾向です。まず確実に夏目書房を守りにかかるので行動範囲が絞りやすくなるんですよね。店員対応で会話は弾みませんがストーキングなり張り込みなりしてななか組長を補足できればどうにでもなります。
あとは燦ですが…おそらく今はマギウスの翼で白羽根やってるでしょうね。好感度次第ですが高確率で白羽根稼業を優先してくるのでこの先戦うことになりそうですし下手に白羽根に接触すれば勧誘地獄が始まります。
というわけで鶴乃にいろはの護衛を頼んで、夏目書房…イクゾー！
（デッデッデデデデー・カーン

～少女移動中～

つきました夏目書房。入店してカウンターを見て…いましたね。あそこで会計をしている緑色の髪の娘が「夏目　かこ」です。そしてカウンターで会計してるのは…「純　美雨」と「志伸　あきら」そして「常盤　ななか」ではありませんか！今すぐに話しかけたいですが聞き耳を立ててみましょうか…

～ｓｉｄｅ　ｏｕｔ～

～ｓｉｄｅ　あきら～

「…じゃあ、この花の集まりの名前は知ってるネ？」

「…すみません。きれいなのはわかりますが、名前は…」

ボクたちは今かこの夏目書房にいる。この1年、色んなことがあった…

ななかたちの復讐相手たる【飛蝗】は討伐した。けれど、黒幕の【混沌】がいて、ななかは…

「秋の七草だよ、ななか。」

「いまだ思い出せず…道のりは長そうアル。」

復讐の理由。魔法少女としての意義でもあった華心流…華道のことを、さっぱり忘れてしまっていた。

7：ホオズキ市介入下準備その2

――なんて？

はい。どんな内容が聞き取れたかというと組長が記憶を失っていました。えぇ…（困惑

ゆきちゃん化してる組長は見たことがありますので衝撃はまだ少ないですが。

みゃーこ先輩の話では彼女が鈴音を発見・撃退したらしいのですが…

ダメ元で話しかけてみましょう。

「すまんが、あんたが都のいってた常盤ってやつであってるか？」

「…そうですが。」

「鈴音のことで話がしたい。」

「ちょっと待つネ。アナタの名前は…」

「朝倉霧子。あとアンタらの話を盗み聞きしたようで悪いが、記憶、戻せるってがあるかもしれんぞ。」

「霧子…!?ってことは、混沌事変を収めたっていう!?」

「…噂になってたのか。結果だけ見ればそうだな。それはそれとして、続きは書房の裏路地でいいか？」

「ええ、では。」

「ななか!?」

帆奈をＳＡＴＳＵＧＡＩ…すなわち昏倒事件を解決した実績で少しは話を聞いてもらえるということでしょうか。

「ですがあなた自身の目的は何ですか？それを聞かない限りは話に乗りません」

「天乃鈴音による魔法少女襲撃の完全解決。都からの依頼だ。」

「私が戦った魔法少女…その後ろに黒幕がいると？」

「ああ、おあつらえ向きに精神系だ。この黒幕を生け捕りにする。実行犯（スズネ）もだ。あとは煮るなり焼くなりソウルジェム（命）握るなり。記憶を復旧してもらえばいい。」

「その話…信ずるに値するとお見受けします。ですが…私とお手合わ

せ願えませんか。あなたの実力、試させてもらいます。」
「おう、それで協力してくれるんなら。」

―魔法少女戦・常盤ななか―

　というわけで始まりましたななか戦！普通の神浜ならば組長に勧誘されたときそれを蹴ると発生するイベントです。ある程度の腕のプレイヤーを想定しているためか難易度は高いです。組長の戦い方は”出方を伺ってから相手を見極め、こちらの攻め所を探して揺さぶる”こと。これをどう対処するかが勝負の分かれ目になってきます。
　今はお互い出方をうかがってるようですが…ここで霧子の固有魔法「糸」を存分に活用しましょう。自己生存の願いの魔法少女が持つ魔法の中でもトップクラスに使い勝手がいい魔法です。
　マミさんのリボンより高い隠密性を生かして組長の足元に張り巡らして…って跳躍して切りかかってきましたね。しかし空中でも糸配置。即席の糸なので切れやすいですが体勢を崩すには十分。そこを銃で…はじかれましたね。だてに魔法少女集団の組長やってるわけではありません。普通に銃撃続けてもたぶん全弾よけられるので接近戦に持ち込みましょう。双剣で切り結びつつ、メイスに変化させます。これでたいていの魔法少女は体勢を崩します。
「っ…！」
「チェックメイト」
　工事完了。やっぱり一挙に複数の武器を扱えるのはチートじみてますね。組長も霧子の実力を認めてくれたようです。協力を取り付けて…それではまた次回！

～side：なな か～

私はなんで魔法少女になったのかわからない…いや、忘れてしまったといっていいでしょう。

仲間がいて、魔女を倒しかったのは覚えています。けれども何故倒したかったのかがわかりません。

あるのはただ敵を探すという魔法だけ。私には彼女らを魔法少女に誘った責任がある。そのためにも私は記憶を取り戻す必要があるのです。

「記憶、戻せるってがあるかもしれんぞ。」

混沌事変を解決したという朝倉霧子。その一言はただの都合のいい戯言であるのかもしれません。けれど私には、福音に聞こえたのです。

彼女の実力は本物。私の魔法も反応していない。今まで記憶を取り戻すために様々な努力をしてきました。それをこのホオズキ市で、何としても、結実させなくては。

８・ホオズキ市突入まで

前回は組長に協力を取り付けて終わりました。ということでまず明日ホオズキ市へ行くよう伝えましょう。そのあとでまた別の準備です。グリーフシードは今は十分にあるので…

＞＞風見野へ行こう。仕事道具がある。

また選択肢が出てきましたね。ストーリーを重視するなら魔法少女からの選択に従うが吉。ささささがいるかもしれませんが行ってみましょう！なお資金はＡＴＭ（杏子方式）破壊で調達してるようです。風見野市のＡＴＭ事情はどうなってるのでしょうか。実際違法。画面の前のみんなはマネしないでね！

電車を乗り継いで風見野市。路地裏のプレハブに近づいて、その地下を捜索…ってええ…

でるわでるわ盗聴器にＧＰＳ。ほむほむかな？一応すずマギの黒幕はカガリなんで証拠取りとしては要りようです。カメラに魔力エンチャしたら魔女も撮れますし。

さて、ホオズキ市介入チャート（即席）に従ってまずはホオズキ市に直行。穂香　佳奈美の救出を行います。ｐａｒｔ６でも言及した通り鈴音はホオズキ市の魔法少女を一人でもＳＡＴＳＵＧＡＩしていた場合確定で自害します。それを防ぐためにはトップバッターで襲われる佳奈美を助けなければいけないんですよね。千里たちを助けたと思いきや佳奈美を漏らしていたせいで原作エンドになったときぁコントローラーをぶん投げましたよ。

しかし今霧子ちゃんはカガリに顔が割れています。のこのこホオズキ市に行ったらなんで覚えてやがる!?（被害妄想

ってことになってぶっ殺されます。さて、これをどうにかするには

・外見が異なること

・魔力反応が異なること

が条件になりますね。さて、ここで固有魔法【糸】の出番です！外見は白フードを作ればつくろえます。衣装も細部を糸で作ったもので覆えばよい。魔法少女は色が変わるだけでも結構印象が変わりま

す。
魔力反応については組長とコネクトしましょう。糸をコンセント代わりにつなげば遠隔でも行けます。神浜に戻りましょう。（無駄な行動というガバ
はい神浜につきました。組長とテレパシーをとって糸をコンセント代わりにコネクトを頼みます。…意外と早く来ましたね。それじゃあ…コネクトしようや…あっ、左中指への魔力は切っておきましょう。カガリに感づかれればすべてご破算です。お礼にグリーフシードを渡しましょう。確実に組長の魔力も吸うことになるので。
コネクト特有の魔法陣が出たら解散して電車に飛び乗ります。今はゲーム内時間で午後５時。もう魔法少女が活動し始めてもおかしくありません。電車の上で変装用衣装を生成して装着。ホオズキ市が見えてきたらジャンプ！建物を足場代わりにホオズキ市に急行していきます。ついたら盗聴器を自分に装備、ほかは偽装を施して各地に置いていきましょう。
そして今日は一晩中ホオズキ市を徘徊します。ホオズキ市で最初に鈴音に頃されるのは佳奈美で固定されているので佳奈美がいたら即護衛（ストーキング）しましょう。

～少女徘徊中～

だっるい。
さすがにホオズキ市を徘徊するのも疲れましたよもう…現在は深夜０時です…佳奈美殺されてないよね…？ってあそこにいるのは佳奈美じゃないですか！そばにいるのは鈴音って佳奈美が鈴音にお礼言ってます！早く急行…
っセーフ！セーフです！今は刀でつばぜり合いしてます。組長とのコネクト効果で舞い散る花のエフェクトがきれいですね。佳奈美に殺気を飛ばして逃走させてから
―魔法少女戦・天乃鈴音―
鈴音戦です！この場合スズネをへたに殺しかけるとまたカガリが

出てきますので霧子ちゃんにはスズネ相手に日が昇るまで耐久してもらいます。さすがにまずい？馬鹿野郎やるぞ俺は！
「あなたの名前は？名乗ったら苦しませないよう殺してあげる」
「…！」
剣撃！回避！浄化して濁ったグリーフシードを鈴音にデリバリー！幼体魔女を切り捨てて迫ってきますがまだ序の口です。姿を消したな？ソウルジェムを守りつつ背後に攻撃！あったりぃ！まだまだ行きますよ～イクイクッ！…

ヌッ！（日の出
「…まさか…こんなに粘るなんてね。次は殺してあげる。」
鈴音が去っていきます…
終わったぁ～！ハッハッハ！というわけで今回はここまで。ご視聴ありがとうございました！

～神浜市内にて～
魔女結界がほどけていく。
「大丈夫？」
環いろはが銀の少女に語り掛ける。
「うっ…ぐすっ…」
魔女結界にて恐ろしい目に遭ったのだろうか。先ずはこの子を送り返そう。そう思いつつ腕をとるも、いろはの目には無数の傷跡、円形のやけどが飛び込んできた。

「っ！ねえ、これ…」
頭に浮かんできたのは児童虐待、という言葉。親が子を虐げる。知識としては理解していたものの、実際に見るとあまりに実感がわかない。けれどこの子が暴力を受けていたのは事実。家に送り返すべきではない。なら…仮の住まいと言えど、みかづき荘にかくまおう。
「家には…やだっ」
「安心して、家には連れて行かないよ。」
「みかづき荘ってところがあるの。そこに行けば安心だから。ね？」
「本当…？」
「うん、みんな仲良くしてくれるよ、行こ？」
安心させるように語り掛ける。落ち着いたら家の位置を聞いて、そして警察に。この子の心の傷をいやしていこう…
いろはは考えをめぐらした。その少女が呪いの申し子であるとも知らずに。

9：ホオズキ市介入

鈴音を生き残らせる実況プレイ、はっじまっるよ～。

まず補充のために組長とのコネクトを切って市外にでて魔女を狩ります。出てきたのは薔薇園の魔女。大剣でたたきつけてれば斃れます次に…羊の魔女。ただの魔女狩りは味気ないからカットォ！ここからはスピーディーに行きますよ～。

次に学校周りを監視します。ただ魔法少女姿で飛び回ってたらなんだこの変態!?ってなるので望遠鏡を使いましょう。そのためにＡＴＭを破壊します。魔力痕跡を残さないために適当なレンガをもって高所に行って…こうじゃ（投下

これで札束を入手できます。この金で望遠鏡を買い遠距離から茜ヶ咲中学校を観察しましょう…やっぱりいましたね。鈴音。

あとはホオズキ市を散策…ってこのキャンプカー、出張調整屋じゃないですか！これならさらにチャートを盤石なものに…まず調整屋に入店しましょう。あそこにいる褐色のおねいさんがリヴィア・メディロス。ピンク髪のが佐和　月出里。茶髪の娘が篠目ヨヅルです。おめぇら（過去が）重いんだよ…

「いらっしゃい。」

注文は魔力出力の低下にしましょう。

「はぁ…これはまた珍しい注文やねぇ。」

できることは少なくなりますがこの調整の利点は魔力サーチに引っ掛かりにくくなることです。カガリはハードモードになると周囲の魔力反応にも注意し始めるのでその対策ですね。これでカガリが何かやらかそうとしたときアンブッシュできるようにします。具体的になにするかと言うとストーキングですね。あと単純な魔力強化で武器にできるようにエアガンを購入しましょう。

午後3時になったということでホオズキ市駅で待ち構えましょう。ななか一派が来るのでホオズキ市の現状、そして鈴音のいる場所を伝えます。依頼はホオズキ市の魔法少女。それも茜ヶ咲中学校産のを守ること。前報酬としてグリーフシードを渡します。

そして食事ののちビル街を飛び回って…って千里の近くに鈴音がいるぅぅぅ！まずいですよ！ななか組を呼びつけて、鈴音をヘッドショット！血が飛び散ってグロいし千里はドン引きしてますが鈴音はまだ動いてます。

ここからはいかに鈴音に見つからずに鈴音の気を引けるかが勝負です！銃撃してすぐにほかのビルに飛び移り、また銃撃！上から撃っていたのではいつか補足されるのでまた別の場所に移って…おぉ、千里も善戦してますね。けど（お前も殺されるかもしれないので）フヨウラ!!撃って移動、千里の背後に回られたので射撃！これで何とか延命しています。

早く（ななか組）来てくださいなんでもしますから…

「させません！」

「――！常盤、ななか…」

「まさか本当の話だったとわね！」

「イヤッ!!」

ななか一派が来ましたね。銃撃は変わらず続けていきましょう。鈴音がだんだん押され始めてって消えた！そういや【陽炎】で姿消せましたねーwって笑ってる場合か。何とかして対応してクレメンス！……セーフ！

「どぉけぇぇぇぇ！」

「チサト！」

さらに3人乱入してきました。緑色のが日向　茉莉。このサツバツとしたすずマギの中でも最高クラスのぐう聖です。ちなみにこの子をはじめ複数のフラグを立てればカガリとの和解ができます。ピンク色のが成見　亜里紗。脳筋魔法少女です。このホオズキ市でも鈴音と対等にわたりあえるすごい娘です。黄色のが奏　遥香。この子の願いは姉を消すこと。マギカシリーズ随一のブラックな願いです。この願いのせいでほぼ確実に絶望→魔女化エンドになってしまいます。悲しいなぁ…

「なんでこんなことするの!?」

「知らないほうがいいわ。」

ここに茉莉がいるのでもし消えたとしても探知できます。さて、どうでるか…消えましたね。
まぁ８＋１対１で勝てるわけないやろ！
「というよりあなたたちは？見たところホオズキ市の魔法少女じゃなさそうだけど。」
「あぁ、ボクたちは神浜市の魔法少女だ。」
「”依頼主”の頼みに応じて、鈴音を追いに来ました。」
（朝倉さん、あなたも来たらどうですか？）
（ちょっと変装する。）
白い偽装をまとってホオズキ市チームの前に降り立ちましょう。
「私がその依頼主。顔に関してはわけあってさらせないのですけど、鈴音による襲撃事件の解決を目指しています」
おぉう、一人称まで変えてます。演技力すごいですね。
「なぜそのためにここに来たの？」
「友達が彼女の被害にあいました。彼女の無念に報いるために…けれども私はこの通り非力です。」
（チョット朝倉!?それって）
（いまは彼女に合わせよう？）
「今後は彼女たちと協力していただけませんか？」
「…わかったわ。アタシたちだけじゃあアイツには勝てなかった。」
「ふふ、分かってくれたようで何よりです。私たちは今日から数日間ホオズキ市に滞在しますので…」
平然と嘘をついてそれを信じ込ませるレベルとか、黒幕みたいですねぇ。とりあえず今日はここで解散しましょう。今日は金曜日ですので最低でも二日間彼女たちを生存させなければなりません。解散した後はななかたちと話しましょう。
（会話は念話のみで行おう）
（黒幕に見られてるかもしれないから…ですわね。）
（とりあえず今日あった人たちに調整屋が来てることを伝えてくれ。だいぶ強くなると思う。）
フリータイムでは糸をたどってカガリをストーキングします。現

在カガリの２０メートル後ろにいます。いろいろわめいてくれてるのでそれらすべてを録音します。そのあとはずっと追跡しましょう。距離は２０～２５ｍを維持。死角からずっとついていきます。幼女をつけ歩いてる不審者にしか見えませんが。これをカガリがやらかすまで続けます。まぁ見どころがなさすぎるのでカットォ！

昼になりましたね。人も多いので鈴音による襲撃もなし。カガリはいま図書館で本を読んでいますね。こうしているところを見るとただの美少女（実際復讐と無関係なところであえば普通に友好関係になれる。ただしフラグを立てないと氏ぬか頃される）なんですけどねぇ。…

「ねーねー、その本、とって？」

アイエエエ！マツリ！マツリナンデ!?カガリもコッチミテルウウウウ！

とにかく話を合わせましょう。茉莉は決戦中にＳＡＴＳＵＧＡＩされた場合下手人をカガリが鈴音そっちのけで殺しにいくほどカガリから大切にされています。ここで茉莉と仲良くしていればカガリに媚を売れます。ワンチャンただの偶然で処理してくれますし。

「トーマスとジュリシリーズか。」

「そう！知ってるの？」

「あぁ、猫のトーマスとネズミのジュリの追いかけっこ。いつ見ても飽きないし、何より協力する話がアツくていいんだよ！」

「そう！マツリのお気に入りの話はね…」

茉莉と霧子の絵本談義をシメに、今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

１０：ホオズキ市介入・残酷な真実

～ｓｉｄｅ：遥香～

「あなたがマツリのクラスメイトだったなんてね。」

日曜日、ななかという魔法少女に呼ばれるままに来てみると一昨日私たちを襲った魔法少女…天乃鈴音がいた。まさかマツリのクラスメイトだったなんてね。

「何ゆえ魔法少女狩りをするのですか。」

「知る必要はない…いえ、知らないほうがいいわ。私は何を言われようとこのやり方を変えない。また夜にあったら、私はあなたたちを殺す。」

殺すって…縄張り争いにしても過激すぎる。それよりも、これまで殺されたであろう人たちにも、家族がいて、やりたいこともあったはず…私が消した、消してしまった姉のように。

「私は正しいことをしている。私を止めたいのなら相応の行為で返すことね。」

スズネが去っていく。相応の行為っていうのはおそらく殺すということ…

「いきましょう奏さん。人が多い場では彼女は事を起こしません。」

とりあえずみんなで状況を整理したほうがいい。

私の家にみんなを招く。アリサ、マツリ、少し遅れてチサト。ななか達もいる。

ベクトルは違えどみんながこれ以上の争いを拒んでいる。彼女たちの意見をまとめるものとして、責任が重くのしかかる。けれどチサトに違和感があった。

「…キュウべえに聞いてみましょう。彼女の動機、それを知らないことには私たちのとるべき行動がわからないわ」

「呼んだかい？」

「あ、キュウちゃんちょうどいいところに。」

「鈴音と接触したんだね。それなら彼女が明かさないことについて聞いてくると思って呼ばれる前に来たんだ。」

「…少し、待ったを入れてよろしくて？」
「常盤さん、なにかあるの？」
「いえ、…その〝真実〟、聞くには相応の覚悟が要りようであるとお見受けします。生半可な覚悟で聞けば死ぬといってもいいほどの。あなたたち、その覚悟はおありですか？」
「なによ、それ程ヤバい話ってこと…？
　ねぇチサト、アンタ少しヘンだけど、昨日も念話答えてくれなかったし」
　話が進んでいく、悪い予感がするけど止められない。キュウべえの目が輝くと同時に映像が映し出される。その内容は…
「なによ、これ…じゃあ私たちが狩ってきた魔女って全部魔法少女だっていうの!?」
　魔法少女が魔女になるというものだった。魔女になった魔法少女はおそらく鈴音と親しかったもの。けれどその真実は到底受け入れられるものではなくて。
「ふざけないでよ！なんで教えてくれなかったの！」
「聞かれなかったからね。それにこの事実を受け入れられない子も多いんだ。ただはなして円滑な関係を破綻させるのはそれこそ非効率的だしね。」
「――！」
　アリサがキュウべえを叩き潰す。けれどすぐに〝ソレ〟は現れる。
「困るんだよね。むやみやたらに個体を潰されると。」
「なん、なのよ。魔法少女って、…キュウべえって!?」
「いいよ。教えてあげよう。少し長くなるけどね。」
　キュウべえが語り始めたのは宇宙の危機。宇宙の熱的死を回避するためエントロピーを超えるエネルギー、感情エネルギーを採取するための魔法少女システム。そしてソウルジェムの真実…魔法少女の魂はソウルジェムにあり、体はただの抜け殻という事実。
「何よ…アンタらのために人を辞めさせられたってこと……？」
「相応のｔ――」
「去りなさい。インキュベーター。」

ななかが冷酷に刀を突き付ける。キュウべえが逃げていく。
「常盤さん…？」
「これ以上アイツの話を聞いていても、いたずらにソウルジェムを濁らせるだけ…」
「常盤も知ってて黙ってたというの!?」
「やめよう？ナナカは悪くないよ…。」
「……ごめん、私、昨日魔女を狩ったとき居合わせた魔法少女に教えてもらったんだ、そして…」
「チサト…」
「ゆっくり、受け入れていこう。」
「そうね、…今日は解散しましょう。」
心を覆うのは後悔と不安。…私も魔女と同じ側になるのかもしれない。戦いを続けていればそのうち消費が浄化を上回り始めて…それにこの運命も、希望をかなえたのなら受け入れられる人はいるのだろうか。けれど私はほんの出来心で姉を消してしまった…罪の意識にさいなまれる。逃げるように眠りについた。

お　っ　は　ー
何とかクレイジーサイコレズ幼女を撒いたので再開です。で、今何してるかというと…
「その千里ってやつが固有魔法の解除ができるんだな？」

「そうだよ…君も飽きないね。個人情報の聞き出しをするためにこんなに個体をつぶすんだから。」
「ああ、これが終わってもお前らまたバラさなくなるからな。いい加減学習したらどうだ？」
さっきまで淫獣だったものがあたり一面に転がる～♪
周辺に散らばってる白いもの、すべてキュウべえの残骸です。固有魔法解除できる魔法少女教えないとその地のＱＢ全殺しするよ♡と脅しをかけ実行しました。お前おかしいよ…
おそらく霧子の狙いは千里をメイン戦力にカガリをたたくことでしょう。そのために魔法少女の真実を知ってもらうとかいう外道プランを組んでいるようですが千里はそれなりに強い娘です。魔法少女の真実を知っても大丈夫です。さぁそのためには舞台づくりです。
まず糸で偽物のソウルジェムを作り、その中に濁ったグリーフシードを封入。胸につけます。
適当な強い魔女は見繕ってますので千里を魔力つけた糸で誘導し、自身で戦っておきましょう。弱くなってるので当然傷がつきますが持ちこたえましょう。魔女の攻撃を躱して躱して…合間に強化エアガンを撃ちましょう。
「大丈夫!?」
「っぐ、来るな!!」
「ボロボロじゃない、手伝うわ！」
千里の加勢により魔女の体力が溶けていきます。そら（調整済み魔法少女が神浜市外の魔女と戦ったら）そうなるよ。ただ倒すだけじゃあ…ダメそうですね。
「ごめん、トドメはせめて、俺に刺させてくれ！」
「っあなたはまだ休んで…！」
千里が静止させてきますがありったけの魔力を込め、エアガンの形状維持分も回してぶっぱなします。
「っっ…」
「やっぱり！すぐに治すから、楽にしてて！」
グリーフシードをあてがってくれるので浄化して…ここからが演

技力の見せ所や。
「…にしても、なんでこんな無理をしたの？」
「…こいつだけは、俺が倒すべきだったから。仲間だったものとして、な。」
「…どういうこと…？…まさか!?」
「あんたが何を思ったのかは知らんが、たぶんその通りなんだろうな…」
「魔法少女は、そのソウルジェムが濁り切ると魔女になる…！」
「そんな…!?」
「俺たちは…キュウべえに騙されてたんだよ。」
ここでもう一押し。霧子ちゃんの胸の偽ジェムから魔女を孵化させます。これで（真実）わからせ完了！千里が何とか戦ってくれてるので撃破を確認次第ささっと結界から脱出しましょう。

～ｓｉｄｅ：霧子～
この事件の黒幕に対抗するためには、固有魔法への対策が必須。その点魔法の解除ができる千里は良い駒と言えるだろう。真実という

ものは早めに知っておくべきもの。下地は完璧。あとは鍛え上げるだけ。堪えてくれたようだし見込み通りだ。遥香は…おそらく退場するだろうな。彼女の覚悟の糧となってもらう。

「ハルカはね、とても頭がよくて、色んなことを教えてくれるの！」

茉莉の笑顔が心に浮かぶ。振り払え。そうだ。この計画を実行するにあたりホオズキ市の魔法少女は極論どうなってもいい。最低限求められるのは黒幕の証拠。ああ、でも、千里たちのチーム、いいチームだろうな。互いのことを心配し、信頼できるチームだろう。鈴音が来るまでは笑顔が絶えなくて、おそらく遥香のリカバリーもできて…

お前はまたそうやって笑顔を奪うのか？

黙れ。思考を止める。苦痛を無かったことにするのはあの虐待の中で慣れている。第一魔法少女の世界はそうだろう？如何に他人を利用するか。そして生き残るか…

どちらにせよ鈴音をある程度追い詰めるかすれば黒幕が出てくる。俺が鈴音を殺し、千里の魔法で黒幕の魔法を無力化し、ななかたちで引導を渡す。

そうだな、最低な部類に入るよ。俺は。けど、それはそれで、これはこれ。

俺はその時が来るまで裏に潜んで、やるべきことを実行していくだけなんだよ。

…なぁ、俺はなんで生きてるんだ？何人も犠牲にして、昨日の友だちに刃を向けて。出くわした魔法少女を利用して…もうやめだ。ジェムが濁る。ビルから飛び降りる。調整済みのこの人数であれば俺が出るまでもなく非調整の鈴音なら制圧できる。さあ出てこい黒幕。

11：決戦への狼煙

さて、引き続き決戦への準備を……ってあぶねぇ!?あきらさん!?美雨さん!?

オンドゥルルラギッタンディスカー！

「ななかをだますのはやめてもらって構わないか？」

「ウソもたいがいにするネ。」

あっこれ完全に記憶操作はいってますね。日向華々莉も本気モードというわけか。

この状況はかなりまずいです。ななかに連絡を取りましょう。

（お前んとこの仲間におそわれてるが、契約破綻ということでいいか？）

（いえ、私はそのような命令をっ…出していません！）

（誰と戦っている!?）

（かこです！急におかしくなって…！、おそらく、〝真の敵〟が動き出したといっていいでしょうね。）

ななか一派の組長以外がカガリに洗脳喰らったみたいですね。今の調整の霧子ちゃんでは少し厳しいですが、やりようはあります。まずはエアガンでけん制しつつ、ナイフを生成。銃は盾で近接で殴る。ヤーナム式でやりましょう。

あきらが殴り掛かってきたので銃で目を打ち抜きます。ソウルジェムが壊れない限り死なないから誤差だよ誤差！そのまま左手を切除して痛みに悶えてるうちに左手をスッて逃走！１００メートル！あきらの体は死ぬ！左手のガントレットにソウルジェム配置するキュウべえを恨みな！

「やはりワタシたちを陥れるためにっ！」

「まぁまぁ落ち着きなよ、ちゃんと返すから…さっ！」

つぎに美雨がかかと落としを食らわせてきますが銃で相殺。ソウルジェムめがけてこぶしが飛んできますので下によけて大腿骨の付け根あたりにナイフを食らわせます。背中に爪が刺さってますが痛覚遮断でいたくありません。それどころか美雨が体勢を崩したので

そのまま前転の要領で美雨の頭を地面に打ち付けましょう。爪から脱出してさらに追い打ち、ジェムを握って工事完了です。
「ぐ…あ…ワタシ…は…」
「正気に返ったか？今直すから痛覚切っとけ。」
切断面自体はきれいなので霧子の糸で縫合。あきらも同じようにして縫合。治癒魔法で損傷を治します。その後市外で落ち合います。
かこは花びらでできた縄みたいなものでぐるぐる巻きになってますね。
「そういえば、ソウルジェムの秘密は知ってるか？」
「ええ、穢れきるとどうなるか、も。」
「あきらはソウルジェムを放して意識不明にした。つければ直る。」
「――――！――――！」
組長がちょっと引いてる表情してますが会話を続行します。
「まぁ洗脳かなんか喰らったとしても、コイツらの言い分もわかるけどな。こんな胡散臭いやつ、信用に値しないだろ？命を失わないうちに神浜に帰ったほうがいい。」
「…私は、私の記憶を取り戻す。そのために貴方の依頼にこたえました。あきらを起こしてください。」
「そうか。…なら、アンタの覚悟、ぶつけてやってくれ。」
ソウルジェムをくっつけるとあきらが目覚めます。暴れだしても困るので念のため拘束しておきましたが…杞憂のようですね。かこの拘束も口は解いておきましょう
「っぷはっ！ななかさん、朝倉さんも言ってたようにこの町を出ましょう！そうすれば、貴方は死なないで済みます！記憶なんて、後から作れば！」
「…かこさんの言い分もわかります。このホオズキ市にいる黒幕は、混沌のような手合い。けれど、かこさん、あきらさん。私はあなたを魔法少女の世界に招いた責任がある。これは私のわがままであると同時に私の責務でもある…！私は記憶を取り戻すためにこの町に残ります。それに、彼女らを放っておいても後味が悪くなりますからね。」

「それがキミの覚悟なら、ボクはそれに付き合おう。」
「…私も、残ります。ななかさんを放っては帰れませんし。」
「私もネ。スズネに隠れる卑劣漢。引きずりだしてみせるヨ。」
　やっぱ魔法少女の絆を…最高やな！戦力もそろったので作戦会議と行きましょう！
「決まったか？」
「私たちはホオズキ市に残ります。あなたも当然付き合いますよね。」
「無論。じゃ、改めて自己紹介だ。俺は朝倉霧子。特別な魔法はないが、糸からいろんな武器を作れる。願い事は、生き延びるための力だ。その時はちょっと悲惨なことになっててね。」
「私も名乗りましょう。名前は常盤ななか。”真の敵を見極める”ことが私の魔法です。願い事については、すぐにその記憶を取り戻します。」
「ワタシの名は純美雨。できるコトは偽装することアル。ワタシの家族、蒼海幇を守るために契約したネ。」
「ボクは志伸あきら。弱点を探ることができる。魔女を倒すために契約したんだ。」
「私は夏目かこです。何かを〝再現〟できます。願い事は、火事で燃えた本屋を元に戻すことです…。」
「…よし。これから作戦会議だ。黒幕の見た目は、年にしておよそ13。髪の色は黒めの紫。髪を二つの輪状にして後頭部で束ねてる。」

～side：なな か～

仲間みんなで覚悟を確かめ合い、私たちは黒幕についての意見交換を始めました。記憶が戻らなくとも、もし鈴音が操られてるとすればあきらさんはほおってはおかないでしょうし。

「そいつが魔法少女襲撃事件で裏で糸を引いてるもの…」

「少し疑問なのですが、わざわざただ魔法少女を殺すために鈴音を操るものでしょうか。精神系の能力なら直接やれると…」

問題はそこです。かつての混沌事変では、私の記憶を消すことから始まり、殺し合いをさせる、不和を招くなどで多くの犠牲を出した魔法少女がいます。おそらく黒幕と同質の力を持った魔法少女。何か目的でもない限りそのような回りくどい手段はとらないでしょう。

「自分という犯人を浮かばせたくない、からかな。」

あきらさんのシンプルながら的確な答えに納得しかけますが霧子さんの一声がすぐ私を議論に引き戻します。

「少し早計だと思うぜ、あきら。５Ｗ１Ｈを考えろ。」

ｗｈｅｎ，ｗｈｅｒｅ，ｗｈｏ，ｗｈａｔ，ｗｈｙの５ステップ。かこさんから渡された推理小説にもあったセオリーでしたね。

「たしか…いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、でしたっけ。」

「いつ、は今だろう。どこで、はホオズキ市。だれが、はその黒幕。何を、は精神系能力で鈴音を操ることでの魔法少女連続殺害。さて、一つ足りてないものがないか？」

一つ一つ分別していく事項。自然と欠けたものが現れてきました。

「なぜ…！」

「そう、魔法少女襲撃事件そのものの動機だ。」

「もしかして、魔法少女が魔女になると知って自棄で魔法少女を殺してる、とか？」

「いや、その手合いはだいたい長く持たない。鈴音の動きは経験に裏打ちされたものだ。かなり長期にわたって活動している。その線はいったん保留だ。それで、かこ。何か言いたいようだが？」

「えっあ…あの…私が読んでた小説での話ですが…主人公を苦しめて復讐するために主人公を連続殺人鬼に仕立て上げようとした精神系

能力者がいて…あっ小説の話です！真に受けないで…」
「いや、これもまたあり得るかもしれん。ありがとな、かこ。」
　出てきたのは小説の話。けれど霧子の食いつきは凄いものです。
「ななか。もう一度お前の魔法を貸してくれ。」
「ええ。」
　私の魔法は敵…自分に被害を与えるものを見極めること。もし黒幕が鈴音への復讐目当てならば、部外者を完璧に演じている霧子には黒幕からの敵意がない。すなわち反応しない！
「それと黒幕のタイプ次第だが、記憶戻し。アレも夢物語じゃなくなる。アンタらの力が必要だ。頼めるか。」
　進む作戦会議。…これならば、いけそうな気がします。

「ねえ、アリサ。」
「…」
　放課後、亜里沙の家。亜里沙はふさぎ込んでるものの、千里は窓の外から語り掛ける。大切な友を失わないために。
「私も、怖かったんだ。魔法少女の真実を知って。でもさ、それで鈴音みたいに魔法少女を狩ったり、あきらめて死んじゃうのは…違うと思う。」
「私はお父さんの暴力をやめさせるために魔法少女になったんだ。」
「そして、貴方に出会った。」

今より昔。まだ真実を知らなかったころ。幸せだったころの記憶を思い出させる。
「あの頃のアタシはバカやってたな…それで、チサトに出会ってさ。叱ってもらって、マツリやハルカにもあって仲間が増えて…ああ、そうだ。」
「私たちには仲間がいる。でしょ？」
「…なら、こんなところでふてくされてられないわよ！」
願いをかなえてすぐの亜里沙はその力を振るい、なおさら孤立していった。そんな彼女を止め、救い上げたのは千里だった。そこからの日常は希望に満ちていた。
身体は抜け殻。ソウルジェムが濁れば魔女になり果てる。それでもできた仲間は、抱いた希望は嘘ではないと。
生きて、証明する。そのためには、まだ励ますべき仲間が残っている！
「先輩にも会いに行きましょう！」
「…！マツリから念話がきた！」
「…わかった。今助けに行く！」

「…やめて、やめてやめてやめてやめて。」
魔女結界。黒い水たまりに映し出されるのは自らの願いとその糾弾。本来遥香の実力をもってすれば魔女を倒すのは容易である。特

に調整を受けた今の状態では。しかし相性が悪すぎた。この魔女は黒い水たまりに標的の記憶を見せる。そして願いで姉を消してしまった上魔法少女の真実を知ってしまった遥香にとってはまさに致死。

　そのソウルジェムは黒く濁っていき…

「ハルカ――ッ！」

　エネルギー波が降り注ぎ黒い水たまりを消滅させる。

「マツリ!?なんで…」

「スズネとはなしに行こうと思ったんだけど、やっぱりみんなを心配させたくないなってなって。それでキリコにあったらそこらへんに魔女が出たって教えてもらって。」

「…そう。」

　この魔女の本体は黒い水。よって手始めに消し飛ばした茉莉の判断は最適だった。そして彼女らはななかの手引きで調整を受けている。

「使ってみよっ！」

　茉莉と遥香が手をつなぐ。魔法陣が発生し周囲に緑色の力をまとった槍が何本も出現。魔女結界内を粉砕していき――

「倒したね。」

「ええ、…」

　安心したような表情を見せる遥香だがすぐにその表情は硬くなる。

「…やっぱり、見てたのね。…幻滅したでしょう？私は完璧な生徒会長でも、町を守る魔法少女のリーダーでもない。ただ心を保つためだけにそれを演じていただけなの。」

「ハルカ…」

「いままでリーダーとして好き勝手してごめんなさい。チームから抜けてもいい。いえ、このチームを…」

「違うよ！ハルカ！」

「え…」

「マツリはハルカのことが好き。完璧じゃなくても、いつもみんなにやさしくしてくれるハルカが好きなんだ。」

「だからそれは自分のためで…」

「テスト前に勉強を教えてもらった！」

「パトロールを助けてもらいました！」

　遅れてやってきたのは亜里沙と千里。

「ほらね？自分のためだって言ってもチサトやアリサ、マツリも助けられてる。ハルカが自分勝手な行為だと思っていてもそれは嘘じゃないんだ。」

「けれど私は許されないことをした…」

「私にそんなこと言う資格はないかもしれませんけど…私は、そのお姉さんの分も生きるべきと思います。生き抜いて、生き抜いて。だから、もう一度一緒に行きましょう。先輩。」

　姉が妹を励ますかのように、遥香の肩をつかんで千里が言葉を紡ぐ。

「ありがとう…わかったわ。私はもう、大丈夫。」

　遥香の顔が柔らかくなり目に光がさす。

「魔法少女が魔女になるから殺す。そういってたスズネをギャフンと言わせてやろうじゃないの。それがどうしたって。」

「うん、アリサ、ハルカ、チサト！一緒にスズネを止めよう！」

　ホオズキ市の魔法少女は立ち上がる。決戦の時は、もうすぐ。

（…それで、結果はどうでしたか。）

（かこの予想、一致だ！ななかはホオズキ市の魔法少女たちを援護し

てくれ。）
（俺たちはいわゆるアイツにとっての鬼札（イレギュラー）だからな。いけるか、ななか。）
（…何やらうれしそうな声ですが、何かありまして？）
（な～に、結構想定より良い結末になりそうだなって。）
　ホオズキ市内のビルの一角。調整により本来の力を取り戻した霧子は夕暮れ色の町を見下ろす。その表情は少しうれしそうで。
「さ～て、ホオズキ市最後の一仕事。行きますかっ！」

１２：ホオズキ市決戦

夕暮れのホオズキ市。そこに剣戟の音が響き渡る。
「想像以上に…強くなりましたわねっ！」
「今日こそあなたを殺す。」
（おそらく鈴音も調整を受けた！ソウルジェムを守り、生き延びることだけ考えろ！）
舞い散る花びら。それを焼き尽くすような業火。刀で切り込むもそれは強大な火に阻まれ、跳ね飛ばされる。ななかが自己流で鍛え上げた技能でも鈴音の力を上回ることはできない。どう見ても鈴音が優勢である。そして鈴音の姿が消えた。
（右後ろ！腹部貫通狙いだ！）
「はぁっ！」
「私の【陽炎】を何度も…!?」
刀で鈴音の剣を防ぎ、勢いに任せて飛びのく。
蜘蛛の糸は顔面にでもかからない限り気づきにくい。それと同質の糸を霧子は周囲に張り巡らしている。それ自体がセンサー・ビーコンとなり、念話を通して鈴音の詳細な位置がななかに届けられる。それが陽炎を使える鈴音からソウルジェムを守り通せている理由だ。
（…もうすぐホオズキ市の魔法少女たちが来る。黒幕も動き出したから俺が助けられるのは一旦ここまで。生き残れよ。）
「そこまでよ！スズネ！」
「…きたのね。」
「スズネ、アンタをここで止める。」
「やってみなさい」
斬撃波が、槍が、銃弾が、光波が鈴音に降り注ぐ。対して鈴音がとった手段は武器の同時顕現・射出。それらは遥香たちのソウルジェムを撃ち抜く軌道だが――
「アリサ！コネクトを！」
「わかってる！」
「「魅了（アテンション）・強化（ブースト）！」」

コネクトにより亜里沙の強化を受けた遥香が武器を集中。それらすべてを受け止める。
「背中ががら空きですよ！」
「エンフォースメント！」
背後からは体勢を立て直したななかが、正面からは正確無比の一撃が、同時に鈴音に迫りくる。
「――炎舞」
より大規模の業火がすべてを薙ぎ払う。特に先ほどから戦っており、ダメージの蓄積も多いななかに狙いを定めるがそれはすぐに阻まれる。
「させないわよ！」
「つく！邪魔な！」
願いにより強化された亜里沙の膂力は鈴音を受け止めるのに十分。しかし技のほうは鈴音が一段上。すぐに鎌を受け流して背後に回る。狙いはソウルジェム。
「まずは、一人。」
「アリサーッ！」
「注目！」
鈴音の注意が否応なしにハルカに向けられ、体勢を立て直したアリサが鈴音の凶刃を阻む。しかし剣の模様が光り、鈴音の姿が掻き消えた。
「皆様、気を付けて！自分のソウルジェムを守って！」
（チサト、マツリの魔法なら！）
「マツリ!?」
（マツリ、目が見えるようになることを願ったの！マツリの魔法なら見えないものも見える！）
茉莉が千里のもとへ疾走する。それを見逃す鈴音ではない。姿を消しながら切りかかるも
「そこっ！」
「ありがとう、ナナカ！」
「――！」

ななかが鈴音を受け止める。鈴音が再び姿を消すが茉莉の手は千里に届いた。魔法陣が顕れる。
「見つけた！これで…終わりよ！」
「うあああああっ！」
茉莉の魔法により鈴音を補足。そして千里の「解除」を込めた一撃。鈴音はたちどころに姿を暴かれ、剣は破砕され光にのまれた。
「ぁ…あ…私は…」
鈴音はその場にうずくまって動かない
「これで…一件落着…かしら？」
「何やら苦しそうですが…」
「いったいどうしたん…きゃあああ!?」
突如亜里沙の背後で魔力の奔流がほとばしる。亜里沙を守るように紫の魔法少女を抑えてるのは白フードの魔法少女。
「あ～、あ！おしかった、なぁ！」
「え…お姉ちゃん!?」
「お姉ちゃん!?どういうことなの、マツリ!?」
「カガリ姉ちゃん、どうして、マツリ忘れて！」
白いフードが、否、各部の偽装が黒い糸に分解され複数のライフルと化し、それがカガリに対して火を噴く。そして現れた姿は…黒い魔法少女。
「なんで覚えているのかなぁ…！」
「あなた、死んだはず!?」
「キリコ!?」
さらにカガリに向けて発砲。距離をとる。想定外の乱入者。しかしカガリの表情は喜悦をたたえていた。
「っふ、それよりさ…スズネにかけた魔法、解除しちゃったよね？」
「どういうこと？」
「私は…取り返しのつかないことを…！」
〝二度とこの悲しみを繰り返さないためにすべての魔法少女を殺す。〟これが魔法少女殺しの鈴音のルーツ。しかしこの記憶と決意

はカガリに捏造されたもの。その魔法がはがれた今、鈴音にのこるのは罪のない魔法少女たちを殺したという十字架。
「あ…あああああああ！」
「アンタ、何が目的で！」
「え～、復讐だよ。私からツバキを奪ったスズネちゃんに、同じ苦しみを味合わせるために…」
「そのために魔法少女を巻き込んで!?…ふざけないでよ！」
亜里沙がカガリに攻撃を加えようとする。しかしそれは霧子に届いていた。カガリの魔法は記憶操作。自身の姿を別のだれかに重ねるなぞ朝飯前だ。
「何をしている！」
「え…!?」
カガリは鈴音に近づいていく。最後の一押しをするために。しかし鈴音の前には茉莉が立ちふさがっていた。

「やめよう、お姉ちゃん。マツリ、こんなの嫌だ。」
「マツリも邪魔をするの？コイツはいろんな魔法少女を殺して、何よりツバキを奪ったんだよ？」
「そ魔法少女殺しれを仕組んだのはお前だろうが。」
いつの間にかカガリのほうが包囲されている。総勢にして5対1。
「…へぇ、スズネちゃんをかばうんだ？」
「スズネに魔法少女殺しをするように仕向けた。それだけであなたに刃を向ける理由にはなるわ。」
「みんなして邪魔するんだ…っふふ」
「何がおかしい。」
「ホントはスズネちゃんを孤独にして魔女にさせるつもりだったんだけどその私がたった一人なんて、かっこつかないな～って。」
カガリの腕に魔力が満ち、四方八方に放出される。似た系統の魔法で魔女を操れるのは前に”飛蝗”を見たときにわかってる。ならばやるだけだ。
「魔女の反応だ！あたり一面からくるぞ！」

世界が切り替わる。目の前に広がるのは一つの結界に複数の魔女が詰まってるという異常な光景。さらにカガリが言葉を紡ぐ
「【私に手を出して？】スズネちゃん。」
鈴音がひとりでに立ち上がる。その手をカガリがつかむと魔方陣が表れ、カガリの胸の蝶を模した装飾が燃え上がる。その炎がレイピアに吸い込まれ――一本の刀に変生する。その業の名は【桜花】。かつての椿の切り札は、鈴音を絶望させ殺すために振るわれる。
「あっはははは！スズネちゃんのせいでここにいるみんなが死んじゃうんだ！ねぇ、そのまま魔女になっちゃえ！」
魔女が襲い掛かる。カガリの姿が消える。一番先に動いたのはななかであった。周囲の魔女を薙ぎ払う。そして茉莉がカガリを補足。いま千里を切り殺さんとしたカガリを抑える。
「死なない、死なせないよ！」
「どうしてマツリも邪魔をするのかな…あぁ、そういうこと？私からツバキだけじゃなくてマツリも奪うんだぁ…」
またカガリの姿が消える。霧子が剣を上段で構える。一瞬の間、霧子が剣を振り下ろし、金属音とともにカガリがその場に現れた。
「無駄だよ？」
「っ…！」
霧子の剣が焼却され、たまらず剣を放棄。即時に大剣を生成してカガリにぶつけて離脱した。カガリの姿はまた消え戦場は混迷を極める。
「チサト、解除を！」
「わかってます！」
千里の魔法によって魔女の操作をはく奪するも魔女はそれぞれの性質に従って暴走を始める。これでは遥香の魅了では対応できない。さらに無軌道に放たれる桜花の炎。数人がかりで防御しなければ即死級のものを防ぐ必要もある。そして先ほどの鈴音との戦闘で千里も亜里沙も魔力が切れかかっていた。このままでは魔女と炎に押され、死または魔女化しかない。しかしここにはまだ魔法少女がいる。
「――炎舞」

炎の奔流で魔女たちが切り裂かれ、焼き焦がされる。
「スズネ！」
緑色の風が炎を吹き飛ばし、白銀と蒼の魔法少女が魔女を打ちのめす。
「来てくれたようですね。」
「ななかさん！浄化を！」
「ありがとうございます。」
「…こっからが大詰めだな。」
カガリが鈴音の前に現れる。
「カガリ…あなたはここで…！」
私は魔法少女を殺した。けれど、そんな私を茉莉は見捨てなかった。私を救ってくれた大切な人を死なせはしない。この場から逃げるのは無理。そして茉莉たちは私を見捨てようとしないだろう――ならば刺し違えてでも。その決意が今鈴音を立ち上がらせている。
「――へぇ、まだ魔女化しないんだ。ならいいよ。私がスズネちゃんを殺してあげる！」
「日向カガリ！」
双方姿を消し気配を探る。突如何本もの細い炎の柱が立った。その中にカガリの姿が一瞬見えた。
「そこっ！」
狙いはソウルジェム。剣をたたきこもうとするも、茉莉がその間に立ちふさがる。カガリの桜花はまだ持続している。カガリを抑えている手に炎が広がっていく。
「マツリ！離れて、あなたまで死ぬのは！」
「違うよ…マツリ、誰も死なせたくない！スズネも、お姉ちゃんも！」
「っははは…なんだろうと結末は一つだよ…このままマツリもスズネちゃんも死んじゃうんだから！」
カガリが消えるもまだ茉莉は鈴音に呼びかける。
「お姉ちゃん、聞こえてるでしょ！」
この期に及んでまだ完全な敵であるカガリとの対話を望んでいる。これは愚の骨頂としか言いようがないだろう。けれど茉莉はカガリ

と同じ環境で育ってきた。その茉莉が、今も攻撃を受けている茉莉があきらめないというのなら。鈴音も殺すしかないと決めつけてはいられない。
「マツリ、力を貸して！あなたの魔法でカガリを止める！」
「うん！」
茉莉と鈴音が手をつなぐ。
「ツバキ――」
御守りから魔力がほとばしり鈴音の剣が刀に転生する。その魔法は桜花。椿の願いを無為にしないために振るわれる。狙いはソウルジェムではなく、カガリを行動不能にすること。カガリがチャクラムを亜里沙に放たんとしている。猶予はない。
「よけて、アリサ！」
「ええ！」
チャクラムを焼却するために放たれた炎はそれを飲みつつも紫の業炎に阻まれる。
「まだよ、桜花！」
「ここで殺してあげる――桜花！」
鈴が鳴る。魔方陣とともに炎がぶつかり合い、爆炎がまきおこる。爆裂し、カガリが駆けだして――

～ｓｉｄｅ：カガリ～
なんで、なんでなんでなんで！
どうしてこうもうまくいかないの！スズネちゃんは魔女化しない

し、魔女たちもよその魔法少女に倒されて行ってるし――
あぁ、そうだ。あんなに私と和解できるって信じてるマツリ。ねぇ、その仲間が死んでもおなじこといえるかなぁ？まずは一番厄介なキリコを無力化するためチャクラムを投げる。そしてアリサ。後ろのソウルジェムがら空きだよ？まずはあなたから！
「よけて、アリサ！」
「ええ！」
余計なことを…まぁいいや。当たればいいんだし。そう放たれたチャクラムはスズネちゃんの桜花にのまれた。そっちがその気なら、私も桜花で答えてあげるよ。魔方陣が展開し、炎が巻き起こる。あぁ、なんてキレイな炎なんだろう。ツバキの魔法で直接スズネちゃんを殺せるなら、それもまたいい。
爆発が起こる。スズネちゃんはマツリを守るためにかばったのか。全身に熱傷の跡がある。刀もだんだん崩れてきた。それに魔力も少なくなってきてる。けれど数回なら私の魔法を使えるだろう。守ろうとしたマツリが死んだなら、どれほど絶望してくれるだろうか！そう思いをはせながら手をかざすも、
「させないわよ！」
強制的に魔法の向きを変えられ、解除される。あぁまだあいつら生きて、しつこいよ！スズネちゃんも私に迫ってきてる。私をツバキと同じように殺し…いや、殺意は感じられない。私を生かして止めるつもりなんだ。刀の軌道もソウルジェムには当たらない、峰打ち…なら、やることは一つだ。
「その甘さでスズネちゃんは死んじゃうんだよ！」
刀を弾き飛ばす。刀身はもう半分もないけれど十分！ソウルジェムまであと5センチ、4センチ。スズネちゃんの斬撃が身体を貫くけれど、止まってはいられない。体が裂けていく。それがどうしたの。あぁ、この瞬間をどれほど待ち望んだだろう、スズネちゃんへの復讐を！
パキン――
硬いものを砕く音とともに、スズネちゃんの命（ソウルジェム）が舞い散る。スズ

ネちゃんの変身も解けて倒れていった。あっけない幕切れだ。体が崩れ落ちる。もう動けないだろう。けど、どうでもいいや。私の復讐は、これでおわり。

「あは、あはははははははは!!やった、やった――!」

ええ、鈴音を生存・チームみかづき荘入りさせようと思っていたのは本当ですよ?なのですが、まあ、やめました（嘘）――やめました！（嘘）

宴会のウワサが思ってた以上にとんでもなかったので失踪します

13：あとかたづけと、種明かし

～side：茉莉～

「そんな…」

「スズネーっ！」

お姉ちゃんが呼び寄せた魔女はすべて倒した。けれど鈴音の遺体。そして砕け散ったソウルジェム――こんなのひどいよ。悲しいよ。スズネも死んじゃった、それにお姉ちゃんも、何もなくなっちゃった。

「は、はは…」

「アンタ――！」

激情のまま、アリサがカガリに切りかかった。カガリは抵抗するそぶりを見せない。止めないと。しかしその鎌がカガリに届こうとした瞬間。黒いメイスに阻まれた。

「何してんの、キリコ！」

「やめろ、お前が手を汚す必要はない。コイツはもう何もない。じきに魔女になり死ぬ。…それに、ななか達との契約があるからな。」

「だからって、これじゃあ…あいつの勝ち逃げじゃない！」

「…引きなさい、アリサ。」

…わからないよ。あの時の白いフードの子がキリコだったとしても、図書館でトーマスとジュリについて熱く語っていたときの楽しそうなキリコと、今の冷たくて暗いキリコが全然合わない。

「教えなさい、キリコ。あなたの目的は何なの？それに…あなたはあの時結界で…」

チサトがキリコに質問する。チサトの視点ではキリコは死んだように見えたらしい。

「そうだな。まず結界内のことだが…すまない。お前に覚悟を決めさせるためのものだった。お前の解除はカガリに対して有利に動けるから。」

「俺の目的は鈴音による襲撃事件の解決と、助っ人として来てくれたななかの記憶を戻すことだ…ななかは結構面倒な記憶の消され方をしててね。ただ解除するだけでは無理。記憶をいじれるやつがい

い。」
「…そのためにカガリをかばったってこと。…じゃあスズネが死ぬことも予定に入れてたっていうの!?」
「いや、本来ならカガリを拘束して魔法に制限をかけてコネクトなりでやる予定だった…始めていいか。」
　キリコが残念そうな顔をするが、すぐにナナカをお姉ちゃんのもとに連れて行こうとする。とりあえずマツリもお姉ちゃんのところへ…!
「マツリ…?」
「…マツリからも言うけど、記憶を戻してあげて?まだ、償うことはできるはずだから。」
「マツリの頼みなら、ね。それで、治してもらいたい子は?」
「――常盤ななかです。よろしくお願いします。」
　お姉ちゃんがナナカの額に手を当てる。時折お姉ちゃんは何かを探すような表情をしているけど、記憶を真摯に直しているんだろう。少しした後、手を放す。
「これで終わり。」
「ええ、…ありがとうございます、霧子さん。混沌はあなたが討ったのですね。」
「…そういうと、お前の獲物を俺が倒しちったってことか?なんか悪いな」
「もういいかい。ボクたちは持ち場に帰る。」
「カガリの護送、監視は俺がやる。」
　ナナカたちが帰っていく。キリコはお姉ちゃんを監視するために少し残るようだ。
　つらいこともたくさんある。魔女化のことも。けど今は生きていくんだ。スズネの遺志も、ツバキの思いも守るために。
「どうするの、これから。スズネは死んで、カガリもあの状態だし…」
「まずは家に帰って、明日も町を守っていこう。マツリは、スズネの思いも、ツバキの思いも無駄にしたくはないから。」
「マツリは、強いのね。」

そして数日が過ぎて、スズネの葬儀も終わった。コウリョシボウニン？って言われてお葬式もなかった。お墓参りもできなかった。霧子も帰っていった。悲しいけど、数日の間街をパトロールして…

電話が来た。

「もしもし、俺だ、霧子だ。神浜市の夏目書房に来てくれ。いいニュースがあるぜ。あ、カガリにはナイショにしておけよ？ていうかカガリ抜きできてくれ。」

～ｓｉｄｅｏｕｔ～

～少し前～

つぶねぇ！はい、今どうなってるかというとカガリが桜花使って炎ぶっぱしてる挙句魔女軍団を従えてます。その技はお前が使っていいもんじゃねぇんだよぉ！

…失礼、取り乱しました。まぁこの町に調整屋が来た時点で想定はできました。あいつら誰にも調整する武器商人チックな奴ですし。というわけでここからは

桜花に対応しつつ魔女の殲滅、ステルスカガリのジェム割りに警戒

しながら魔法少女たちを守り、”計画”を実行する…やることが、やることが多い！
ほらやっぱり桜花が飛んできました。大剣一つを生贄にしてガード！さらに亜里沙の後ろによって来た魔女を銃撃して注意をひかせて剣で両断。周辺の使い魔は斧で薙ぎ払います。
「――桜花」
「来てくれたようですね。」
ナイスゥ！これでいくばくかは楽になりま…また炎！いい加減姿見せろや！さて、ここからが本題です。計画のためにはまず鈴音とカガリが一対一の状況を作る必要があります。そして今カガリは桜花という大火力技を引っ提げています。触れるだけで全焼レベルの火力です。要は結界中に糸を張り巡らせてやるだけで勝手に燃え移って位置を示してくれます。
見事に引っかかってくれましたね。これで鈴音がカガリに向かっていって…なんで茉莉がかばってるんや！まぁそういう子でしたよね茉莉は。また一騎打ちになることを祈りつつ魔女をつぶしていきましょう。
またチャクラム！双剣で防御しますが鈴音とカガリが桜花を撃ち合ってますね。もうすぐでしょう。ナラバァ、やることは一つ！負傷覚悟でチャクラムをそらす！ジェムに当たりさえしなければみんな軽傷なんだよォ！あ、ちょっとミスった感あります。肩口をバッサリいかれました。あーもうどうすん…
〉パッシブスキル・即時縫合を一時的に開放します。
いよっしゃあ！これでまだ動けます。しかしこのスキル、切られたところがすぐミシンで打たれたようにつながるモーションはかなり精神にキますけどねぇ…バーサヤカーちゃんの亜種ともいえるスキルですし。そして美雨に念話を入れましょう。
（やるぞ）
（わかったネ！）
狙い時はスズネとカガリの攻撃が互いの体に当たった時！イキますよ～（タイミング測り）イキますよ～（タイミング測り）イクイク

……ヌッ！（いまだ！）
（フルパワーで偽装を！）
（いわれなくても！）
美雨の偽装。これでもう先駆者様のＲＴＡを見てきた諸兄はお判りでしょう。鈴音の氏を偽装します。
ホオズキ市に突入してからずっと組長との契約とカガリの始末の両立を考えていましたが…あふれだしてきました。頭に存在するチャートが。カガリは鈴音への復讐を果たした後虚無って魔女化氏するのはｐａｒｔ６に説明した通りなんですよね。今回はそれを利用します。
今鈴音を貫いた刀が消えてカガリが崩れ落ちています。すぐに鈴音のもとに駆け付けて何か言いたげな口をふさぎましょう！美雨の偽装は現実の状況と偽装の状況の違いが大きいほど多大な魔力を要します。そのためには…
「俺に念話をつないでくれ！」
（いったいどうしたの!?）
（今お前が死んだという幻覚をかけた。ソウルジェムを貸してくれ。これも長くは持たない！アンタの死体が必要になるんだよ！）
（ええ、…マツリも、私のことは忘れて生きていったほうがいいと思うから）
（そいつは無理な相談だ…まぁ、数日は眠っててもらうぞ。）
ではさっさと１００メートル圏外に出ましょう。あと砕けたソウルジェムも作ってばらまきます。時間にして…おぉ、約２秒。これであとは鈴音の死体と砕けた偽ジェムが残るだけなので完全な魔法少女の死に様の完成です。
さて、ななか達のもとに戻…亜里沙何してくれとんじゃ!?気持ちはわかるけど、それはいろいろとまずい！メイスを出して相殺しましょう。…何とか止まってくれましたね。
さて記憶を戻しましょう。まぁその前に、ななかさん（魔法）ダイジョブっすか？
（…もう私の魔法に反応はありません。本当に、空っぽになってし

まったということでしょうね。）
組長を連れていきます。カガリが組長の額に手を当てて記憶を修復してますね…組長の記憶消去は記憶封じではなく記憶破壊でした。今回は魔法の残滓から修復するしかないんですよね…下手に解除するとその残滓すら消えてしまうので千里には任せられません。だからカガリを使う必要があったわけですねぇ～。終わりました。ということでなんか達は神浜市に帰ってもらいましょう。自分はホオズキ市に残ります。
鈴音の遺体は行旅死亡人として扱われます。魔女に家族皆殺しにされたので引き取り人がいないためですね。この後ホオズキ市の自治体が検死・葬儀を行い遺骨は無縁塚に納骨されます。茉莉たちは葬儀に参加できません。悲しいなあ…（ドルマゲス
さてこの鈴音の遺体ですが検死に関してはそのまま使わせましょう。この段階で偽物にすり替えようもんならあっという間に大事件ですしカガリに鈴音は生きてると悟られて今までの作戦すべてが台無しになります。
そして様々な手続きの間はカガリを監視しましょう…完全に虚無ってますね。魔女反応にも見向きしません。解除のコネクトで魔法を制限されてますので自身から魔女化するそぶりもありませんね…寝ずに監視します。
早送り後の深夜。手続きが終わったようです。霊安室には魔力でピッキングして侵入。監視カメラは移動する間ジャミングして姿を見せないようにして鈴音の遺体を修復します。その後黒い棺桶を生成。鈴音の遺体に保存を利かせて収容。そして精巧な偽鈴音遺体を作り出して安置。霊安室から出た後は証拠を隠滅して脱出、市外に待機させといた美雨とかこに引き渡します。（１３歳に死体運びの片棒担わせる人間のクズ
火葬されるのでタイミングを見計らって骨だけにします。その後骨壺に収められて無縁塚への納骨を確認ヨシ!!神浜市に連絡して鈴音の蘇生ヨシ!!神浜市へ戻って中央区へ戦果報告の後感動の再開と行きましょう！それではご視聴ありがとうございました。

Ｉｎｔｅｒｌｕｄｅ．不穏

［え～、復讐だよ。私からツバキを奪ったスズネちゃんに、同じ苦しみを味合わせるために…］

［わたしの願いは、スズネちゃんと、スズネちゃんを選んだツバキに対しての復讐。］

「これが襲撃事件の黒幕…!?１３ばかりの少女が…!?」

「この子が鈴音を操って魔法少女を襲撃したってことね…鈴音に殺人の十字架を背負わせる形でなんて、悪辣にもほどがあるわ。」

はい、今は中央区の魔法少女たちに事件の説明をしてるところです。七海やちよもきてます。みんな衝撃を受けてますね。まぁあんなサイコレズみてＳＡＮチェック成功する魔法少女のほうが少ないと思うのですがね。

「彼女には純美雨の偽装により鈴音が死んだと見せかけた。今はホオズキ市の詩音千里の固有魔法の解除で無力化してる。」

「鈴音はどうしたんだ?」

「ななかのチームで保護した。…受け入れ先はどうするんだ。」

「中央区ではいまだ襲われたということで恐怖心が勝ってる子も多いからな…」

「そういや七海、アンタのところの宿舎って使えるか?」

「…環さんに聞いてみるわ。あの子も鈴音に襲われてるから、あの子しだいってところね。それに彼女、新しい子を連れてきたし…」

…?おかしいですね。まだこのタイミングではみかづき荘追加メンバーはいないはずですが。準備の時間もあるのでこの後は霧子ちゃんのメンテです。七日間一睡もしてませんからね。とりあえず公共銭湯で体洗って寝ましょう。ＣＧ?そんなものはねぇのです。

（健全

ただちょっと不安面もあるんですよね。本来なら数日間徹夜した場合ストレス値がたまっていてそれを抜くために就寝やら風呂やらを行うんですけども霧子ちゃんのストレス値、黒塗りになってました。それにイレギュラーも多いですが…まぁ鈴音もいるし何とかな

るやろ。

「ひぃぃっ！やめろ、来るなこの気狂いが！」

深夜、二葉家。彼らは本来なら二葉さなを虐待した後、いなくなったさなを無視し続けてフェードアウトしていった役回りだった。二葉さなはもうこの家にはいない。しかしその家は血に濡れていた。その惨状を作り上げたのは奇妙な格好の魔法少女。

首元にはエリマキトカゲのような装飾。額には角。そして頭には縫合跡。口は裂けておりそれを縫い合わせるかのように糸が通っている。

彼女は【夢遊の亡霊】ユゥ。人格も歳をとることも死ぬことも忘れた、〝リスト〟に書かれた悪人を殺すだけの存在となった魔法少女である。

「これで最後っと…怖がらなくていいよ？ちょっと痛いだけだからさ。」

「ひ、あ、あああああああああああ！」

人を殺すには軽すぎるような口調とともに、二葉家は皆殺しになった。明日には一大ニュースとして新聞の紙面を飾ることになるだろう。

「さて、と。リストには…なるほどなるほど。〝朝倉霧子〟ね。よし、いくか！」

夢遊の亡霊は跳ぶ。リストに書かれた悪人を殺すために。その標的が、どんな思いを抱いていようとも。

「今週でもう昏睡者は１２人、行方不明者は２１人…混沌事変の再来ではないか。」

東区。白の魔法少女、和泉十七夜が深夜の町を探索している。その理由は東区で昏睡する魔法少女の出現。さらに一般人魔法少女問わず行方不明者が頻出したからだ。

「まったく…霧子のヤツめ、まさかとり逃したとは言うまいな？あれ程の犠牲を出すよう仕向けておいて…誰だ！」

十七夜が魔力を放つ。着弾地点から漏れ出た者たちは黒いフードや白いフードを被っていた。白いフードは黒いフードよりは少ないが、それでも数は多い。黒いフードも合計するとその総数は４０人はくだらないだろう。

「「和泉　十七夜様、即時降伏ののち」」

「断るッ！」

すぐに十七夜がフードの集団…羽根達に挑みかかる。彼女は西のリーダーであるやちよにも並ぶ実力の持ち主。一人一人の戦力は決して高くない羽根など楽に倒せるものであった。ただムチを一ふるいするだけで黒羽根は吹き飛び、白羽根は武器を薙ぎ払われ倒される。しかしその数は脅威。如何に東のトップと言えども数の暴力にさらされては消耗は避けられない。――特にその中に戦力としての

”質”が高い魔法少女を投入されては、敗北もありうる。
槍を装備した白羽根が躍り込んだ。槍の石突でムチをはじきそのまま穂先で十七夜を切り裂く。しかし十七夜もただではやられない。身をひるがえして槍の魔法少女に触れる。十七夜の魔法は読心。東西問題の原因を探るために手に入れた力であり、戦闘に関しては相手の心を読み、挑発などして動揺を誘う、戦略を読むのがメインである。
「貴様、誰かを助けたいようだな?ドッペル症となったらしいが」
「――!」
「自身の過去のような子だ。理想に溺れ、絶望した。だがそれで助かったとしても果たしてその子は納得するか――」
「黙れぇぇぇぇ!」
白いフードを脱ぎ捨てる。現れたのは紅のドレスに赤い髪。その少女の名は佐倉杏子。恋慕の果て絶望し、魔法少女でも魔女でもない異形になれ果てた美樹さやかを助けるために神浜市に来た魔法少女。その怒号とともに杏子の槍は多節棍となって十七夜を打ちのめす。体勢を立て直すもさらに追い打ちが十七夜を襲う。
十七夜の周囲に、一瞬にして爆弾と銃弾が出現した。銃弾は十七夜の体に打ち込まれ、爆風はさらに十七夜を打ちのめす。
「なんだっこれは…!?」
「帰還するわよ、杏子。」
「…っ!まだ、アタシは…!」
「美樹さんを助けたいのでしょう?」
まるで最初からそこにいなかったかのように杏子と黒の魔法少女が消えうせた。残ったのはさらに多くの羽根達。
「不覚を取ったか…なに、ただではやられんぞ!」
ソウルジェムから黒い瘴気があふれ出す。神浜の救済の証、ドッペルを出そうとするも、彼女はすでに詰んでいることを理解してはいなかった。十七夜の頭上。コンテナの上にはボウガンを持った白羽根が散開していた。ボウガンに装填された矢は一風変わった様相を呈している。その矢じりは歪みねじれたグリーフシードを思わせる物体となっていた。それはいわゆる”悪意の実”。人に打ち込めばバ

ケモノと化し魔法少女に打てば膨大な穢れが魂を蝕むこととなる。
「イーブルナッツ隊、放て。」
　１０個ものイーブルナッツが十七夜に打ち込まれた。
「Ｕ、Ａａａａａａａａａａａａａａａ！」

Ｃａｔａｃｏｍｂｅ

　獅子舞のようなドッペルが姿を現した。それは解体のドッペル。その姿は、竈獅子。理性を失ったかのように周囲に破壊をばらまき続けるも、すぐに拘束された。
「対象のドッペル症発症を確認。拘束を完了。収容施設に移送します。」
　この日、東のトップが姿を消した。

「あっは！久しぶりに見たらやっぱり面白くなってる！」
　ワインレッドの衣装。紫色の髪。かつて飛蝗を操り神浜に混沌をばらまいた魔法少女がそこにいた。その注意は銀色の魔法少女…神名あすみに注がれている。
「はぁ～あ、あの子もここをぐっちゃぐちゃにしてくれそうだけど、”契約”があるからなぁ。見に行けないのが残念だな…」
　あすみは黄色い道化師のような魔法少女をいたぶり続け、ついには

魔女化させようとするも、魔女の代わりにドッペルが出現。面食らったかのように逃げ出した。それを混沌は微笑みをたたえながら見つめていた。
「まぁあすなろ市も面白そうだけどね。当分はそこで楽しませてもらうよ。」
それにあんなに必死になって自分を殺そうとしていた霧子に会ったとき、どんなリアクションをとってくれるか…。これから訪れる混沌に彼女は心を躍らせる。

～ｓｉｄｅ：カガリ～
はぁ～あ、復讐が終わって。拘束されて。これじゃあ自分から魔女になることすらできやしない。
ただ起きてご飯を食べて寝る。それだけが私の毎日。スズネちゃんに復讐してた時のほうがよっぽど楽しかったなぁ…ソウルジェムも濁ってる。浄化は断ってるからこのままじゃ魔女になってマツリもみんな死んじゃうよ…？
そう思いながら日々を過ごしていた時、声が聞こえた。
『天乃鈴音は生きている』
は？スズネちゃんが生きている？私がこの手でソウルジェムを砕いたはずなのに、なんで。
『嘘だと思うならこれを見るといい。』
頭の中に直接見せられているものはマツリたちとスズネちゃんの仲良しこよしの姿だった。ほかにいるのは私が記憶を直したナナカ

…それにキリコ。
そうなんだ…そうなんだぁぁぁぁ！
やってくれたよねぇ、もう容赦はしないよ。スズネちゃんも、その友達も全部全部ぶっ壊して…！
『条件がある。私と契約し、依頼を達成できたらその復讐の舞台をくれてやろう。』
タダというわけではないらしい。まぁそうだよね。向こうからしたらこの情報を教えてくれない限りは私は燃え尽きて魔女になってただけだもの。まぁ乗ってあげるよ。その代わり、ちゃんと契約は果たしてくれるんだろうね？
『もちろん。君はその魔法であすなろ市をひっかきまわしてくれれば…』
貴方は何がしたいのかな？それに、名前を聞いていない。
『あー、そうだな。具体的な標的は御崎海香、牧カオル、浅海サキ、若葉みらい、宇佐木里美、神那ニコの七人だ。彼女らは〝プレイアデス聖団〟を名乗ってる。そしてこの情報の対価としてさらに命令しよう。かずみ…黒い髪の少女をなるべくいい状態で回収してほしい。まぁこの際だ。わたしの目的は彼女らへの復讐。これでいいかい。』
まだ何かありそうだけど…その契約に乗ろう。スズネちゃんは当然として…キリコ。あいつも許さない。あいつのせいで私の復讐が失敗しかけたんだ。目いっぱい壊してあげる。
『――私の名はヒュアデス。よろしく頼むよ。日向カガリ。』

十七夜ファンの皆様すみません。何でもしますので失踪します。

遠い遠い、昔の話。そのまた別のレコードで。タルトという女の子が天使と契約しました。
彼女は影の魔法少女とともに救世の旅に出ました。時に笑い、時に泣き、憤怒の娘が、ドラゴンの娘が加わって。にぎやかな旅路の果てに悪の帝国と雌雄を決することとなったのです。
戦いは熾烈を極めましたが――
そこにあってはならないものが紛れ込みました
それは2つの鏡でした。しかしただの鏡ではありません。中に入ることができ、中の迷路を抜ければもう一つの鏡から出ることができたのです。
悪い魔法少女は喜びました。
「これなら色んな場所に、すぐに行ける！お母様は喜んでくれるかな！」
さぁ大変。敵は予想もつかぬところから出てきます。救世主の仲間も次はどこに出てくるかを警戒します。さらに魔力の源も奪われて行きます。
悪いやつらは先回りして魔力の源をとっていったのです。
救世主の仲間は次第に魔力が切れて、化け物に変わっていってしまいました。

それでも救世主のタルトはあきらめずに戦い続けて

そして、きゅうせいしゅは、しにました

悪い魔女は喜びます。そしてこの鏡を使って神様を追い払い、異国へ手を伸ばし、ついには世界を自分のものにしてしまいました。

それでも悪い魔女は満足なんてしませんでした。

「お母さま、この鏡、この世界ではない、ほかのところへ、未来へも行けるようです」

「フッ、フフフフ」

「もっと…支配を！死（モール）を！もっともっと…もっと！」

もう悪い魔女は止まりません。鏡を通して、女神さまの手が届かないレコードへ行ってしまいます。

あぁ、今を生きる魔法少女たちよ、気を付けて。悪い悪い魔女の支配の手は、

すぐそこに迫っているのですから…

あすみ編～Ｅｎｔｂｅｈｒｌｉｃｈｅ　Ｂｒａｕｔ～

１４：再会、そして。

「スズネ～ッ！」
「まったく、キリコは何回私を騙せば気が済むのよ。」
「悪い悪い、でも、まぁいい結果だろ？」
　よ〟が　っ　た〟　な〟　あ〟マツリちゃん。今は感動の再開タイム！ただホオズキ市にはまだカガリがいるので神浜での保護になりますがね。原作ではありえない光景でうれしいし、とりあえずラストバトル増援勢にはなってくれそうでうまあじです。
「…ありがとう。けど、私は取り返しのつかないことをした…いまさらあなたたちと共になんて…」
「じゃあ、また今から友達になろうよ！神浜にも遊びにいくから！」
「私たちも、ちょくちょく来ることになりそうだからね。」
「ちょくちょく…って、ホオズキ市でグリーフシードが枯渇したと？」
「いえ…実はあの後、『神浜で魔法少女は救われる』って言われる夢を見て。それで気になってね。」
　例のあの夢を見たってことですか…協力フラグが立って行ってウレシイ…ウレシイ…7日ほど徹夜した甲斐がありましたよ！って霧子さん、何そそくさと書房から出ようとしてるんですか。今回のＭＶＰですよ？
「待ってよキリコ！」
「うげ、」
「まだ、ありがとうをいえてないから。…スズネを助けてくれてありがとう。たぶん、キリコがいなかったらもっと悲しい結末になってたと思うから。」
　茉莉に袖つかまれて退出キャンセルされてますね。まんざらでもない表情がいい。
「このあと、皆さんはどうするおつもりですか？」

「一回神浜を見て帰る予定ですけど…」
「そうか、なんだったら案内するよ。」
「キリコとスズネも一緒に行こう！」
　ホオズキ市組＋あきら＋霧子で神浜市を探索することになりました。といってもウォールナッツやらはなくなってるので料理イベとかできないんですけどね！はっはっは…笑えねぇ。
「なんていうか…ほかの町に比べて魔力の反応が強いわね。」
「あ～、中央区にバカでかい結界があるしでそんな感じなのよ。あと魔女も多いからソウルジェムで反応を追うのはあてにならんことが多い。」
　何気に魔力反応によるジャミングという背景が明かされましたね。流石に反応で個人を判別できないとなるとちょっと苦しい場面が出てきかねませんが…
「結界ィ!?あの魔女を放っておいてるっていうの!?」
「あの魔女は自分から入っていかない限りは人を襲わないし”口ずけ”もないんだよ。それに結界の主はいまだに確認されてない。わざわざ積極的にかかわる理由はないってことで放置されてるんだ。」
「ふ～ん、あ、見てチサト！」
「タイ焼き屋さんね…いいんじゃない？食べ過ぎないようにね。」
　茉莉ちゃんとタイ焼きを買いました。基本無収入な霧子はあまり嗜好品を買いませんが…それでもストレス値回復にはこういうものが最適です。マスクデータ化したストレス値なぞガバ以外の何物でもありませんからね。…おっ、あっちでさゆさゆが路上ライブをやってます。
「きれいな歌声…」
「史乃沙優希路上ライブ…なんだか、応援したくなるようなパフォーマンスね…」
　食べ歩きしながらさゆさゆライブに行きましたね。ホオズキ市組の中でも亜里沙が特に盛り上がってます。…電話が来ました。なんだよこんな盛り上がってるときに…
「ちょっと失礼、席外す…おう、都か。どうし…中央でやべーのが出た

?･すでに大けがしてるやつが出てる?･わかった。すぐに向かう。」
「悪い、あきら。用事ができた。牽引は頼む。」
「彼女たちに伝えなくていいのかい?」

「さゆさゆーっ!」

「今の雰囲気を壊したくないからな。んじゃ!」
魔法少女の脚力で中央に向かい…
〉禍々しい気配が感じ取れる…さすがにヤバいかもな。
うぇぇ!?かなり強い部類の反応ですね。とりあえずみゃーこ先輩を死なせないことを最優先事項にしましょう。鏡の魔女が表に出たのでしょうかね…つきました
たくさんの魔法少女が転がってますね。一部は逃げ出してます。地獄絵図です。いったい何があの状況を作り出し

〉…アレは、人の顔の芋虫?どちらにせよ悪趣味な見た目だ。
人面芋虫…え、女王(ラ･レーヌ)の黄昏ェ!?使い魔とはいえあんなのがいるとか冗談じゃあ済まされないぞ!?知らない人のために解説すると外伝の一つであるたると☆マギカのラスボスです。何でここに沸いｔ…まさかミラーズから出てきたと?少なくともあっちで何か良くないことが起きたのは確実ですね。
今はあずかり知れませんが機会があれば調整屋にアロマキャンドルを売ってもらいましょう。ていうか使い魔の時点であんな気配になるとはかなりヤバいことが察せますね。魔力の触手につかまってる娘を救出して
「ケホッ…カハッ…助かり、ました」
「都!･この子を抱いて離脱しろ!･そのあと支援頼む!」
「ＭＯＯＯＯＯＲＲＲＲＲＲＲＴ!」

触覚・女王の黄昏

さて、この使い魔ですが…魔法少女ではダメージを与えられないです。娘の一人が余計な願いをかなえてくれやがりましたからね。そのため魔法少女を逃がしながら逃げ、みゃーこ先輩の援護のほかにもなんか組あたりを呼びつけて複数人のドッペルで仕留めましょう。

西洋剣を装備。脚力に強化をかけて飛び回りながら周囲の魔法少女を触手から解放。全方位ビームが来るので回避してから切りつけます。…少しＨＰゲージが減ったか？おそらく本体から切り離された個体ということが影響して無効化から高耐性に劣化したのでしょうか。

僥倖。ダメージを稼げるＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯを発動。剣を起点に使い魔を切り刻んで…やべ、糸を網状にめぐらして衝撃を吸収！１０メートルほど吹っ飛ばされましたがまだ大丈夫。サイドステップでビームを回避！

「霧子！」

その化学薬品はみゃーこ先輩！あざす！とりあえず後ろで薬投げててください。

「もっと多くの魔法少女がいる。…俺の攻撃でも全然こたえた様子はなかった！」

「ＡＡＡＡＡＡＡ！」

「危ない！」

がれきぶつけ!?うっせやろ早すぎる！とりあえずみゃーこ先輩にあたってもまずいので大剣＋結界＋網で防御します。…網は即ちぎれて結界も今のでだいぶ割れました。全力で補強します。ドッペルを打って打撃を与えないことには…

「杭、放て！」

「ＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＲＦ!?」

空から杭が！…アレは黒羽根でしょうか。幸福な魔女の使い魔を飛行ユニット代わりに飛んでるようです。発射器具的なのを数人で持ってることから察するに彼女たちが杭を使い魔に放ったのでしょう。

「拘束部隊、到着します！これより作戦へ移行！拘束の後、ありったけ

の火力を！」
　さらに白羽根が鎖で拘束しました。原作では考えられないほどの練度ですね…杭で鎖を固定。統率も恐ろしいくらいにとれてます。
「エンフォースメント！」
「詩音!?」
「マツリたちもいるよ！」
「…内緒にするよう言ったはずなんだけどなぁ。」
「ごめん、強い魔力反応をとらえちゃって…」
　ホオズキ市組も来てくれました。この隙に全力でぶち込んでやりましょう！
「「解体、開始」」
「私たちもやるわよ！」
　千里は亜里沙と、鈴音は遥香、茉莉は霧子とコネクト！緑の光と黒い糸が編み合わさってルガーランスみたいな武器が出来上がりましたね。全魔力を込めて発射！羽根たちからは斬撃波。大火力ゴン太ビームが二筋、炎をまとったランス多数！
　…これでやっと半分といったところでしょうか。硬すぎんだろ…けどもう穢れはたまり切りました。
「うっそ！まだ倒れてない!?」
「対象の強度、想定以上！拘束陣形崩れます！再度杭の装填を！何としても時間を稼げ！」
「キリコ!?ソウルジェムが！」
「いや、いい。」
「何言ってんのよ！早く浄化しないと…！」
　周囲が浄化するよう勧めてますが無視だ無視！さて、霧子の初ドッペルです。祝え！
「神浜で魔法少女が救われる…その意味を見せよう。」
　黒い瘴気と稲妻に霧子が飲まれ、さらにその範囲が拡大。どうやら一体型のドッペルのようですね。衣装は道化師のようなものに変わっており、周囲には様々な表情の仮面が浮遊。今ついてるのは笑顔の仮面です。そして背中からは無数の手…さあ真名は？

ｂｕｆｆｏｏｎｅｒｙ
表情づくりのドッペル。その姿は演者。
この感情の主は自身の暗部を隠し続けることに固執すると同時に苦痛による終わりを望む。
このドッペルは主を乗っ取ることに積極的であり仮面を通して過去の罪をありありと見せつけるがそれでも主は平常を演じ続ける。
このドッペルを使えば使うほど、その主は本当の感情を表に出すことが難しくなるだろう

…出すのは控えましょう。主を乗っ取ろうとするとかドッペル症アプデが適応されてる今もはや欠陥（リセ）レベルのデメリットです。一応今制御はできてるので大丈夫っちゃあ大丈夫ですが…
背後の手がすべて武器をもって使い魔に伸びて叩きのめしてます。さらに本体が剣をもって黒い瘴気が噴出。そのまま突っ込んで滅茶苦茶に切り刻んでます。エフェクトも巨大な衝撃波まみれで霧子が見えにくいレベルです。そして腕が集まって…白黒のあやめみたいな姿になって一閃。これで使い魔は消滅。
なんか物凄い闇が見えて後味悪いですが今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

１５：ありうべからざる少女

～ｓｉｄｅ：千里～

キリコが魔女みたいな異形と化したかと思うと凄まじい力であの芋虫の化け物を細切れにしてしまった…これが神浜の救いだっていうの…!?

「キリコ、大丈夫!?」

「問題ない。」

「…ソウルジェムが、浄化されてる…」

つまりこの町では魔女化はせず、もし魔女化するような穢れをため込んだとしてもすぐに浄化されるということ。…おそらく、ただそれだけではない。それにあの化け物は一体…

「…なにか、デメリットのたぐいはあるの?」

「まずめっちゃ疲れる。そしてバケモノが出るから場所を選ぶ。あと人しだいだと思うが――踏ん張らなくちゃならない。乗っ取られそうになるんだよ。理屈とかじゃなく本能的にわかる。」

デメリットは確かにある。でも、これなら魔女化することはない――!

「ほかの町では発動しないだろうな。あと頼り切るのもまずいことになるぞ。」

神浜での救い。それは確かに魔法少女は救われるという言葉に偽りがないほどのもの。けれど、それがなぜ起こるのか。これからは風紀委員としての仕事とホオズキ市のパトロールのほかにも神浜での調査も必要になる。忙しくなりそうね。

～ｓｉｄｅ：ｏｕｔ～

「また会おうねー！スズネー！」
「お世話になったわ。」
　女王の黄昏の使い魔を倒してホオズキ市の娘たちも見送って一件落着！とりあえず第1部が終わったら【時を越えて鳴らす鐘】を発生させることは確定事項として――鈴音をみかづき荘に移送しましょう。お前も環になるんだよ！
「新西区。ね。そういえばあなたもついていくの？」
「護送というかっこつけだ。にしても意外だな。あのピンク…いろはが受け入れるとは。」
「そうね…私に殺されかけたというのに。たぶん、本当に優しい子なんでしょうね。」
「俺は心配になるな。ああいう優しいのは一か月もしないうちに消えちまってる…守ってやれよ。」
「ええ、もちろん。」
　魔法少女歴合計3年にもなるとこういう経験が多いのですね。…アプリマギレコ見てると忘れかけますが魔法少女ってものすごく過酷な世界なんですよね。さやかちゃんなんてまどマギ本編時間軸では1週間しか生きられていませんし。
「ほら、っ…

　え？何か画面が暗転して…ってこれは回想イベ？町並みは見滝原ですかね…
―魔法少女戦・逾槫錐縺ゅ☆縺ソ―
　文字化けした魔法少女戦!?黒い靄がかかってよく見えませんが…
　っていうか霧子のストレス値がマスクデータになってない代わりに増え続けてるんですけどぉ!?精神攻撃系魔法少女…これは、ガバじゃな？ってモーニングスターが飛んできました。考えるより先に

殴ったほうがいいです。
　メイスで受けて直進。周囲に魔方陣が展開され四方八方から鉄球が飛んできますができるだけ回避。当たってもただでさえ高ストレスでジェムがヤバいので治療はなし！剣は首狙いでやりましょう…鎖で剣を縛られましたがナイフに変えてソウルジェムを…惜しい。少しそれってグハァ!?鉄球で腹をやられました。
＞第二マギア・ＦＵＲＩＯＳＯを開放。
　どこかで見たような技名ですが使わない手はありません。ソウルジェムを浄化して残ったグリーフシードはポイ。いかんなく使わせてもらいます。手に持った剣にヒビが入って魔力が噴出。そして魔法少女に突って切り刻んでます。ドッペルの最後らへんのラッシュに似た演出ですね。あたり一面にクレーターができ…ソウルジェムえぐいくらい濁ってるやん！フィニッシュで地面にたたきつけて斬撃波飛ばして逃走します。サヨナラ！

――――！」
「どうしたの？」
「いや、なんでもない…はずだ。」
　みかづき荘の扉が開きました。やちいろが迎えに来てますね。
「荷物は用意しておいたから、上がってください。」
「ええ、一人先に住んでるから、あなたの部屋は…」
　…そういえば、本来いないはずのメンバーが、本来ないはずのタイミングで加入したらしいんですよね…ここで騒ぎを起こすとヤバいですので気を付けましょう。
「いろはー！反応があったよー！」
　きましたね。見た目は銀髪のボブカット。年齢は１２……そういえば直前の回想イベでは精神攻撃使いのモーニングスター主力の魔法少女と戦って……!?
ヌゥン!?ヘアッ!?ウアアアアアア!?

まんま神名あすみじゃないですか!?なぜここに!?集団幻覚ではなかったのか!?ちょっと待ってｗｉｋｉを見て……見滝原裏ルートを通るとフラグ成立…？ガバですねこれは（諦め

せめて穏便に

＞人間関係更新。逾槫錐縲？縺ゅ☆縺ソ縲域柑谿コ蟇セ雎。縲→神名　あすみ〈抹殺対象〉

ウアアアアアアアアアアアアアアアアア！

１６：あーもうめちゃくちゃだよ（あすみ

霧子ちゃん頼むから抑えててください何でもしますから！…何とか平静でいてくれてますね。神名あすみはその性格から和解は困難。そしてもし仲間入りしても神浜に置いておかなければキャラロスト確定の魔法少女です。そして放っておくと混沌と同等・もしくはそれ以上の被害を出しかねません。ほんとあんた一体何やらかしてんですかねぇ…

「――――」

「どうしたんですか？」

「いや、じゃあ俺はこれで…」

一刻も早くこの場を離れて家に逃げ帰って作戦タイムと行きましょう。まずあんな場所にいたら何されるかわかりません。やっぱり相変わらずひどい家ですね…さてどうしたものｋ…

＞チャイムが鳴った。誰か来たのか？

あぁもう誰だよ！

「都か。どうしたんだ。」

「落ち着いて聞いてほしい…今判明したことだが、先日、和泉十七夜が行方知れずになった。私もこれから七海にも伝えに行くが…」

ホァァァァ!?東のドンが行方不明!?どうしてくれるんじゃ。それこそ東西問題がやべーことになるしみたまネキの信頼度が吹っ飛ぶし…

「それに、東ではこれは十七夜と険悪な霧子がやったといううわさが立ってる…一応聞くが、お前じゃないよな？」

「あぁ、俺は数日前はホオズキ市にいた。十七夜にあったことはない。」

誰だそんな噂流した奴！東で一層動きにくくなったわ！

＞さらに電話が鳴っている。

「ちょっと待て、失礼…もしもし。」

「ななかです、西区で多数の意識不明者が出ています!!」

「はぁ!?」

まだ混沌が生きてると!?あぁもうめちゃくちゃだよ…それもこれも全部あすみのせいなんだ（９１３

てかどんな影響があるんでしょうね…周囲の魔法少女の話を聞くに結構な大事件としても扱われてますからトラウマ直撃でしょうこんなの。とりあえず夜に出てあすみを処理。これに限ります。いろはの精神値はメガトンコインしますがドッペル覚醒イベを前倒しにできるでしょう。携帯がさらになってます。メールですね。

［七海よ。すぐに調査して頂戴。これ以上はさらなる混乱を招くわ］

［久しいわね。神楽よ。私の所属してるところでも結構な数が倒れてるし、街中でドッペルを出した子も出たらしいの。あなたにも伝えたほうがいいと思ってね。］

［ねえ大丈夫？起きてたら返事をして！］

［あすみちゃんがいないんだけど探して下さい！お願いします！銀髪のボブカットの子です！］

［ねえほんとにだいじょうぶおきてるよねたおれてないよねすぐにきてよわかったすぐにいくから］

［何者かの精神攻撃を喰らったわ。ソウルジェムが濁って動けそうにない。］

［※このメールは範囲送信で返信は受け付けておりません］

ミレナ座がパンクしたので夏目書房で昏倒者の受け入れをしてます!!倒れた人を運び込んでください！］

次々にメールが来て履歴がしっちゃかめっちゃかになってますがていうか鶴乃がメンヘラみたいなメール送りつけてるんですけどぉ!?まずこのままだと鶴乃の精神がメガトンコインしかねないので真っ先に返信します

［万々歳で待機してくれ。俺は生きてる。］

［下手人を探す。中央は頼むぞ！］

「ああ！」

そして万々歳に突撃してメンタルチェック！よ～しよしよしよしよし私はここにいるぞぉ～

「かひゅ、あ…よかった～。」
　重症ですね。そしてこのまま調査をすっぽかすわけにもいきませんから街に繰り出します。…やちよといろはがいましたね。
「おい、鈴音の容態は？」
「今は浄化して留守番してます。」
「そうか。ならすぐ帰れ！少なくとも鈴音のいるみかづき荘のほうが安全だ！」
「でもあすみちゃんを探さないｔ」
「帰れ!!無駄死にするだけだ！」
　ヒェッ…ものすごく気が立ってます。確か霧子は一年放置時点で【そしてアザレアの花咲く】であやめとその他アザレア組を喪ってるんですよね…その事件の犯人と同一のやり口。トラウマが刺激されてもおかしくないんでしょう。
「朝倉さん…少しいい方が厳しすぎると思うわ。」
「すまん。少し混沌事変のことを思い出しちまった…」
「けど少なくともあなたの言い分は正しい。いろはは私が護るから安心して。」
「頼む」
　黄昏の街をさらに走ります。信号を渡って…
「おいそこの！右みろーーーーーー！」
　右？トラックゥ!?全速力のこれに轢かれたら魔法少女でもただではすみませんちくしょうめ！即席でガードしつつ変身。下に入らないように踏ん張りながら逃げ出します。時速７０キロぐらいでしょうか。殺す気満々です。…消えましたね。おそらく口づけを受けたのでしょう。ちょうどいい。やちいろに連絡を入れて探索を続行します。
　ってそこに倒れてる青髪きょぬーの子はレナちゃんじゃないですか！すぐに夏目書房送りにします。…つきました。
「朝倉さん！」
「昏倒者を拾った。どこに置けばいい！」
「案内します！」

「朝倉さん、この件…どうみますか？」
「混沌か、その流れをくむものか…兎に角昏倒した奴を受け入れろ。そしてホオズキ市の千里を呼んでくれ。」
　実際魔法による昏倒なら千里ネキが何とかしてくれますからね。すずマギ勢でもチート級の一人です。原作でもこの子が生き残ったら犠牲ゼロもあり得たほどです。…あすみの線も疑いましょう。彼女の願(呪い)は「自分の知る周囲の人間の不幸」です。おそらく人が多くいる場所らへんにいるでしょう。もしくは魔法少女を狙ってるか。
「承知しました。かこ！すぐに千里さんを呼びなさい！あきらは看護を！私と美雨で街に出ます！」
「わかりました！」
　街中に盗聴器を仕掛けて傍受体制を整え…大量の黒い瘴気!?…あれは黒羽根のドッペルじゃないですか！あすみの魔法は精神攻撃。なら近くにいることは確定でしょう！糸でグライダー風のものを形どって脚に糸を集中。指向性をもって爆発させて滑空。――いましたね。ゴスロリ調の衣装、銀色の髪。モーニングスター。この子こそ神名あすみです。
　グライダーを剣に変換してあすみの前に着地…
「お前もこの町に来てたのか。…ここで死ね。みんなに手出しはさせない。」
「へ～え、いまさら正義の味方ごっこするんだぁ？あんなに殺しておいて…」
「黙れ。」
　黒いのっぺりとした仮面を生成。顔にあてると側面から黒灰色の帯が何本も噴出。そのまま頭すべてを覆い隠してしまいました。なにやらステータスが変更されましたね。新しいパッシブが何個も生えてます。
＞パッシブスキル開放
＞カースド・ホライゾン
　ソウルジェムの汚れが一定以上の場合威力を上昇。この効果の発動中浄化効率低下

＞即時縫合
部位切断による行動不能・行動制限を受けない。ダメージを軽減
＞仮面
ソウルジェムを破壊されない。仮面を部位破壊されることで解除
＞追憶
このバトル中［記憶］技を開放。その消費魔力を低減
＞全力戦闘
全攻撃威力上昇。
＞痛覚遮断
激痛による行動制限・ストレス値増加を受けない
＞押し込めた心
この戦闘中感情による影響を受けず、ストレス値の増加処理を行わない。戦闘後に増加計算を行う
さて…始めましょう。このまま何かこれ以上のガバを起こされる前にコイツを倒します！

17：これで私のサヨナラ勝ち

画面がぐらつきましたね。おそらくあすみの精神攻撃でしょう。考える前に殴ります。とりあえず記憶技を使っていきましょう。軽い魔力消費に対して属性変更と高威力とか最強レベルのぶっ壊れです。

＞記憶―静海このは

おまえ未練たらたらじゃねぇかよぉ！

武器が双頭の槍に変化。糸の嵐が発生してあすみを攪乱。死角から殴りに！

『あなたのせいで！あなたが私たちの輪に入ってきたからみんなバラバラになってしまったのよ！』

うるせぇ！これがあすみの精神攻撃です。期間が短いからこのような罵詈雑言になるだけでこれで動きを止めればすぐに失意の庭（ロストウィル）や開演（ファー）の時は来たれり（ト）、此処に万雷（フォ）の喝采（リオ）をもかくやのひでえストーリーが展開されます。もし普通の魔法少女であれば即時ジェムを濁らせて魔女化するでしょう。ですがこのまま攻撃を続行し続けます。このはを貫いてさて次は…

＞記憶―遊佐葉月

武器を斧へ変更。黒い雷によって高速でうごいて斬撃を飛ばします。そして周囲を切り刻んでいき…当たりぃ！

『また…アタシたちを見捨てるのか？』

「やっぱりねぇ～自分で殺したならもう一度殺すのにも躊躇なしってこと？」

＞記憶―三栗あやめ

『あんたと、トモダチにならなければよかった。』

あやめの大剣を装備。マギア「未確認飛行ファイヤー」の要領で魔力の円刃を飛ばして追撃…モーニングスターが飛んできたので防御。この剣攻防一体で使いやすいですね。さらに接近して鉄球を剣で受けはらいランスに変化。ダメージを与えられましたね。このままブチ頃してしまいましょう。

あすみが鉄球をぶつけるも霧子のメイスによって相殺。そのまま接近を許すも至近距離に鉄球を出現させ防御…そして周囲に魔方陣が顕れた。
「…チッ！」
四方八方から降り注ぐ鉄球。このような物量作戦ができるのはただ魔女を狩るだけでなく高い素質、そしてグリーフシードの略奪により得た膨大なリソースがあるあすみだからこそのもの。そしてあすみには…
「ほうら！」
霧子は鉄球の回避に専念するが急に鉄球に引き寄せられるように跳躍。そのままたたきつけられ地面に伏す羽目になった。
「……」
「今のアンタには効きにくいようにしてるからねぇ…いまはこうやって痛めつけたほうがいい。」
「どういうことだ。」
「あっはははは！」
何かに吊り上げられるようにして体勢を立て直し剣をつがえて再度あすみに迫る霧子。さらに方向転換。先のつばぜり合いでつないだ糸の感触から目の前のあすみは幻影による偽物と看破したのだ。剣を振り、瞬時に大剣へ変換。想定もしてない武器の変化によりあすみの体は切り裂かれる。
「がっあ…」

「ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯ」
さらに銃撃。双剣による連撃。あすみは退避するために高い魔力で瞬発力を強化して飛びのくも霧子の連撃は終わらない。あすみ以上のスピードで切り裂きにかかる。拳撃、短剣による斬撃、ランスによる刺突が間合いを狂わせていく。悪あがきに鉄球を打ち出すも斧で、メイスで、ハンマーで弾き飛ばされ大剣によって切り飛ばされる。そして剣を構え迫っていき…
「――――！」
霧子のかろうじて残しておいた感覚が何かに焼かれるような刺激をとらえた。一瞬の後、衝撃。気づけば様々な魔法少女に武器を向けられていた。
「――っまさか！」
「あんた、何やってんだ！」
「朝倉さん、どうして…!?」
「どういうことか、説明してもらうわよ…」
「これで私のサヨナラ勝ち。」
霧子がＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯを発動した瞬間、あすみは文字通り「あすみ以外は眼中になくなる」ことを内容に精神干渉を行った。あすみが逃げたのは魔法少女の目にとまるようにするため。
結果魔法少女の目には行方不明の魔法少女を殺しかけた霧子という霧子のイメージを失墜させるに十分な光景が映ることになったのだ。

１８：誤解晴らしのために

アァ、オワッタ…こちらに大剣を向けてるのは十咎ももこ。西のドン（七海やちょ）にも槍を向けられてます。ももこの後ろにいるのはかえでしょうか。いろはの信頼度もたぶんメガトンコインしましたね。はたから見たら完全に銀髪ロリ美少女を霧子が頃しかけてる事案にしか見えません。あ、遠巻きに黒羽根もいます。チラッと見える緑の髪は宮尾時雨でしょうか。震えてる様がかわいいですね（現実逃避

「どういうことか、説明してもらうわよ…」

…これ以上の攻撃を続ければただでさえ低下した信頼度がさらに低下しかねないので素直に手をあげましょう…槍とツタで拘束されましたね。

「あんたは中央に連行する。そこでおとなしくしてろ！」

そのまましょっぴかれて中央のプレハブ小屋に軟禁されました。ソウルジェムは没収。魔法の行使も禁止されてます。監視役のひなのに面会を頼んでおきましょう。あとは面会次第です…ＮＮＫネキこい、ＮＮＫネキこい…

（ゲーム内数時間後）

イよし！ホオズキ市への介入で信頼度は上がってたので来てくれました。あそこでやったのは実質的な人助け。そして記憶を戻してくれたという縁があったためですね。

「――少なくとも、貴方は理由もなく人を襲うような真似はしないはず…となれば、あの銀の少女に何らかの因縁が？」

魔法で霧子は自身に敵対しないとわかってくれてるおかげかすぐにあすみ側に問題、何らかの因縁があると察してくれました。ただし相手は神名あすみ。下手に察せられるような行動をとれば組長が瓶詰にされかねません。

「そういう…離れろななか！」

えっ？敵反応!?もうあすみが攻め込んできたと!?すぐに飛びのい

て回避！見た目は…角に口裂け？そしてエリマキ…夢遊の亡霊だとぉ!?

　これはプレイヤーキャラのカルマ値が一定以上のときランダム発生するイベです。シンプルに夢遊の亡霊…ユゥがカチコミをかけてきますがコイツが強いのなんの。戦闘中変な精神干渉などはおこなってきませんがただ純粋に実力が高い。しかも元々高い攻撃力にカルマ値に応じた特攻も付与されるため余裕で死ねます。ＲＴＡするときは外道行為は控えるようにしてネ！

「ふ～ん、強いね～。たいていはこれでイケたんだけどな。」

　あーもう！すぐに変身して戦います！ひなのに許可をもらってジェムを返してもらって変身！そのあとひなのにジェムを預けて交戦しましょう！相手の獲物はナイフ。剣を生成して攻撃を受け流して返しざまに切りつけ…！防がれました。

「黙ってみてるとでも!?」

　刀の一閃。やっぱりななかネキの援護を…最高やな！さらに化学薬品が降り注いでユゥをデバフ漬けにしてくれました。

「ねぇなんでソイツに味方するの？」

「あんたこそ、なぜここを襲撃した!?」

「リストにそこの黒いの…霧子が載ってるからだよ。悪人は全部殺さなくちゃ」

「…話が通じませんね。構えてください。都さん。」

　構図としては3対1。そしてひなのが霧子のジェム握ってるのでひなのが落ちたらゲームオーバー。かなり特殊な状況ですがまずはユゥを追い返すことを優先しましょう！

～side：あすみ～

数日前、キュウべえから面白そうな情報を聞いた。

「神浜市には僕らインキュベーターは入れないんだ。原因もわからない。」

成程、となればそっちで何かが行われてると…最近前々から追い詰めていたいじめの主犯を壊したところだ。表面上の優等生からどんどん転がり落ちていってすがるように契約をして、最期にはクラスのだれからも悲しまれずに魔女(死んで行方不明)になった。面白かったなぁ…

ただあいつらの言う”素質のある子”も潰していったせいで各地から正義の味方ヅラしたのを送り込まれて対応に苦労したけど。

ちょっと脱線したけどあいつらが入れない街。多分そこではキュウべえに知られたくないことをやってるのだろう。おそらくキュウべえへの反感と言えば魔女化…それを防ぐため？なら私がやることは決まってる。ぶち壊してやろうじゃん。あそこの魔法少女、どんな風に絶望してくれるかな…？

そうと決まれば即実行だ。神浜市に入る。魔女の気配で満ちた町だ。グリーフシードには困らないだろう。ただ拠点も必要。さてどの家を奪って…あ、いたいた。そこにお人よしそうなのが。少しの間魔女の気配を感じ取れないようにしてから結界内でテキトーに追い詰められる。そしたら、ほら助けに来た。あとは同情を誘って家に上げてもら…みかづき荘っていうのか。寮ってわけ？まぁいいや、より多く楽しめるし。

私を引き取ったピンク髪のは環いろは。おそらく管理人の青い髪のは七海やちよで、中華料理を持ち込んできたのは由比鶴乃…いいじゃんいいじゃん！よりどりみどりだ。仲間を死なせることへの恐怖と拒絶。表面上だけの元気。壊し甲斐がある。

…対していろはにはちょっと引いたけど。やさしさしかねーじゃん。■ッポかよ。私の傷跡を見られたときはものすごく心配されたし涙も流されたし抱きしめられた。しかもそれによくある憐憫とかはなくてただ悲しみと絶対に幸せにするという意思だけ。…だったら周りのヤツからやっていこう。鶴乃からだ。疲労感を増させて…

「あすみちゃーん、ご飯だよー」

「はーい」

まぁ始めるまではいい子ぶっておくよ。ご飯を口に運ぶ。…今日のはなんか味が薄いな。

「…」

「味付けが薄いわね。」

「あ～、病気の妹に食べさせるために塩分とか控えめにしてて…」

けど、それでも温かかった。まるでお母さんと一緒だった頃みたいに――心の中がザワザワする。ムカつく。

その翌日。あいつが来た。私の正体を知る厄介者。あの時殺し損ねた黒い魔法少女。

「……」

顔は平常を作ってるけど中身は凄かったなぁ。私への警戒と不安感でいっぱいだ。あぁ、それにまだ私の仕掛けが生きている。あいつの弱点は、人の死と不幸だ。それも結構殺してるし、覚えられる限り一人一人の名前と特徴まで憶えている…!あぁ、吐き気がする。

何でそこまで生きているのか不思議なものだ。ていうか矛盾の塊だ。だから私は罪悪感を少し抑えるようにしてみた。解除すれば…本来受けるはずの罪悪感で潰れちゃう!

さぁどれだけため込んでるか見ものだよ。まぁその前に、一番新しい嫌な思い出を再現してやろうじゃん…!?さあ、ちょっといろはたちに私の姿をみえないようにして白いの…天乃鈴音に被害者たちの怨嗟を聞かせて、手当たり次第に眠らせよう。楽しいオマケもつけてあげる…!

１９：ＶＳユウ

ナイフを躱して銃撃！そこをななかが切り込んでその傷をひなのの化学薬品で回復阻害！コンビネーションはやっぱりいい。ってあぶねぇ！ひなのに切り込んできたので剣で防御。ひなのにソウルジェムわたってるのバレてますね。

「早く渡してよ～、そうしたらむやみやたらに巻き込まずに済むし。」

「少なくとも朝倉は魔法少女の間で処遇を決める。勝手に殺しはさせない。」

「じゃあ少し痛いけど、我慢してね？」

瞬時にひなのに接近されました。

ひなのをやられると同時に霧子の氏も決定しますので全力で盾になりましょう。武器を双剣に変更。…回り込まれました。ひなのを強化した脚で蹴り飛ばしてにがし双剣を投げつけてユウを牽制。そしてソウルジェムがこぼれ落ちてるためそれを回収。

「悪いひなの！」

「あ、やりやすくしてくれてありがと～。」

ソウルジェムを定位置に戻して大剣で防御。ランスで突き刺して…あぁくそ！やられました。ＨＰがごっそりいかれましたね。さらに斬撃が飛んできたので回避。ひなのが爆弾投げて目くらましてくれたのでスナイパーライフルを装備した偽物を配置。ライフルを起動させて注意をひかせてナイフが偽ジェムを貫いたのを確認。その後分身を糸に戻してユウを拘束！

「ななか！」

「ええ！」

ななかが刀をユウに突き刺して地面に固定。…結界補強が働かない…？

「っ霧子さん！」

「わあってる！」

自動操作ということか！飛びかかってきたユウにナックルガントレットでカウンターを打ちました。どうやらあっちも偽物だったと

…って黒い鎖!?いや、つながった爪がユゥに降り注ぎました。おいちょっと待ってくれ、いよいよ収集がつかなくなってきやがりました。この武器を使う魔法少女は…

「やぁ、手伝うよ。」

クレイジーサイコレズの一人、呉キリカのご登場です。この娘が来たということは自動的に織莉子が神浜市を捕捉してるということです。彼女の行動パターンは織莉子の未来予知次第で変わります。例えばマギウスルートでは土壇場でおガキ様たちをコロコロしたり普通に見滝原ルート走ってたらプレイヤーキャラをコロコロしてきたり…ロクな思い出がありませんね。

「そうだな、助太刀してくれるとありがたい！」

「織莉子の指示だからね。」

先ほどと比べてユゥの動きが明らかに遅くなってます。キリカの固有魔法の影響ですね。霧子も仮面を装備。頃す気でかかります。まず霧子が罠を設置。ななかとひなのは後ろに下げてキリカとの連携メインでいきます。少なくとも織莉子の指示でユゥと戦ってるということはこの戦闘中はユゥ討伐に専念＝ガバを起こさないでいてくれるので。

「っ早いね！」

「違う違う、キミが遅くなってるんだよ。」

キリカは爪の展開などで周囲のことは知ったこっちゃない戦い方をしてるのでスナイパーライフルや拳銃での援護を中心に、罠のあるほうに誘導…フィィーッシュ！かかりました。さらにキリカと反対方向から接近。双剣で串刺しにして…

「おしまい」

あ。キリカがジェムを砕きましたね。ただこれでユゥが氏んだかというと微妙なところです。死亡モーションもスーッと透明になるようにして消えていきます。この後低確率で再びユゥが襲い来るというイベが発生するので油断大敵です。

「…なにも殺す必要は…！」

「っ都さん、構えて！」

「察しがお早いことで！」
　今度はひなのとななかに襲いかかりました。あぁもう！こっちもキリカに触れるのはまずいので銃を打ち込んだのちナイフを投擲…接近してきましたね。剣で防御。
「なぁ、キミの名前は？」
「っ朝倉、霧子…！」
「ふーん、織莉子の言うとおりだ！」
　何やら交渉する気でしょうか？
「ジェムはもう持ってるんだろう？ここから逃がしてあげるよ。誰も殺しはしないし。」
「っ対価は、なんだ。」
「そんなものないよ。ただこれが織莉子の役に立つんなら私にとってそれ以上の褒美はない。」
「…乗った。」
　どうやら逃がしてくれるようです。適当にせりまけて斬撃を喰らい血を噴出して倒れこみ、キリカがななかたちのほうへ行ってる間に偽物を生ｓ…
「お運びします」
　黒羽根ェ!?ナズェハコンデクレルンディス!?
「っ待ちなさい！」
「君たちの相手は私だよ！まぁ周囲に血だまりは作ってもらおうか!?」
　……ミレナ座裏に運んでもらえましたね。これ以上何かをするわけでもなし。
「由良子様の命により、貴方を運びました。安心してください、キリカ様が戦った魔法少女たちは命に別状はありません。」
　ご丁寧に状況まで見せてくれてますね。まぁ自由に動けるようにはなりました。織莉子マギウス入りが確定したようなもんで頭が痛いですがこの後どうするべきか…

２０：預言者

～ｓｉｄｅ：織莉子～

破滅を観た
破滅を観た
破滅を観た

すべての命の”救済”を見た。舞台装置により文明の総てが吹き飛ばされた。魔法少女の國が世界を呑んだ。幸福な魔女がすべてを滅ぼして、旧き女王がすべてを支配して。新人類と名乗る人形共が人類を絶滅させた。

ありとあらゆる破滅を見た。私はそのすべてを回避しなければならない。それが私の使命。私のすべて。

「織莉子、用事は済んだけど…大丈夫かい？」

私の言うことを何でも聞く人形がいる。衆目の支持者も集めた。けれどもまだ足りない。ありとあらゆるイレギュラー。そのすべてを排除しなければ。

「大丈夫よ、それじゃあお茶会にしましょう。」

「え～、私は二人っきりがいいのに…」

今まどかに手を出せば、暁美ほむらに捕捉され計画がご破算。チャンスはすべての災厄が集う刻。それまではこうやって『謎めいたマギウスの由良子』を演じ続けよう。

「これで私のサヨナラ勝ち」

先日見つけたイレギュラー。私たちの計画を壊しかねない不穏分子。それを迅速に消すために黒い魔法少女、朝倉霧子を解放した。うまく相打ちになってくれればいい。

――すべての滅びを回避した末、神浜は、否。日本は消え失せる。多くの犠牲者も出るだろう…けれど世界の終わりに比べればいくばくかはマシだ。

「霧子さん!?」
「静かにしてくれ頼むから!!」
はい、今はかこに連絡してるところです。幼女襲って収監され精神異常魔法少女にカチコミされた挙句怪しい組織に拉致られた人が連絡してきたらそりゃ驚きますよ。とりあえずマギウスのことは今は放っておいてあすみをどうするかが先決です。
「…で、千里の件は?」
「ホオズキ市にてカガリが魔女化したらしくって…その後始末で忙しいと。」
「そうか。」
やっぱりカガリはあのまま魔女化しましたか…一応犠牲ゼロで倒してくれてたらいいのですけど…
「けど昏倒した人たちは起き上がってるんです。」
そういえば前に七海やちよが起き上った人が狂暴化したとかいうようなことを言ってましたね…念のため千里が来るまで保護を
「…すでに数人開放してしまったんですけど、その中には魔法少女も

いて…」
ヴァァァァァァ！今回昏倒させられてた娘の中にはメインストーリー、絶交ルールのウワサにかかわる水波レナがいます。ここで死なれては凄惨なことになりかねませんので一刻も早く見つけ出さないといけませんし千（固有魔法特効薬）里の発注も急がないとだしそもそもみかづき荘組にあすみの正体を教えないといけないし…これは、無理ゲーじゃな？
いや、やってみせろよ、走者ァ！
まず絶交ルールについて調べます。失踪者が出ていればもうストーリーが進行してる証です。そしてあすみがただ昏倒させただけは絶対しないのですぐに水波レナを探し出して千里に合わせましょう。そしてあすみの正体についてですが鶴乃ちゃんあたりを市外に連れ出してキュウべえにから聞き出し、キュウべえからの言質という最高の情報を引っ提げる！これでワイのサヨナラ勝ちや！
ということで神浜市立大附属学校。うわさ話を聞いてみましょう。
「ねぇ聞いた？■□さん、昨日から姿が見えないんだって…」
「もしかして絶交ルール？そういえばあの子アイツとはもう絶交よ！とかいってたけど…」
ビンゴ。やっぱり絶交ルールのウワサは起動しています。確実にレナはかえでを避けるように行動するでしょう。それに昏倒させたのはあすみ。原作のような奇策はほぼ打てないことになるはずです。現時点ではどうしようもありませんので万々歳に直行！ってそこで走ってるの鶴乃ちゃんじゃないですか！
「あ、幻覚じゃ、ないよね？」
「あぁ、正真正銘俺だ。」
こっちに突進して…って完全にハイライトＯＦＦになってますね。一応これなら楽園行き覚醒前夜ですぐに助け出すことができてＲＴＡ視点ではうまあじです。精神強化？知ら管。
「…ここで会ったことは秘密にしてくれるか？」
「うん…」
ではいったん市外に連れ出しましょう。あと鶴乃ちゃん霧子にし

がみついてどうしたんですか？
「もう少しだけ…このままで…」
　わかりました。鶴乃ちゃんが満足するまで路地裏でイチャイチャした後ななか組にも連絡を取ります。そして市外でキュウベえを呼び出しましょう。
「やあ、また何か用でもあるのかい？」
「ああ、まずこの盗聴器にもあんたの声が聞こえるように調整してほしい。そして…神名あすみについて教えろ。」
「いいよ。それじゃあ調整も済んだし、話そう。」
　ここから離される話はあすみの経歴です。幼い頃離婚の後母が氏に、引き取られた先で虐待を受け、探し出した父親はあすみのことを忘れて幸せな生活を送っていた。それに憎悪したあすみは周囲の人間すべての不幸を願って…という経緯です。
「そんな…」
　霧子の抹殺対象といいロクでもないことをしてきたことは確実でしょう。そもそものコンセプトは「女神まどかさえ救えない魔法少女」まさにその面目躍如です。
＞アイテム「あすみの過去」を取得
　証拠品も取れましたしななかとあきらが合流してきました。
「まず鶴乃。絶対にみかづき荘に近づくな」
「うん。…やちよといろはをお願いね。」
「ああ、絶対に奴をここで排除する。」
「あすみの過去、聞き入れました。これ以上の禍を引き起こす前にその根元を断ちましょう。」
　ではパーティー作りです。鶴乃は何らかの干渉を受けたと仮定してななか組で保護。そして鈴音に連絡を入れてホオズキ市に帰るという体で討伐メンバーへの引き入れを実行。あと適当に市外を探索します。
　レナがかえでを避けるあまり市外に出て魔女化とか目も当てられませんからね。魔女結界をめぐって青い髪の魔法少女はなし…おそらく大丈夫でしょう。多分ゲームセンターでたむろしてるでしょう

ね…

そういうわけで神浜に帰還しました。もう深夜ですね。とりあえず広場に…うん？この孤独なｓｉｌｈｏｕｅｔｔｅ、そしてポニーテールの赤い髪は…

「杏子!?」

「霧子か！久しぶりだな！かなり雰囲気変わっちまってるけど…」

「あー、そこんとこは、色々と、な？」

〉その指輪、杏子も魔法少女になったのか…

佐倉杏子じゃありませんか！霧子の幼馴染というだけあって好感度も高そうだし…彼女もあすみ討伐チームに迎え入れましょう。彼女の強みは強靭なメンタルと火力です。あすみの精神攻撃にも耐えうる逸材です。

何気に霧子の人間観察能力も優れてますね。さりげなくわかるように自分の指輪も見せてます。

「アンタも魔法少女だったんだな…」

「せっかくだから色々話すか？」

「あぁ！」

微笑ましいですね…ただこのタイミングで神浜に来るとは、随分時系列が前倒しになってますが…

「で、アンタは人助けしてたのか？」

「いや～、俺も生きるのに精一杯だったからなぁ…恥ずかしながら、わざと使い魔逃がしたこともあったけど。」

「アタシもだよ。ただでさえグリーフシードは枯渇しかねないからさ…ま、今はそんなことできそうにもないけどさ。」

「何かあったのか？」

「魔法少女になりたてで、バカ正直な奴がいたんだよ。…そいつに昔の自分重ねちゃってさ…」

「そうか。…なんかしんみりしちまったな！」

「そういえばアンタもだよ。なんか焦ってるような表情だったよ。」

「それ聞くかー。…この街にやべー奴が出たんだよ。結構な数の魔法少女がいるこの街だけど。最悪皆殺しにされかねないレベルの。一

旦この町から出たほうがいいと思うぜ。」
「アタシも手伝おうか？」
「マジ？止めといたほうが」
「勘違いするなよ、自分が殺されそうだから殺されないよう努力するだけなんだから。」
杏子マジツンデレ聖女だなぁ…今回はここまで。ご視聴ありがとうございました！

東区の巨大魔力反応。その正体は東区を丸ごと取り込み、異層次元に結界を構えるマギウスの翼の本拠地。魔法少女開放要塞【フォートレス・フェントホープのウワサ】である。広大な宿舎を構え、迎撃施設、並の兵器では貫けぬ装甲をまとった魔法少女開放の証。
マギウスの指令、ウワサ、そのすべてがこの要塞から発せられる。そして今日。リーダーたるマギウスから一人の少女のもとに指令が発せられた。
「…連絡か。」
佐倉杏子が下げたペンダントが緑色に光る。彼女にのみ指令が伝

えられる。
［羽番０８３、至急北塔へ来てください。マギウスが一人、由良子様がお待ちです。］
「杏子さん。」
杏子に歩み寄ってきたのは黄色の魔法少女。マギウスの翼の中でも正体をさらして行動するものはかなりの実力者ととらえられる。彼女の名は巴マミ。神浜聖女の名のもとに、魔法少女救済の戦力となった少女である。
「…マミか。もう大丈夫だよな？」
「ええ、いろいろ衝撃的なことがあったけど、くよくよしてられない。これからは魔法少女救済のために頑張らなくっちゃ！」
「……」
マミと別れ、杏子は北東に足を運ぶ。――北塔頂上。。そこには書記机と、顔をのれんで隠したマギウス、そして側近と思われる黒羽根がいる限りであった。
「で、アンタは何を命令したいんだい。」
「…貴方にはいったんマギウスの翼を抜けてもらいます。」
「！――羽根じゃあできないことをやってもらうってことかい。」
「ええ、察しが早くて助かるわ。…地図をここへ。」
黒羽根が紙を取り出すと杏子に投げる。その紙は吸い込まれるように杏子の手に収まった。
「この地図にある印…その地点へ向かってほしい。そしてその後は私からの指示があるまで好きにして良い…頼めますね？」
「…わかったよ。じゃ、話はこれで終わりかい？」
「ええ、……ご武運を」
杏子は北塔からフェントホープを出て街にくりだし、霧子と再開することとなる。それを配下の黒羽根から確認した織莉子はほくそ笑んだ。また滅びの回避…己の正義に近づいたと。

21：業

さて、杏子も合流。ここから絶交ルールに介入するには複数の案があります。

まず神浜市のゲームセンターを回る案です。あわよくばレナか、それを探してるももこに出会えるでしょう。しかしこっちはももこに少女を襲った犯人とみられています。それに今の霧子は指名手配犯も同然。リスクが高すぎます。

次にみかづき荘襲撃ですが色んな信頼値や好感度やらがメガトンコインするわあすみの人質置き場になりかねないのでキャンセルだ。

公園待ち伏せ…はそもそもこちらが絶交階段が本当にあるという確信を得られてないのでフラグが立ってませんし。かえでやももこに警戒されてしまいます。さてどうするべきか…

走者に電流走る。なら全部やればいいんです。まず杏子に昏倒時に拾った魔法少女を確保することを頼みます。前金としてグリーフシードの提供を…断られましたね。ただ探してはくれるようです。まあいいでしょう（元ｒｙ

公園待ち伏せについてはななか組に頼みます。レナとかかわりのある魔法少女を探してもらって見つけたら連絡を入れてもらいます。そしてそれにみかづき荘組を同伴するように仕向けるのは自分でやりましょう。幸い市外で魔女狩りしてたのでグリーフシードならあります。これをふ化させてももことみかづき荘組を誘い出します。

まず杏子をゲーセンに放流。その後ななか組に連絡を入れて昏倒事件時に拾った魔法少女、およびそれにかかわりのある魔法少女を探してもらいます。そしてみかづき荘付近に待機して連絡を待ちます…

ファッ!?画面歪曲!?まさかもうあすみが!?やめてくださいなんでもしますから、アーッ！

～ｓｉｄｅ：あすみ～

「ごめんね？すぐに見つけられなくて…」

全部予定通りだよ勘違いも甚だしい。そう思いながらいろはと一緒に寝る。コイツと一緒に寝るとなぜだかいつもの悪夢を見なくなる…殴られたりも、キモチワルイコトもない。…この街を終わらせたら持ち帰ろうかな。心を壊した人形にしてさ。そうすれば…

「私がそばにいるよ。」

そんなことを言って、私の正体を知ればすぐに私のことを嫌いになるんだろう。現に霧子がそうだったように。

…！近くに私の”マーキング”の反応がある。成程、もう抜け出してきたと…少し早いけど仕掛けを発動させよう。ドッペルとやらを使いすぎるどうなるのか気になるし。さあ、君はどれほど絶望してくれるんだろうね…！

～ｓｉｄｅ：霧子～

「それはそれで、これはこれなんだよっ……！」

死体、死体、死体、死体。生きるために殺してきた。大切な人の仇を討つために殺してきた。そのために他を利用してできたもの。少し前までは、俺は犠牲を出すことを受け入れきれるようになったと思っていた。…けど違った。そうじゃあなかった。ただ目をそらさせられただけだったんだ。

「それはそれで、これはこれ。割り切るのよ。魔法少女として生きる以上今までのことすべて抱え込むとか。命がいくつあっても足りないわよ。」

「それはそれで、これはこれ、かぁ…それが魔法少女なんだろうな。」

いつかのおもいで。〝たいせつな人〟から与えられた言葉を繰り返す。そうすればこの絶望から逃げられると思って。だが現実はどうだ？この苦しさは？この罪悪感は？

『ねえ、なんなのこれは。私はこんな方法で延命されていたの？こんなのなら、あの時自害しておくべきだったわ。』

ごめんなさい。手っ取り早くグリーフシードを手に入れるためには、それしかなかった。フォークロアの依頼に従うしか…

『あなたを私たちの輪に入れたのは不正解だった。』

『あちしを殺したあんたが言わないでよ！』

『あんたのせいで、私はみんなと引き裂かれたんだ。』

俺が神浜なんて紹介しなければ、あやめが家族を憎むことも、このはが狂うことも、葉月が家族と引きはがされることもなかったんだ。全部、全部俺のせいで…

『『おまえの復讐のせいで、俺／私／僕達はたちは妻／娘／息子／夫／兄さん／お姉ちゃんを失ったんだ。お前がわざと混迷を招いたせいで、俺／私／僕たちは…！』』
『結局アンタも私と同じだね。どんな気分だい？あれほど憎んでたあたしの同類になってさ』
　そうだ。帆奈をあぶりだすために俺はもう一度西と東の関係性を悪化させるように仕向けた。その犠牲に目をつむった。そのつけが回ってきたんだ。ごめんなさい。大切な人を失う苦痛は、俺も知っていたはずなのに。
『つくづく救いようがないねえあんたは。ま、グリーフシードはため込んでんだろう？よこせよ。』
　そうだよな。俺にできるコトはこれぐらい。せいぜいほかの人の糧になって…魔女にでもなってしまえばよかった。
『やっぱりな。やはりお前は産むべきではなかった。他人を犠牲にし続ける屑が。』
　あの虐待で死んでおくべきだったんだ。俺の望みで犠牲を高く積み上げるくらいなら、俺は…！

―こさん、りこさん、…霧子さん！」

！ここは…俺は意識を失っていたのか？俺を起こしたのはななかで、そばにいるのは千里か…

「魔女かと思いましたが、まさかあなたのドッペルでしたのね…力を出し切らせてもまたすぐ濁り始めたので、まさかと思って千里さんの力を借りたのですけど、やはり案の定でしたわね。」

そうか…

「助かった。で、ほかの奴らは？」

演じきれ。うまく笑え。そうでなくちゃいけない。俺は今は【少し困っている、お人よし魔法少女の霧子】なんだ。ガワがはがれたら、みんな離れていってしまう。自分の気持ちに、ふたをするんだ…そうでなきゃ。俺は…何がしたいんだろうな。

２２：絶交ルールのそのウワサ

生きてる～！はっはっは！（２回目

ななか組長もいるし、千里が固有魔法の解除を行って、それであすみの精神攻撃から脱したと…

「助かった…で、ほかの奴らは？」

「今は千里さんとコネクトし、例の魔法少女を足止めしています！」

「っ！」

あれ…操作が利かない…アイェェェェ!?自動操作!?自動操作ナンデ!?まっすぐに交戦地帯に向かって、ってあぁやっぱり！千里の解除が働いてそこまで大事になってませんが交戦してるメンバー３人のうち２人がドッペルを発動しています！メンバーはあきら、美雨、鈴音。そのうちドッペルを発動してるのはあきらと美雨です。幸い暴走はしてませんが…

「ほらやっぱり！」

「すみません皆さん！」

スナイパーライフルであすみをぶち抜きましょう。２人のドッペルが収まるのを確認してから、討伐メンバーを守るように行動します。

「やっぱりしぶといねぇ！それに殺人鬼サンも私の正体に気づいてたようだし！」

「何とでも言いなさい…貴方は、ここで！」

「やだなぁ～、まだ私もやり終えてないことがあるし…」

足止めをするつもりでしょうね、こういう精神系は一気に大勢を昏倒させるなどしてやっとこさ追い詰めた状況を台無しにしてきます。前にハードモードをプレイしたときに散々味わってきた手口です。ここは文明の利器に頼るとしましょう。小型ＧＰＳ～（ドラえもん

「せぇりゃ！」

メイスでつばぜり合い、衝撃でのスタンを確認したら記憶―神名あすみでモーニングスターを生成。ＧＰＳを封入してシュゥー！

「しつっこいねぇ!!」

「千里ォ！」
「【眠れ、悪夢を見続けろ！】」
視界がブラックアウト、そしてアザレア組やら杏子やらが罵倒してきます…まぁ解釈違いも甚だしいセリフを言うこともあるのでそこで判別できますが。…まだかな…
いよしっ！視界が戻りました。やったね霧子ちゃん！
「…よかった、そこまで濁ってはいないわね。」
「助かりました、千里さん。」
「みんな無事、だな。」
兎に角これでまた行動できるようにはなりました。…さて、ここまでガバもいいところですが私のチャートではレナに千里の固有魔法をかけてどうなるか次第です。まだ致命傷ではない。
「みんなは傷の治療、ソウルジェムの浄化、後念のため千里にもう一度見てもらってくれ。」
一旦落ち着かせたのち、杏子に電話を入れましょう。端末はもう渡してあります。霧子の備品って一度見た瞬間ほむほむか!?って思いましたけどあちらは銃やらロケランやらで火力重視なのに対しこっちは盗聴器、通信端末、ドローン、パソコンなど情報戦に向いたものがそろってますね。
「もしもし、霧子だ。…言った魔法少女は見つかったか？」
「あぁ、いたよ。」
「じゃあ追跡を続けてくれ。少なくとも行動パターンさえ分かればいい。」
「なんてゆーか…ほんとに変わったよな。まさかこんな風に目的のために他人付け回すようなことするなんて。」
「それはこっちのセリフだよ。前あったときは教会の行儀のいいお嬢ちゃんって感じだったじゃねーか。」
次は千里に話しかけます。
「次から次へと面倒ごとに巻き込んで、すまないな。」
「けど、助けてもらった恩はあるわ。私も魔法を使いこなせるようになってきたし。」

「…今回の相手はおそらくカガリ以上に危険だと思う。このままいていいのか？」
「何言ってるの、困ってる人を見て、黙ってみてられるわけないじゃない。」
「まったく、強いな、アンタは。」
「え？」
「いや何でもない…それと不謹慎なことを聞くが、カガリの魔女、どんな戦い方だった？」
「そうね…煙を出して攪乱してきたわ。それと触手による打撃。けどそれを聞いてどうしたの？」
　ファッ!?それカガリの魔女じゃないですね…まさか脱走した!?
「かなりまずいことが進行してるな。本来魔女っていうのはもとになった魔法少女に近い戦い方になるんだ…少なくとも俺にはあいつが煙だしたりするような奴には見えない。悪いが鈴音はホオズキ市に帰さない。しばらく神浜にいてもらう。」
「わかったわ…マツリたちには伝える？」
「いや、下手に情報を流したら口封じのためにアンタらが襲われかねない。ここだけの話にしておこう。」
　…気を取り直しましょう。少なくともレナは見つかりました。となれば後はももこかえでを探すだけです。
「ななか、あの青い魔法少女の知り合いは？」
「見つかりました。十咎ももこと秋野かえで。あなたを捕縛した人たちでした。」
　さてここからは杏子からの位置情報とななか組の位置情報を使ってかもれトライアングルを引き合わせます。そしてそれにみかづき荘組を引き合わせるという算段です。
「獲物を前にしたら間違いなくあいつは壊そうとするだろう。…千里、頼めるか。」
「もちろん。」
「ななか達は十咎と秋野の位置情報を提供してくれ。みかづき荘をつける。そしてレナの位置情報はつかんであるからそこに誘導。決行

は明日にする。」
　これにていったん解散。さてグリーフシードを使用した後すぐには孵化しないのを確認。暗がりにポイ捨てして就寝して時間を飛ばします。そしてグリーフシードを確認。糸を括り付けて魔法少女誘導機にします。ななか組に連絡を入れてももことかえでの位置を把握した後それにかこをつけさせるように指示。そして魔法少女誘導機を使ってかえでとももこの一団に引き合わせます。
　そして杏子の位置情報からするとレナは家にも帰らず人を避けるような行動をしてるとのこと…十中八九絶交ルールに引っ掛からないためでしょうね。まぁ全部筒抜けですが（黒笑
　そういうわけでみかづき荘組が引っ掛かってくれ、かえももかこと合流。ここからは絶交ルールのウワサに従って話が展開していくので見守って…レナを探そうという話題になったんで杏子に連絡。その位置情報をかこに念話でパス。それとなく誘導してもらいます。…おそらくあすみはレナたちで遊ぶ気でしょうね。何の妨害もしてきません。
　公園でレナと出くわしましたね。通常ルート以上にこちらのことを拒絶してきます。
「…レナに、近づかないでよっ！」
　いろはたちがレナと戦う羽目になりますが静観します。もしソウルジェムに当たりでもしたらリセですがね。精神干渉の線も入れてななか組を呼び、偽装で隠した千里をかことコネクトさせます。
「お願いだから、帰って！」
　ドッペル発現一歩手前ですねクォレハ…千里のコネクトを受けたかこが接触。
「レナちゃんごめん！」
　かえでがツタで拘束。ゲームセットです。
「いったいどうしたのさ…怒らないから、話してよ。」
「…放っておいてよ、もう別に関係ないでｓ…ちょっと待ってソイツ…」
「レナ…？」

「逃げて!!ソイツが、そいつとあってからレナは…ああなんで今まで忘れてたの?!」
　解除の影響で昏倒させたあすみのことを思い出してくれたくれたようですね。まぁこれで黙ってるあすみではありません。その場にいる全員が倒れこみました。とはいってもまだななか組は動けるんですけどね。
「あ～あ、なんで思い出せたかなぁ…ま、いっか。記憶消せばいいんだし、それに、あなたの願い、要するに自分を捨てたいなんでしょ？いいじゃない。もうあなたのことはだれも覚えてはいなくなるし…」
「あすみ…ちゃん…!?」
　はい解除ｗ。ＮＤＫ？正体バラされてどんな気持ち？
「ッ、眠れ。眠れ、眠れ！…なんで!?」
「神名あすみ。あなたには聞きたいことが山ほどできたわね…」
　実力行使に出てきました。ご存知の通りこの娘は素の実力も高いので、鈴音と協力して迎撃します！鈴音が切り込んだ後こっちも後ろから一閃入れときましょう。
「させないわよ。」
「鈴音ちゃん！」
「ま、一芝居打ったってところだ…」
「もうこの際あなたが何で拘束から抜け出したのは聞かないわ。」
「ええ、かこさん。もう下がっていいですよ。」
　さぁこれで１１対１や、さらに杏子もついてくる！ただ難しいのは下手な戦い方すると犠牲が出かねないんですよね。それに現時点ではななか組は新参者。うまくみかづきとかもれと連携できるか…まぁここまで来たらあすみを始末するのが最優先ですけど…
「レナちゃん！」
「かえで!?今は…」
「今だから言うの！ごめんなさいレナちゃん！別に前のことも誤ってなんて言わないから…また一緒に戦って！」
「っバカ！そんなこと言ったら…！」
アアアアアアアア！そういえばこれうわさの絶交ルールだったァ！

まずいですよ、これ下手しなくてもうわさが展開して…
アラもう聞いた？誰から聞いた？
絶交ルールのそのウワサ
知らないと後悔するよ？
知らないと怖いんだよ？
絶交って言っちゃうと
それは絶交ルールが始まる合図！
後悔して謝ると、嘘つき呼ばわりでたーいへん！
怖いバケモノに捕まって
無限に階段掃除をさせられちゃう！
ケンカをすれば、ひとりは消えちゃうって
神浜市の子ども達の間ではもっぱらのウワサ
オッソロシー！
でたぁ…周りに飛び交ってる南京錠がこのウワサの手下ですね。
本体は鐘のような形なんですけど今は姿を現してはいません。けど
羽根がいっぱいいるぅ…どうしましょこれ…
とりあえず今回はここまで。ご視聴ありがとうございました～

２３：対あすみ戦線

あーもうめちゃくちゃだよ…ていうか絶交階段にこの量の羽根がいるってそもそも通常ルートではありませんしハードモードでもあり得ません。

しかも手元には統一された剣じゃなくて、同一のブランドみたいなデザインとはいえ斧、短剣、銃などの武器のバリエーションが増えています。

疑似的とはいえそれぞれの武器を持ってくる黒羽根とか…これは詰みじゃな？実際普通の黒羽根の弱さの原因って使い慣れない武器を使ってるっていうのもあるし。

「うわ、本当にきた。」

「ウワサが標的を取り込めるようにしろ。そして自己の生存を優先して戦え。」

はいこれであすみＶＳ討伐メンバーＶＳ羽根＆ウワサの大混戦の出来上がりです。あーもうめちゃくちゃだよ。

「ちょっと！かえでに近づくんじゃ、ないわよっ！」

「数が多い！ってまてぇぇぇ！」

「捕まえてみなよ！」

黒羽根の一団とウワサの手下が襲ってきました。まず先に手下を大剣で薙ぎ払ってからツインメイスで黒羽根をたたいて気絶させます。倒れたのはぐるぐる巻きに。南京錠共も一緒に殲滅。鈴音以外の子たちが羽根に絡まれてるので銃撃。やちよさんも黒羽根を振り払ってくれてますね。あと杏子にも応援を要請しておきます…

「―ラ↘ン↗ラ↗ン↘ラ↗‼―」

う～わでたっ！これが【絶交階段のウワサ】です。もとから結束の力は弱点とし、単騎攻撃は減衰される厄介なウワサですがハードモードでは単騎での攻撃は全く効かなくなります。大剣作ってたたいてみましたが完全に効いてません。

「っかえで！…この、放しなさいよ！」

「黒フードたち、明らかに正気を失ってるわ！ごめんなさいそっちに

は行けない！」
〉あすみは逃げに入ったか…なら
レナのところに急行しましょう！
かえでが拉致られましたね。一応ここは通常ルート通りですが…最悪この状況ですからドッペル症まで持ってかれるかもしれません。
「撤退、撤退しろ！」
「【追い出せ】」
景色が元に戻って…これウワサから吐き出されましたね。そういえば杏子はウワサ結界の外にいたしあすみはたぶん無理矢理ウワサを操作できるしでまぁこうなるのは必然だったかねぇ…
「悪い。…結界に、入れなくて…」
「きにすんな。そういう類の可能性もあるって。」
杏子ちゃん心なしか申し訳なさそうですね…それよりあっちで言い争いが起こってます。相手はやちよとももこですね。コミュ障は悪。
「やっぱり。…噂は本当だったみたいね。」
「どういうことだよ!?」
ただ問題は逃げたあすみ…あとそのことをいろはにどう説明するかですね。
「あすみちゃん…どうして…？」
「霧子から聞いた話だけどね。彼女は見滝原という町で様々な悪行をやってたのよ…たぶん、環さんは利用されてたの。」
「…けど、あすみちゃんは傷だらけだった。元々は良い子だったんだと思う。きっとあれも何か訳があって…」
虐待痕がいろはにクリーンヒットしてしまってますね。こうなってしまった場合かなりまず味です。第二部アーリーバージョンをやったニキネキならわかるでしょうがこうなったいろはは相手がＰＲＯＭＩＳＥＤ　ＢＬＯＯＤだろうが和解しようと動きます。
戦争において敵に容赦する味方が一番ＫＳだってはっきりわかるんだね（体験者
最悪手足へし折って勝手に動きたい（実際やった）ですがそんなこ

とすれば周囲の好感度メガトンコインなので控えます。護衛対象傷つけてどうすんだって話です。
「とりあえず、みんなどうだ？傷や濁りは今のうちに直しといたほうがいい。」
「…早急に、対策を考える必要があるわね。」
　全員それぞれ治療。待ち合わせ場所を決めた後グリーフシードもちょっと狩ってきます。まぁなんの面白味もないのでカットォ！
「みんな、集まったようね。」
「何から話す？」
　さて、作戦会議の始まりです。メンバーはやちよ、いろは、霧子、ななか組、千里、鈴音、杏子ですね。自己紹介も済ませて開始です。
「まず目の前の脅威はあの妙な魔女と神名あすみの二つですね。」
　惜しい、(魔女じゃ)ないです。一応やちよがウワサファイル作ってたのでそこからの情報が頼りですね…
「絶交ルールのウワサ…本当のものだったわね。」
「…それがあの魔女、ということですか？」
「ええ、水波さん、いわゆる〝絶交階段〟には名前を書いたかしら？」
「う、……そうよ。レナとかえでの名前を書いたの。最初は自棄だったけど、後から本当じゃないかって思いが強くなっていって…」
「こんなんだけど、いつもならレナとかえでは仲良しなんだ。たまにこういうけんかをするだけで…今回もいつものことだと思ってたけどね。…どうしたらよかったのかな…」
「後悔しても始まらねぇぞ。杏子？表情がすぐれないがどうした？解除を使うか？」
「…なんでもねぇよ。それより神名、あすみだっけ？あいつもどうかしなきゃなんねぇと思うけど」
　次が問題ですね。まずキュウべえから撮った記録があるので聞かせましょう。
「情報については俺がとってある。胸糞悪い話だが、聞いてくれ。」
　あすみの過去は凄惨極まりないですからねぇ…年若い場合はさらにキツく思うはずです。実際何人か顔しかめてます。いろはは…

やっぱりショック受けてますね。お、やちよとももこが質問してきましたね。
「問題は、なぜあすみと朝倉さんに因縁があるのかよ。」
「そういえば、霧子はあすみを襲撃してたからな…どういう関係だ？てか知ってるならなぜ伝えなかったんだ？」
「まぁ、キュウべえからの情報は単純に信用できるからな。あんたたちのようなベテランならわかるだろ。」
「それは、そうだけど…」
「あと俺とあすみのことだが…話すよ。事実過去に一度戦ったし、そのあとに神浜に流れ着いたんだ。」
　過去話になりそうですね…にしてもまさか意外でしたね、あすみと霧子に因縁があったとは。次回は過去がメインになりそうですね。それではご視聴ありがとうございました！

２４：過去

俺があすみにあったのは見滝原市だ。今は知らないが他の魔法少女はいなかったし、元のテリトリーの風見野も俺の取り分が少なくなってきた。まぁ供給が戻るまで手つかずの地からちょっといただこうとしてな…魔女結界で一人の少女に会ったんだ。キュウべえも近くにいる。食い扶ちを増やされても困る。そういうわけだから待ったをかけて魔女を狩ったんだ。今思えば失策だったとしか思えないがな。

「よし、もう安全だ……そういえばアンタ、何か叶えたい願いとかあるかい？何でもというわけじゃないが、叶えられる限りはやれるぜ。」

何の気まぐれだったかは自分でもわからない。けれどなんていうか…放っておけなかったんだよ。まぁ普通に生きてるんならだれでも叶えられるような願いなら手伝ってやろうと思ってな。

「ほんと？…じゃあ、お父さんに会わせてほしいの。」

「そうか。参考にするために名前と見た目を教えてくれないか？」

「うん！」

名前と容姿を聞いたんだが、どうも雲隠れがうまかったようでな…時間がかかってしまったんだ。あすみの様子も日を追うごとに暗く、ひどいものになっていた。そうしたある日、やっと父親を見つけたんだ。すぐに場所を教えた。けど…どうも結果は良いものではなかったらしい。しかも手には魔法少女の指輪と来た。身にまとう雰囲気も危険なものへとなっていた。

俺はすぐに警戒した。魔女狩りのいろはを教えてすぐ放逐。見滝原の別区に根城を移したんだが…キュウべえからすぐに知らせが来た。

「霧子。風見野に帰ったほうがいいんじゃないかな？」

頻繁に縄張りを変えるのは魔法少女間では推奨されない。実際俺も適当な理由つけて風見野に行ったんだが…そこで待ち受けていたのは凄惨な光景だった。あたり一面死体に血まみれ。その中心部にいたのは…

「ねぇどんな気持ちかな？偽善者さん？」
神名あすみ。奴はたった一人で風見野の魔法少女を全滅させたんだ。俺の顔見知りも多い。すぐにコイツは殺さなきゃと。契約のきっかけを作ってしまった俺の責任だと。そう思って戦った。
幻聴に幻覚。あらゆるものが俺を責めた。奴の魔法は精神攻撃。心の状態が生死に直結する俺たちにとってはまさに天敵と言える魔法だった。結局奴を殺しきることはできなかった。ほうほうのていで逃げ出した。ハナから勝てる勝負じゃなかったよ。前のあれもあすみ自身手加減してたんだろう。
…そして逃げて逃げて。それでたどり着いたのがここ神浜というわけさ。鶴乃に拾ってもらってなかったら死んでいたよ。ただ俺はあすみの記憶を消されてた。はっきり言って敗北だよ。倒せなかったばかりか。証拠隠滅までくらったんだからさ。
そして今、あすみが追い付いてきたというわけさ…俺の自業自得かもしれないが。それでこれ以上犠牲を出すわけにはいかない。…頼む。協力してくれ。これには神浜の未来もかかってるんだ。

～ｓｉｄｅ：あすみ～

「あれ～、どうしたのあすみちゃーん？」
　まただ。またあの悪夢だ。忌々しい過去。もう二度と思い出したくもない不幸。傘を隠された。雨に降られながら帰る。
「傘をなくしたぁ？…何円かかったと思ってやがるクソアマァ！」
　タバコを押し付けられた。痛い。痛い。殴られ、蹴られた。ご飯もなく、また明日が来る。
「バレたらまずいことになりかねんからなぁ…物置に入ってろ」
　来る日も来る日も叔父に殴られ、学校ではいじめられる。…お母さんとお父さんが離婚して、お母さんが死んでから、この地獄に放り込まれた。そんなある日、あいつに…霧子に出会ったんだ。
「遅れちゃう、かなぁ。」
　周囲に見えるのはサイケデリックな色の壁。そして紙がくしゃくしゃに重なったような犬くらいの大きさの生き物と巨大な折り紙の鶴のような化け物。
「神名あすみ！僕と契約して、魔法少女になってよ！」
「え？」
　そして白いナマモノ。どうもそいつが言うにはこのままだとあの怪物…魔女とやらに殺されてしまうらしい。そして契約することで願いがかなえられ、あの魔女を倒せる力も授けられるそうだ。けどこの時の私は死ぬことで頭がいっぱい。何をかなえたいのかもわからず立ち尽くすばかり。
「あすみ！早く願いを！」
「まぁ少し落ち着きな。その化け物は俺が倒す。」
　黒い魔法少女が大剣で魔女の使い魔を倒し、逃したものは拳銃で処理。そして剣で数回魔女を切りつけた。魔女も抵抗はしたけどすべて見切られ躱され、最終的に剣からほとばしった黒い奔流に焼かれて消えていった。霧子がしげしげと私を見る。そして口を開いた。
「よし、もう安全だ……そういえばアンタ、何か叶えたい願いとかあるかい？何でもというわけじゃないが、叶えられる限りはやれるぜ。」
　まったく。どの口が言うのか。汚い大人と同じような腹の内してさ。けどあの時の私は、父に会いたい、と…少しの希望を見せられた

心で、そういったんだ。願いは聞き届けられたんだけど、馬鹿だな私。浮足立ってまた周りの糞どもを苛つかせて。
「これでも食べててよ。普通の食事なんてもったいない。」
「あ～ごめ～んっ椅子に画びょう落としちゃった。」
いじめは変わらず続いた。残飯を食べさせられるのは当たり前。椅子に画びょう。トイレで水をかけられた
「なにするのっ？やめてよおじさん！」
叔父に覆いかぶされて――今思い出しても吐き気がする。けれどその時の私は健気も健気。父が探されてるという希望に縋り付いてただただ耐えた。
「ごめん、遅くなった…見つけたぞ、お前の父さん。この場所に行ってくれ。そしたらいるはずだから」
私はこの言葉通り父を訪ねた。父さえ見つければ、また母さんからのような愛がもらえると信じて…けれども帰ってきたのは…
「えっと…嬢ちゃん、人違いかな？」
「パパ、早く行こうよ！そうじゃないとＨＧケンプが売り切れちゃう！」
「あなた、■■くんがねだってますよ。」
「わかったわかった。じゃあね」
父は私のことを、母さんのことも忘れ去っていた。私がこんなにも苦痛を味わってきたというのに。尊厳を奪われたのに、…許せない、許せない許せない許せない許せない許せない許せない――！
「キミの願いは、なんだい――？」
決まってる。私はすべてを許さない。母さんと私を忘れ去った父も。私をいじめたクラスメートも。叔父も、そして私を決してみようともしないすべてが憎い――！
「――あすみの知る周囲の人間の不幸――！さぁ、叶えろよ、キュウべぇ!!」
契約の証、ソウルジェムが顕れる。その瞬間、私の頭に様々なビジョンが流れ込んできた。
「いやぁあああああああああっ!!」

車の急ブレーキ音、そして突っ込んできた車に父だったモノは粉々にされた。
「あぁ…これしかないんだよくそがぁぁぁぁあ！何回も、無茶振りしやがってええええ！」
発狂した先生に、クラスメイトは殺された。運よく生き残ったヤツも恐怖にとらわれるコトだろう
「ギャアアアアア！熱い、熱いいいい！」
叔父はタバコの吸い殻からの火に巻かれ、重度のやけどを負った。生きながらにして苦痛にさいなまれる。もう動くことすらできない。みんな、みんな元通りの幸福は訪れない、私と同じ不幸になった――！
「……は、ははっ…アッハハハハ！」
哄笑を上げる。けどこれだけではすませない。私の知る人はすべて不幸になった。全員最後には私の手で命を奪ってやるつもりだし、私を見なかったみんなすべてに不幸を味あわせる！
「おい、あすみ、それ…!?」
ソイツと対峙したとき、また私の能力に気づいた。私はココロを攻撃することができる。その証拠にソイツの今までの魂胆が見えたそれに名前もわかった。魔法少女はグリーフシードなしには生きてはいけない。一つの地域にはなるべく魔法少女数が少ないほうがいい。そのために余計な契約を防ごうとした。結局はこいつもただあすみを見なかった。
まぁここで壊すのはもったいない。けどコイツは本っ当に気持ち悪かった。多数を犠牲にして生きようとする姿勢と、それに対して罪悪感を抱いてる。そしてお隣さんのことを気にかけてる。まったく、ちぐはぐな奴だ。けど風見野市。そこに行けばより多くの魔法少女を不幸にできる。それを見せて、壊してあげる――！霧子に他の区を任されたふりをして、風見野市に飛んだ。
「ねぇどんな気持ちかな？偽善者さん？」
血のカーペット。臓物のシャンデリラ。結構いい趣味してる魔女

を利用してこの舞台を用意した。面白かったなぁ…奴らの悲鳴、絶望にゆがんだ顔。そして霧子の面よ！呆然としてる。そしてあの罪悪感！けどそれも長くは続かない。

突如キリコの姿が掻き消えた。すぐに魔法を起動。私の後ろ――！鉄球でメイスを防ぐ。しかしそのメイスが糸に分解。霧子も低い姿勢をとり、その手からランスが飛び出る。ソウルジェムはよけ、魔女結界に閉じ込めるも、すぐにその魔女を殺して出てきやがった。さらに魔法を強める。

思い出を読み取り、親しい魔法少女、犠牲にしてきた人間共の幻を見せてやる。ソウルジェムが濁るも、霧子は糸で三角錐を作ったと思うとすぐ左目に押し込んだ。霧子の精神が消えうせる…今見てもさすがだと思うよ。心を傷つけられるんなら無心になればいい。まさかそれを自分の脳をいったん破壊することで実践するとは。そして考え、動く分を優先的に復旧。動揺した私に切りかかる。

…戦いは夜通し続いた。霧子はボロボロ。けど私は無傷。現に持ってるグリーフシード（リーフシード）の数が違う。私は傷を負っても魔力の残りを考えずに回復できるけど、霧子は回復部位に優先度もつけなくちゃなんない。それに私の精神攻撃。ソウルジェムを浄化してるがおそらくこれで最後だろう。

「――っＦＵＲＩＯＳＯ!!」

黒い爆炎。すぐに私も精神攻撃を強める。しかし威力は本物。何度も集中を途切れさせるには十分だったし、それに…

「とり逃した、か。」

結局霧子には逃げられた。けど一つのトラップを施しておいた。それは罪悪感を抑制すること。これで霧子はこの先手段を選ばず、これまで以上に犠牲を積み上げるだろう。そして私がそいつを見つけたとき、それを解いてやる。すると今までの行為に苦しめられ、壊れるという算段だ。結局これも失敗だったけどあいつの心はもろくなってる。なら神浜の魔法少女全部ぶっ壊して、最後に霧子も殺してやろう…！

２５：ＶＳ絶交階段

…（経歴ガバを見て宇宙猫状態の走者）…はっ。それでは続きに戻りましょう！余計なことしやがってみたいな視線がないのは結構救いです。さすが神浜の魔法少女は良い子たちぞろいや…（全員とは言ってない

「わかったわ…まず、人命救助を優先しましょうか」

「意外だな、アンタが他人を気に掛けるなんて」

「静かにしろ黄色いの。雰囲気悪くしてどうする」

　そういえばこの時のももこはやちよと険悪な関係でしたっけ…ただこの場で雰囲気悪くしてもあすみの精神攻撃に引っ掛かるリスクが大きくなるので早めに止め。そして人命救助ということなので絶交階段への対処ということにしましょう

「まずは絶交階段をどうするか、よね。」

「たしか謝ったらお出ましになるんだろ。街中で聞いたのと今起きたのでの推測になるけど。」

「ええ、…問題は、どうやってそのウワサを引きずり出すかね。」

　今回の絶交階段はアニメ版。単純なトリガーで言えばその絶交階段に名前を書いたうえで謝る。といった感じですね。…２つのプランを出しましょう。

「謝ったら出るんならそれを利用するってのはどうだ？」

「けど、先にかえでが謝って…そういうことか！」

「ももこさん？」

「誰かが名前書いて、そのうえで謝るっていうのは？」

　まず一つ目が出ましたね。実際幼馴染かつ友好の杏子と霧子が適任でしょう。

「あ～、俺が言いたいのはそういうのでもあるが、レナのほうは謝ってないだろ？券はもうすでにある。」

　そして２つ目。原作同様レナが謝って絶交階段を呼び寄せることです。絶交階段の判定は絶交関係にある二人。どちらか片方が謝って連れ去られてももう片方が後悔して独り言のように謝ったらご案

内。流石マギウス！合理主義この上ないぜ！
「じゃあまずウワサを呼ぶ。決行時間はどうしますか？」
「早いほうがいいわ。…朝倉さん、鍵のしまった建物に侵入するすべは持ってる？」
「おう、糸で鍵穴に細工して入ればいい。俺の魔法はこういうことに対しても使えるからな。」
「ならば全員で…」
「少し待ちなさい。敵は絶交階段だけではないのよ」
　西のドンがあすみのことも視野に入れてくれましたね。絶交階段に戦力を集中しても野放しのあすみが暴れたらもう悲惨ですからね…仕方ない。戦力を分担しましょう。
「…あすみの対処は私達と千里。そして鈴音で行きます。」
　ななか組とホオズキ市の二人が買って出てくれましたね。固有魔法の解除が行える千里はそもそもあすみの精神攻撃を無効にできるので対あすみに有効です。ホオズキ市では真っ先に氏んでしまいますが仲間にい引き入れられた場合はこのようにぶっ壊れ戦力となります。
「なら、絶交階段には私といろは、十咎さん、水波さん、佐倉さんと朝倉さんでいいわね？」
「名前書くのはアタシと霧子かな？」
「出なかったらすっげー気まずいことになるぞ」
「冗談だよ。」
　では出発です！さて神浜市立大附属学校につきました。糸で鍵をピッキングして侵入。会談に向かって歩き続けましょう。
「なにか。申し訳ない気持ちになります…」
「楽にしな。アタシたちみたいな魔法少女にはよくある話さ。…食うかい？」
「え、あ…いただきます。」
「じゃあ俺も。」
「レナ。少しはどう？」
「遠足じゃないのよ…」

杏子がロッキー差し出してくれました。応じることでストレス回復。杏子からの信頼度微増といいことずくめのイベントです彼女の代名詞と言えますね。半面断れば場合によっては戦闘もあり得ますが…

「ここを右に曲がれば絶交階段にでるわ…準備は良い？」

さあご対面！…あれ？名前がない？ていうかそもそも無い？

「…ふざけてんのか？」

「いや、レナは確かにここに名前を書いたはず…なんで…！」

まさか撤去された？ふざけんな！（迫真

こうなったら一か八かで原作プランです。オラ謝るんだよ！

フォートレス・フェントホープにて、白い魔法少女と眼鏡をかけた学者のような魔法少女が対話していた。彼女らはマギウス。マギウスの翼の最高指導者であり、対等の存在である

「神名、あすみ…それが君の危惧してる存在かい？」

「ええ。彼女は私たちの救済を喰らいつくしかねない存在です。…もうすぐ”絶交階段”に彼女が入ります。侵入次第閉じ込めてくださいませんか？」

「僕に僕の物語を変えろと?…ただ、君の未来予知は正確無比だ。野放しにしておけば確実に君の言ったとおりになるだろうね…わかったよ。階段はあくまでウワサとしての強度を高めるものだ…灯火のアイデアだが、もう出力源は集まった。」
学者の少女…柊ねむの声に怒気が混じる。しかしすぐにそれは鎮火した。…ある意味すべてを客観的にとらえられるという異常性の表れでもある。
「なら。」
「ああ。…現実上の絶交階段は切り離し、羽根たちは総員排出。人間の収集範囲を拡大し、脱出機能を廃止。…その神名あすみを閉じ込めるものとしよう。」
織莉子の合図とともにねむの持った本に光がともる。そして同時刻。絶交階段内のあすみは神浜を喰らいつくそうとし…すぐにそれが阻まれたことに気づいた。自分の精神攻撃が効かない。それどころか元々出る機能自体が死んでいる。
「やりやがったなぁ…!」
あすみはすぐに本体を探し始める。道中の南京錠は薙ぎ払い、叩き潰し――それでも手下は尽きることはない。
(…ただ、あいつらはすぐにとらえられたのを助け出そうとするはず。手出しはできないけど、それを待つとするか。)

「かえで――っ！絶交するなんて言ってごめん！レナも、かえでともこの三人のチームに戻りたいっ！」
　さあ原作プランです。頼むから出てきてくださいなんでもしますから！
「頼むぞ…っ反応がある！」
「あの結界…成功です！」
「すぐに助けに行くから！」
　イヤッホウ！やっと出てきてくれました！これが絶交階段のウワサ。主のウワサを倒せばクリアとなります。ただ…
「迎えに来たよ、レナちゃん。」
　ウワサに操られた魔法少女が迎撃に来るんですよね。かえでを助ける。ウワサは倒す。両方やらなきゃならないのがつらいところです。
「レナちゃん、こっちにおいでよ…」
「何言ってるのよかえで…あんたがこっちに来るのよ！」
　かえでの対処ですが、まずかえではウワサと半ば融合してるといっても過言ではありません。ステータスが爆上がりしています。それにももこやレナは攻撃できないんですよね…ただこういうところで霧子と杏子が光ります。
「杏子！拘束とかやれるか!?」
「おう！」
　アミコミ・ケッカイと黒糸のコンボです。ぐるぐる巻きにして…
「十咎！水波！維持を！」
「わかってる！」
　ももことレナの魔力でかえでを拘束。これは強力な拘束技持ちがいる場合にとれる手段です。さらに操られたかえレナとの戦いをスキップできるので…
「―ラ↘ン↗ラ↗ン↘ラ↗‼―」
　これで本体が出てきます。前にも言った通りコイツには単騎での

攻撃が効きにくいんです。連携のみ通ります。というわけで…
「引っ込んでろ！」
まずは拘束。そして…
「行けるか？」
「あぁ、ここまで来たらな…やるっきゃないだろ？」
杏子を先行。動きを観察してそれに合わせて後から銃で援護、さらに絶交階段に接近して杏子の隙を縫うようにしてランスでついて双剣で切り抜き。西洋剣に変更。杏子も意思を汲んでくれたのか多節棍での援護の後槍と棍とで霧子と一緒にウワサを切り刻んでます。って手下がかえでのほう行ってる！
「っち邪魔すんな！」
スナイパーライフルで処理。しかし無限に湧いてきますね…あ。拘束解けちゃいました。しゃあない撤退！レナまで操られてもまずいですしね…
「いっしょに階段さんをお掃除しよ？」
「っ…！」
「何やってんだ。早くコイツを止めなよ。」
「攻撃できるわけないでしょ…！」
こうなったらベテラン組に説得させましょう。気絶させたほうがいいです。こっちで手下は処理。
「佐倉さんの言う通り早く彼女を…」
「できるわけないよ！アタシは仲間を守らなくちゃ。傷つけるなんて…」
「あら、それは仲間を傷つけることで自分が傷つきたくないから？…覚悟を決めなさい。私があなたに嫌われてるのはいい。でもあなたもリーダーなんでしょ？なら仲間を助けなさい。それにあの子のソウルジェムは濁ってる。…操られた影響でしょうね。時間は少ないわ。」
「わかったよ…レナ！かえでを気絶させるぞ！」
「…けど、」
「時間は無いんだ！」

「ごめんかえでっ！」
　やちよのアブソリュートレインでかえでの動きを制限。レナともこが峰打ちで仕留めました。さてこの後は…
「…これで気兼ねなくやれるってことだよなっ！」
「待ってください！」
　ももこが切りかかっていきましたが…安定のゼロダメ。弾き飛ばされてソウルジェムに当たらないうちに回収しましょう。
「ありがとな。」
「全然通じてないように見えたわよ…あいつらの攻撃は通じてたのになんで…」
「たぶん、二人で攻撃してたから…？」
　いろはがアイデアクリーンヒットしてくれましたね。これで原作通りのルート直行です！勝ったな。
「絶交階段…なら、おそらく絆の力に弱いんじゃないかしら。」
「でも、あたしとやちよの間に絆なんて…」
「何言ってるの。みんなはかえでを助けるために集まってるんでしょ。共通の目的があるなら…」
「名案。」
　さぁ全員で総攻撃です！
「かえでを返してもらうわよ！」
「喧嘩するってことは自分の本心をさらけ出せること…そのつながりを、断ち切らせるわけにはいかない！」
　レナが真っ先にももこに変身。２倍の炎で焼いてさらにももことやちよがコネクト。炎をまとった槍の雨で拘束！
「俺たちも行こうぜ？」
　こっちも杏子とコネクト。武器を杏子とおそろいの槍に変化させてウワサに突撃して切り刻み…
「いまだ！」
「ストラーダ・フトゥーロ！」
　いろはでトドメ！ウワサは爆発四散！ゴウランガ！これであとはかえでが目覚めるまで待てばクリアです！まぁ差し出されるかわか

らないですけどプリンは警戒しておかないとですね…最悪胃壁に防護用の糸膜張って食あたりは回避…なにやら拍手の音がしますね

「お見事お見事。ちょうど私ひとりじゃコイツから抜け出せなかったからさ。助かったよ…」

「神名あすみ…！」

そういやコイツ忘れてたぁ！え？まさかマギウス側がこのあすみを閉じ込めることにウワサを特化させたと？ふざけんな！（本日二度目

これ（千里不在）でどうやって戦えばいいんだ…

ＰＶ：第一部終了後

「これは復讐よぉ…二木が流した血の分だけ、神浜にも血を流させるわぁ…」
「手前ら全員ウェルダンにしてやるぜ！」
「これでゲームクリアだよ」
　二木市から、復讐鬼たちがやってくる。彼女らを止めるため、神浜の魔法少女たちは奔走する。
「なんですか、これ…!?」
「それを集めれば、自動浄化システムを支配できるといっても過言ではない。」
　もたらされるのはキモチの石。自動浄化を手にする権利。キュウべえの目論見、復讐心。自動浄化を広めたい神浜の魔法少女たち、魔法少女を知らせたい少女、天辺へ上り詰めるための理想…そのすべてを巻き込んで、百の禍が集結する――！
「私は、魔法少女のことをみんなに知ってもらいたい。そのために取材を続けるんです！」
「キミの理想は終末を招く――ここで刈り取らせてもらうよ」
「私ちゃんがみんなを天辺へ連れて行ってあげる！」
「これをすべて集めれば魔女化もしない、そして最強の力を手にできる！乗らないわけないじゃないですか！」
「アンタがいっつも通りで逆に安心したよ、優木紗々…！」
　ミラーズからは、旧き女王が顕れる。女王の黄昏がその領土を広めるために現代へ手を伸ばす。
「悪く思うな、われらが女王の命により、この世界を領地とする！」
「お母さまのた～め～にっ！」
「女王のもとに、跪け――」
　そして円環の使いが開放の地を襲い来る。悪魔の持つレコードが、宇宙を壊さないように。
「うっそでしょ、私がもう一人!?」
「やっぱりそうなるか…ごめんね。このレコードを断ち切らないとい

けなくなったから。」
救済をめぐる争いは、やがて世界を揺るがすものになる。
「あの子が幸せに暮らせる世界を守る…私はそうしたいだけ。」
「だめだよ…私は、魔法少女の苦しみをなくさなきゃいけないから。この世界は…」

第二部・百禍廻天
公開日未定

「神浜の港に魔法少女の魔力反応がある。行ってくれないかしら。」
騒乱が落ち着いたある日、霧子は港へ飛ぶ。そこで本来いないはずのある少女と出会った――
「迎えに来たよ、霧子。」
「あやめ、なんで…!?」
各地に現れるのは死したはずの少女たち。神浜各地がハロウィンに彩られる。魔法少女はお砂糖ガイコツを作り続ける。
「えーと…何やってんだ?」
「あなた、かまれてないわね…いけないわ、城主様にかんでもらわないと…」
「お砂糖ガイコツの～出来上がり♪」
ハロウィンに染められた神浜を取り戻すために、少女たちは立ち上がる
「少なくとも、弔いってのは死者に問うものじゃあねえんだよ…そうだろ?」
「これは一種のけじめなんだ。いくよ。このは、あやめ、霧子…!」

祈りと弔いのハロウィン城～ｆｅａｔ一年放置神浜～
第一部終了後連載予定

第二部アーリーバージョンをやったニキネキならわかるでしょうがこうなったいろはは相手がＰＲＯＭＩＳＥＤ　ＢＬＯＯＤだろうが和解しようと動きます。
戦争において敵に容赦する味方が一番ＫＳだってはっきりわかるんだね（体験者
最悪手足へし折って勝手に動きたい（実際やった）

――２３：対あすみ戦線より

「これは聖戦だ」
神浜市市民ホール、ステージにて一人の少女が声を張り上げる。灰色の髪、燃えるようなオレンジの目。角のような髪飾り。ゴスロリ調のドレス。そして物干しざおのごとき長剣を下げた様は異様なもの。彼女の名は久遠つぐみ。
「この状況に面食らうものもいるのかもしれない。…だが、今話すことはすべて真実だ。」
この場にいるのは魔法少女だけではない…老若男女問わず大勢の人がいる。
「私たちは魔法少女。インキュベーターに願いをささげ、戦う運命を

背負った者たちだ。」
「私たちはその魂を宝石とし…戦いの果て、散っていく。」

スライドに魔法少女が戦うさまが映し出される。そして…ソウルジェムが濁り切り、魔女になってしまうさまも。会場はどよめきの声で満ちた。魔女を恐れる声、自分の友達が、恋人が、娘が、姉妹が死んでいくのを理不尽として怒るもの。
「沈まれ！…私たちはあの台風の日、その運命から解放されたのだ。」
映し出されるのは自動浄化システムのもと戦わずに済むようになった少女たち…群衆もそれに安どするが、それは打ち砕かれる。
「だが、それを壊すものが現れた。」
代わりに映し出されるのはＰＲＯＭＩＳＥＤ　ＢＬＯＯＤが暴虐の限りを尽くし…魔法少女たちが殺される風景だった
「彼女らは私たち神浜の魔法少女の死を願うものたちだ。傷一つない遺体が帰ってきたか!?それは彼女らによるものだ！」
代わりに満ちるのは怒りの声。娘が死んだのは奴らのせいだったのか、恋人が、大切な人が。失われた原因を目の当たりにして怒らないものがいったいどれほどいるものか。
「この中に娘を失ったものがいるか!?」
「この中に妹を失ったものがいるか!?」
「この中に姉を失ったものがいるか!?」
「この中に恋人を失ったものがいるか!?」

会場の狂騒は加速する。その様を見てつぐみは一瞬満足げに笑い、そして一層声を張り上げる
「憎いか！理不尽だと怒るか！それでいい！その怒りのもと仇を討ちたいと願うなら！」
「そして！自らの愛する者を守りたいものは！」
「この旗に集え！我らはマギアガーディアン！大切な人を守りたいもの、憎い仇を殺したいもの、救済を守りたいもの、おまえたちすべてを受け入れよう！」

この会場において久遠つぐみは王である。あらゆる怒りを、憎悪を、正義感を、希望を背負い、それを掻き立てる。
「――さぁ、聖戦を始めるぞ。」
第二部アーリーアクセスバージョン・徹底抗戦ルート
本編第一部終了後連載予定

私はハードモードで1回プレイしたことがありますが散花愁章でいろいろこじらせてアザレア組・団地組全滅、ＳＡＮ値メガトンコインして組長がゆきちゃん化、悲鳴合唱団まで参戦してあーもうめちゃくちゃだよ…トラウマがよみがえった気がしますが難易度ハード神浜はそんな魔境ＤＥＡＴＨ。
――1：キャラクリより

さぁ、修羅の國がどれほどのものか、見せてもらうぞ。
「あやめ――っ！」
アアアアアアアアア！うっせやろこれあやめが死ぬぅ!?
「お姉ちゃん、お花！」
ミッ。
うっせやろこれがっこうぐらしじゃないんやぞ…
「ハロー」「ハロー」
ヒーローコンビ!?ヒーローコンビナンデ!?
「久しぶりだね、九十九珠子。」
「まだあの計画を進めてるのか？プレイアデス。」
なんでアンタら来るのあぁもうめちゃくちゃだよ…

襲い来るは人外魔境・ハードモード神浜の洗礼。少女は倒れ、心は壊れる。これは失敗の物語。走者のリセの果てである。

ハードモード初見一週目

本編第一部終了後連載予定

２６：ＶＳあすみ

ウアアアア！デタァァァ！もう最っ悪です。多分マギウスに織莉子がいるからコイツヤベェ閉じ込めようってなったんでしょうけどそれにしたってタイミングが悪すぎますよぉ…

しかも千里いねぇし。ほんとどうしよう…いやでも神浜での犠牲者を出してないならうまあじかな？

「あすみちゃん、もうやめよ？」

「いろはまでか…まぁ…全員壊したら話を聞いてあげるよっ！」

結界がはられました。おそらく自身の魔法で従えた魔女を使ったんでしょうね。

幻覚が発生しましたが仮面付けてそのまま突っ切ります。これで数人ショックでぶっ倒れましたが風見野産魔法少女は無事なはｚ…

ＯＰＨＥＬＩＡ

なんでドッペル出してんですか杏子さん（宇宙猫

ここが結界内だったからよかったものを下手したら学校が吹っ飛んでたところです…このルートにおいては彼女の精神力は期待しないほうがいいでしょうね。絶好調の時ならあすみの精神攻撃受けても魔女化しないというデータも出てますし…

一応いろはは無事ですね。ただついていけてないので置物ですが。…精神攻撃は術者の集中を乱せば解除できるはず。無手から剣を形成して交戦。隙を見て蹴り飛ばして大剣で…モーニングスターではじかれましたが意識がこちらに向きました。

幻覚が出ましたが記憶―静海このはの槍で打ち払って継続。いろはが説得を続けてますがあすみがそっちに向かおうとしてるので止めて…

戦場は一瞬で地獄と化した。いろは以外のほぼ全員が倒れ伏し、そのソウルジェムを濁らせる。数人ドッペルを出したものもいた。唯一行動できた霧子は無手から剣を出してあすみとつばぜりあう。
「なにが…おきて…」
「…まだ私のことを殺そうとか思ってないの？頭に花でも詰まってるの？」
「よそ見するな」
霧子が糸で強化した脚であすみを蹴り飛ばす。そして続けて大剣であすみを圧殺せんとするも虚空に出現させた鉄球に阻まれた。
「じゃあこれは？」
「――っ、」
双頭槍が出現。それを振り回しながらあすみに迫っていく。あすみはいくつもの鉄球を射出。そしていろはのもとへ接近していく。鉄球が直撃すればいくら霧子と言えど挽肉。下手すればソウルジェム破砕もありうる。着弾の瞬間霧子が黒糸に分解。あすみをせき止める。
「行かせはしない」
「しっつこいなぁ！【出てこい】！」
「ｕｈｄｉｕｆｈｗａｉｈｆｉｌｕｈｄｕｉｑｈａ!!!」
異形の魔女とその使い魔が姿を現した。バトルランスで排除しようとするも、体制を崩さずを得なくなる。

足元に鉄球が射出されたのだ。瞬時に回避。使い魔の集団をさばきにかかるが虚空からの鉄球と魔女に打ちのめされる。
「つが！」
「そのまま頭砕いたげる！」
しかしあすみの行動は赤青の槍によって阻まれる。やちよと杏子が真っ先に復帰したのだ。
「やはり彼女は危険ね…」
「ふ～ん、立ち直りは早いみたいだね、さすがは仲間殺し！」
「黙りなさいっ…！」
激昂したやちよはあすみに対して槍を降らせるが逆にそれが裏目に出る。
「こっちこっちぃ！」
至近距離。しかし多節棍に絡み取られる。あすみを拘束したのは杏子。
「よくもやってくれたな…」
「っふふ！」
あすみは精神攻撃を振るう。対象は魔女。魔力を暴走させ自分を攻撃するように仕向け――
【爆ぜろ！】
魔女が凄まじい魔力を放って爆発する。同時に景色が元に戻った。あすみが今従えていた魔女はかなりの大物。そんな怪物の魔力暴走からの爆破。全員が無傷で済む話ではなかった。――結界外にはじき出されたいろは以外は。
「…っ！」
いろはが結界から投げ出された魔法少女を守るように立ちはだかる。しかし矢は向けてはいない。
「…なんで私を殺そうとか思わないの？」
思考を読む。いろはも、自分を見なかった周りのすべてと同じように、自分に殺意を向けるのだろうと思って。…けれども、彼女の思考はあすみに対しての敵意を持ってはいなかった。
「あすみちゃん、もうやめてっ！…こんなの、あなたが苦しいだけだと

思う。」
「何言ってるのぉ?私はこれでいい。私を犯した奴も、殴ったやつも、見なかった奴もみんな等しく不幸にする。それが私の願いだよ!」
「それはわかってる…でも、お母さんが死んでからずっと辛かったんでしょ?そしてお父さんを見て、憎しみのまま契約して…ずっと、怒って憎んで。こんなの、辛すぎるよっ…!」
いろははあすみと和解することをあきらめない。彼女は根本的に”人と争う”ことに向いていない。そしてその分目が届く範囲の人すべてを救おうと動くのだ。
「そう…」
対してあすみは、根本的に”狂い切れていない”。彼女はその虐待の末心を閉ざし、怨讐に逃げているだけの少女。世界を不幸で満たし、この世界は残酷であると定義することで自らの不幸を当たり前のことだとしたい。そんな彼女は、いろはのやさしさをはねのけようとする
「じゃあ私のこと、大っ嫌いにさせてあげる!」
精神攻撃。彼女の受けた不幸のすべてを、彼女のもたらした不幸のすべてを。親から呪われ、面白半分に悪意をたたきつけられ、そして周囲に呪いと絶望を振りまき続けた魔法少女としての一生を叩きつける。
「うっ…あ、あ…」
それでもいろはは折れはしない。無意識的にあすみのもとへと歩みを進めていく。
「なんで…折れろ、壊れろ、壊れろおおお!」
「絶対にあきらめない。私は、あすみちゃんを助けたい!」
身体に刻まれた傷跡。それを裏付ける絶望に満ちた半生。諸人ならありふれた悲劇の延長としてあすみを処理することを選ぶだろう。しかしいろははそんな道理に異を唱える。自分の目に届くものすべてを救いたい。その一心であすみを助けようとする。
「な、んで…」
「一緒に帰ろう?まだやり直せる。」

「こんなに、ひどいことしたのに？」
「私は大丈夫。もしみんながあすみちゃんを受け入れなくても、私はあすみちゃんのことを守り続けるよ。」
いろはがあすみを抱きしめた。まるで母が泣いている娘を慰めるように、娘を安心させるかのように。
いろはのやさしさにあすみはいつかの幸福を思い出す。
――そして彼女の心を満たしたのは、今までの過ちに対する後悔と懺悔であった。

～ｓｉｄｅ：霧子～
周囲を見渡す。だだっ広い土野原。おそらくグラウンドか…まぁ学校の区画消し飛ばす惨事になってないな。…っぁ、結構ダメージ喰らったか？肋骨は感覚で３分の２逝ったか？右腕は…感覚ねぇな。あそこに転がってる塊はたぶん俺の右腕。ちぎれたか。…魔女の自爆から優先的にジェムを守ったからこうなるのは必然か。
杏子は…あぁ他のと一緒に倒れてる。胸は上下してるから生きてるな。少なくともとっさに西のトップと防御した感じか…そうだ、あすみはどこにいる!?…あぁそりゃ元気だよな。たぶんあの芸当でき

るのお前だけだもん。
…いろはが立ちはだかって…!?やめろ。そんなことしたらお前が！
「あすみちゃん、もうやめてっ！…こんなの、あなたが苦しいだけだと思う。」
お前こそやめろ！あいつに、あすみに殺されるだけなんだよ！あすみが精神攻撃の魔方陣を展開した。此処にはドッペルがあるとはいえ普通の魔法少女が耐えきれるものではない。最悪ドッペルに乗っ取られるかもしれない…
けれどいろはは苦しみながらも前に進み、あすみを抱きしめた。あれだけの攻撃を受けたのに、まだやり直せる、一緒に帰ろうと説得している。…あすみも、戦意を喪失したようだ。
――――あすみの危険性を認識したあの日を思い出した。全員の顔を、名前を、戦い方を、人物像を今でも覚えている。…それじゃだめだ。あすみが赦されたら、あの日、殺されたアイツらは全員忘れ去られるのか？そんなのはだめだ。あすみを契約させる契機を作ってしまった自分のせいでそんなのは。…なのにいろは、なんでお前はあすみに手を伸ばせるんだ？どうして端から断ち切れるんだ？
…断ち切れないんだよ。今更、勝手に断ち切るなんてできないんだよ！
魔力を振り絞って武器を作る。足の修復にかける時間が惜しい。確実にこの場に縫い留めて仕留めるためには…矢を使えばいい。作るのはボウガン。これでいろはごと貫き拘束し、ソウルジェムを砕きに…！
〉武装形成完了。いまならあすみを葬り去れる…あすみにとどめを

刺しますか？

▶はい　いいえ

２７：断ち切るなんてできないんだよ

～ｓｉｄｅ：あすみ～

いろはの記憶を見た瞬間、普通の魔法少女に用いる手法は通じないと分かった。いろはには魔法少女なら全員持つはずの願いの記憶が存在しない。じゃあいろはは何にも願わずこの魔法少女の世界にあって、ただただ他人の幸福を願い続けているというのかな。

ならこれまでの人生を、あらゆる不幸をいろはにたたきつける。私をいじめた奴は追い詰めていって魔女にした。叔父は事故に合わせた後悪夢を見させ続けて魔女のえさにした。正義の味方ぶってちょっかいをかけてきた魔法少女は魔女に食わせた！私はあらゆる悪逆をして、多くの人を不幸にした。私に殺意を向けてよ、あんたのその偽善をはがしてやる！、

（だったら…なんであすみちゃんはそんなに悲しそうなの？）

なんで…じゃあこれはどう!?また記憶を引っ張り出す。いじめられて、誰も助けてくれなくて、穢されて、果てには大切な人にもなかったことにされた。こんなことされて、まだ壊れないの？まだ誰かの幸せを祈ってられるの!?

（うん。確かに辛いし、苦しい。…でも、あすみちゃんを見捨てるのは、もっと嫌!!そんなにひどいことされて、誰もそばにいないなんて、…だったら、私がそばに居続ける！）

あ…全身が暖かさに包まれる。これは、魔法？いや、いろはに抱きしめられてるんだ。結構接近許しちゃったんだな。馬鹿みたい。

「一緒に帰ろう？まだやり直せる」

なんで、そんなこと言うの？私はこんなにひどいことをしたんだよ？なのになんで嫌悪も、失望もなしに…

あぁ、そっか。いろはは、全部受け入れてくれてるんだ。お母さんみたいに。幸せにするために。いっぱいいっぱい殺してきた私に、そんな幸福が許されるわけないのに。…いろはに抱きしめられたとき、いろはのご飯を食べたときに感じた感覚を感じたんだ…幸せだったんだね。私はそれを何度も奪って…！ごめんなさい。ごめんなさい。

この世界全部が私を見なかった悪だと思ってた。けどそれは間違いで、本当のワルモノは、私。
私は最初から、いらないものだったんだ…いままで人を苦しめてきてごめんなさい、絶望させてきてごめんなさい、生まれてきてごめんなさい…！

＞あすみにとどめを刺しますか？
▶はい

霧子は今まで生きてきた中で犠牲にしてきた人たちを一人ひとり覚えていた。そしてそれはそれ、これはこれと言いながらも結局断ち切ることなどできはしなかった。背負ってきたものはその精神を蝕み、その心を殺していった。それでも魔女化しなかったのは生まれつきの精神力が高かったが故だろう。
いろはの献身を見ても、あすみの犠牲者が心を翳めた。そして断ち切ることなどできず、罪の上塗りを選んだのだった。
「…断ち切れないんだよ。今更、勝手に断ち切るなんてできないんだよ！」

黒い矢が夜闇を駆け、いろはごとあすみを貫いた。

28：■■な花嫁

「ぁ…がっ…あああ！」
「カっ…げほっ、げほ…」
霧子のクロスボウは正確にいろはとあすみを射抜いていた。突如腹部を貫かれた激痛は少女なら、否大人ですら耐えられないだろう。クロスボウから糸が伸び、二人を地面に固定する。悲鳴を聞けど霧子に容赦はない。軋む心を仮面で隠し、冷酷に、無慈悲に、正確にあすみを葬り去るために機動する。
一歩、斜め前に飛び出す。二歩、そのまま直進。目にもとまらぬ速さであすみの視界から出る。三歩。後ろをとり。飛び上がりその剣で命を砕こうと――

▶はい
ホアアアアア!?おまっ霧子おまっ何してくれとんじゃ!?ふざけんな！（迫真
たしかにさぁ、操作魔法少女がコントロール奪取するのは今までも少しはあったけどさぁ、ここでそれはまずいって！みかづき荘組から

の信頼度も杏子からの信頼度もどうなるかわかったもんじゃなくなるぞオイ！

あぁもう何もしないでもあすみに向かって行ってるし、ストレス値も見えたけどこれ【あたしって、ほんとバカ】のさやかちゃんに匹敵するストレス値じゃねぇか。ほんとお前！お前なぁ…

串団子めいたいろあすに剣を振り下ろしてますね。これでソウルジェム砕くんでしょうね。いろはの腹ぶち抜いてましたけどどう言い訳しようか…

強くなれないなら何もみつけだせない。耳をふさぎ。その目を閉ざせ。沈黙は命運を見定める

あ。

「それ」は突然に表れた。鳥を模した面、ぼろぼろの桃色のマント、白い包帯。その名は沈黙のドッペル。環いろはの絶望の写し身が、主の望みをかなえるために動き出す。

「ａｓｕｍｉｔｙａｎｎｗｏｋｉｄｕｔｕｋｅｎａｉｄｅ！」

「ドッペル…！」

「何をしてるの、霧子!?」
　包帯の津波が襲い来る。霧子は大剣で捌こうとするも物量には耐えられない。すぐにいろはから離れたが待っていたのは仲間からの追求だった。
「あなた、なんでこんなことを…!」
「そうしなくちゃ、アイツは、アイツだけは……っ!よけろぉ!」
　ドッペルが襲い来る。しかしその軌道は不自然に変えられた。ドッペルがまるですべての力を振り絞るかのように誰もいない虚空に向けて包帯を放っていた。
「これは…?」
　すべての力を振り絞ったドッペルは消え失せ、代わりに傷がいえたいろはだけが残された。そして…
「やっぱり、きついかな…」
「お前、どうして…」
　精神攻撃の魔方陣が輝いている。しかし故人に罵られる者も、自らの願いの絶望を見せられるものもいない。代わりにその絶望の記憶が拭い去られていく。…ドッペルの力を無駄打ちさせたのも彼女だった。せめていろはが他のだれかを傷つけることがないようにドッペルを操っていたのだった。
「あすみ…ちゃん…」
「ごめん、ごめんね、いろは…いろはが抱きしめてくれて、私のためにやさしさをくれたの、すごくうれしかった。…いろはがつくってくれたごはん、すっごくおいしかった。私、いろはと過ごした時間、とても幸せだった。」
「わかってるよ。…だか…ら、一緒に――」
「でも、ダメなの。私、いっぱいいっぱい不幸にしてきたから、いろはが傷ついちゃうから、とても悪い子だから…っ!サヨナラ、いろは。」
　あすみの表情に今までの邪悪はない。そこにいるのはただ自らの間違いを悔いる魔法少女。眼は涙で満ち、そして彼女を喰らうように黒い瘴気が満ち、あすみの姿が掻き消えた。
「これで終わりなのか…?」

「なんでだよ…なんで、アイツは…っ！」
　神名あすみは邪悪でなければならない。多くの人を殺してきたから。そうでなきゃ、憎めないから。彼女を悪として倒して初めて、風見野の魔法少女に報えると。これ以上の被害を抑え、みんなを守れると。そう霧子は思っていた。けれどこれはなんだ。ただの、彼女も被害者の様じゃないか。どうしようもない怒りが、悲嘆が霧子の魂に満ちて――
「朝倉さん！環さんを治すのに協力して！」
　やちよの声が霧子を現実に引き戻す。彼女も一応は傷を治す魔法が使える。いろはの体に残った損傷を治していくと、ふいにいろはが口を開いた。
「あすみちゃんは…？」
「アンタに謝って、姿を消したよ」
「…っ！」
　いろはが立ち上がる。自前の治癒魔法も併せてすぐに傷をなくして夜の街に駆けだそうとした。
「環さん？」
「あすみちゃんを探しに行きます！」
「はぁ!?」
　霧子が驚嘆の声を上げる。そしてすぐに止めにかかった。
「何言ってんだ、あぶねぇぞ!?」
「私はあすみちゃんを助けたい、こんなの、悲しすぎます！」
「あ”ぁもう勝手にしろ！」
　やちよがいろはに協力を提案した。
「…くれぐれも無理はしないこと、今日見つからなかったらあきらめること。それを守るなら私も行く。」
「アタシは2人のこと見なくちゃいけないからな…」
　ももこはかえでとレナを看るために残ることを宣言し、
「…アタシも行くよ」
「おまっ…マジ？」

『あたしって、ほんとバカ…』
『どうすればさやかは元に戻るんだよ!?』

杏子はさやかのために奔走した自分と、これからあすみを探そうとしているいろはを重ねていた。故にいろはに協力しようとしたのだ。
「…俺も行く。やらかした下手人だからな。」
そして事情を知らずともそんな幼馴染を見て無視できるほど霧子も割り切り上手ではないのだ。
「ただ、千里に見てもらえ。一応連絡して呼びに…」
携帯の受信チャイムが鳴り響いた。連絡人はななか。
『霧子さん!』
「ななか?どうしたんだ?」
『ドッペルです!…とても強くて、結界内で分断されました!』
「悪い助けに行くのが先だ!どこで結界にのまれた!?」
「みかづき荘付近!」
「それって、まさか…」
いろはたち4人はみかづき荘に向かい、結界に侵入する。
待ち受けていたのは花嫁のようなドッペル。変化部位は下半身。あすみが吊り下げられたような形でいる。その名は鬱屈のドッペル…あすみの絶望そのものだ。

Ｅｎｔｂｅｈｒｌｉｃｈｅ　Ｂｒａｕｔ

魔女は生前の考え方、願いに基づいて行動する。そして魔女に限りなく近い性質を持つドッペルも同じだった。
「ｇｏｍｅｎｎｎａｓａｉ，ｇｏｍｅｎｎｎａｓａｉ，ｇｏｍｅｎｎｎａｓａｉ」
「あすみちゃん!」

「動きを止める！」
　赤い鎖と黒い糸がドッペルに殺到するが、ドロリ、と身体を変形させそれを躱す。そして体を刃状に変化させて無差別に斬撃をばらまいた。この場にいる魔法少女は精鋭揃い。７年もの時を生き延びた七海やちよ、風見野で固有魔法もなしに生き抜き、戦いにおいては最強クラスの佐倉杏子、修羅の道を歩んできた朝倉霧子。…ただ一人、環いろはを除いては。
「きゃあぁ！」
「いわんこっちゃない！」
　スナイパーライフルで銃撃するも今度はドーム状に変形したドッペルに阻まれた。そしてドッペルが広域に展開。彼女の絶望そのものを振りかける。この雨に当たれば精神を蝕まれ、ソウルジェムの汚濁につながる死の雨だ。
「なんだよ、これ…！」
「濁りが加速してる…離れて！」
「少し待ってろ、すぐ守る！」
　黒い糸がいろはたちの上に展開。編み合わさって硬質化しドッペルの雨からの守りを形成した。しかし雨は障壁を侵食していく。霧子の補強もあるが決壊するのも時間の問題だろう。さらに斬撃、雨、ドッペル暴発のダメージがかさみいろはのジェムはまた濁り切っていた。
「…そういえば、私、あの時何が起きてたんですか…？」
「…ドッペルを発動していたのよ。この神浜でのみ起きる謎の現象。ソウルジェムが濁り切ったときに起こるの。」
「強大な力を発揮し、ソウルジェムを浄化できる。けど、はっきり言ってリスキーすぎるな。」
「じゃあ、使ったことって…あります…か？」
「そりゃあるが…まさかお前」
「使い方を教えてください！」
　面食らったような表情の霧子。しかしこのままでは全滅しかねない。ならば…杏子は賭けに出ることを選択した。

「結界はアタシが維持する。ドッペルの使い方、教えられるかい？」
「おう、まぁいろは次第だけど。」
　赤い結界が雨からの防御を展開。やちよと霧子がいろはを支えドッペルの使い方を叩きこむ。
「いいか、まず優先すべきことはだれか出てきても耐えることだ。何言われても心を乱すな、乗っ取られないようにしろ。これだけは守れ！」
「要点は先に朝倉さんが言っちゃったけど、自分のやりたいことを意識し続けなさい。一応はそれで耐えられるから！」
「ありがとうございます…」
「限界だ！」
「ぐっ…あああああ！」

Ｇｉｏｖａｎｎａ

　今一度ドッペルが顕現する。沈黙のドッペルは今、いろはの意思で動いている。
「はあぁ！」
　包帯が雨から皆を守り、雨を包み込む。鬱屈のドッペルは己のとらえられた身体を取り戻そうと雨になった体を引き寄せた。包帯を侵食して食い破り、黒い雨があすみに集まりまた花嫁のごとき形になる。
「ＡＡＡＡＡＡＡＡＡ！」
　再度斬撃。しかしいろははそのすべてを包帯で受け止め、あすみのほうに飛んでいく。
「ごめん、目を覚ましてあすみちゃん！」
　包帯を刃となし沈黙が鬱屈を切り裂いた。さらにいろははあすみのドッペルを自身のドッペルで抑え込み、あすみに接近し捕まえる。ドッペルが強いダメージを負うとともに、あすみの顔を覆っていた白磁の仮面が砕け散った。
「なんで？なんでまだ…」

「いったはずだよ。あすみちゃんを助けるって。」
「天乃さんがみんなを保護したわ。ドッペルを引きはがすわよ！」
「「おう！」」
「だから、一緒に帰ろう、あすみちゃんっ！」
「帰ったらお風呂に入って、一緒に眠って、朝ご飯を食べて、一緒に暮らそう？」
　赤槍、黒剣、蒼槍。ドッペルが崩れていく。同時にいろはのドッペルも限界を迎えて消滅していった。
「…いっぱい、いっぱいひどい目に合わせてきたんだよ？…人だって殺してきたんだよ？なのに…いろはっ…なんで、…そばにいられるのっ…？」
「あすみちゃんは、ひどい目にいっぱいあって、苦しんで、だから不幸を振りまいていたんでしょ？なら、目いっぱい幸せにするの。そしたらいい子に戻れる。たくさん間違ってもまだやり直せる。一緒に帰ろう？」
「うっ…ぁ…っっぁぁぁぁぁぁ！」
　結界が崩れていく。朝日が神浜市をうっすらと照らしていた。
「…一件落着ってとこかな？」
（七海、こっちはかえでとレナを家に帰した。それであすみは…どうなった？いろはが保護したわ。もうこちらに敵意は向けてない。脅威は去ったと考えていいわ。）
　やちよはももこからの念話を受け取り、それぞれの無事を確認する。霧子はいろはに謝罪しに行った。
「霧子さん？」
「すまないな、いろは。お前の意思を否定して、お前を傷つけてまであすみを殺そうとして…」
「いえ、私のことはいいです。…まだあすみちゃんを殺そうとしてるんですか？」
「もうそうはしないよ。」
「わかりました。ひとまずそれを聞いて安心しました。あと、ドッペルの使い方教えてくれてありがとうございます！」

いろはの一言に霧子は一瞬驚嘆の表情を見せ…そして目を細めて、いろはから表情を隠し杏子のもとに向かった。
「そういえば杏子はこの後どうすんだ？」
「…あぁ、もう少しこの町をぶらつくよ。」
「そっか…また会えるといいな。今度はまだまともな状況で。」
鈴音たちが少し離れたところから合流する。この状況に面食らった表情のものもいたが、やちよの説明にそれぞれの反応を見せた。そして下した結論は大方似通ったものであった
「まず、彼女を変身させないようにしましょう。」
「そうね。ただ抜けられる危険があるからソウルジェムを持っておくかぐらいにしないと…」
「私がやります！あすみちゃんを助けようとしたのも、私なので…責任は果たします。」
「自分が何言ってるかわかってるの？いざという時は彼女の命を奪うこともありうるのよ。」
鈴音の確認にもいろははひるまない。そして。
「いろはにならいーよ。」
あすみも口を開いた。その場にいる全員の監視のもと、あすみのソウルジェムがいろはにゆだねられる。
「…明日が学校休みでよかったわね。いろはさん、あすみと仲良くできるといいわね」
ホオズキ市の魔法少女である詩音千里は自身の家に帰っていった。それを皮切りに皆それぞれの日常に帰るためにみかづき荘を後にしていく。残ったのはやちよと霧子、いろはとあすみと鈴音であった。
「明日はどうしますか？」
「…謝りに行く、とかは？」
「それがいいわね。」
「…じゃあ、俺は俺の住処に戻るよ。まぁ用があったら呼んでくれ。」
魔法少女でも日常は続いていく。明日からのことに思いをはせ、いろはたちはみかづき荘でひとまずの休息につくのであった。

おまけ：もし朝倉霧子と神名あすみがマギレコ内で実装されたら

朝倉霧子
ステータス
タイプ：アタック
属性：闇
初期レアリティ：☆４
プロフィール
神浜に流れ着いた魔法少女。いつも飄々とした態度で人に接するがその実常に周囲をうかがうような目つきであり、洞察・分析能力が高い。親も自分の家も持たないがその実力は一級品。一度見た相手の技もすべて記憶できる。
出身地：非公開
年齢：１５歳
身長：１６０ｃｍ
願い事：生き延びるための力を
固有魔法：糸
ソウルジェムの形状／色／位置：稲妻／藍色／モノクルの縁
武器：様々な武器に変化可能な糸
魔法少女服：黒いスーツ。スカートのような部分あり
魔法少女歴：本編開始時点で三年
声優：大地葉（イメージ）：なし
スキル
なし
ディスク
ブラスト（横）×１、アクセル×４
コネクト
「合わせるぜ！」
攻撃力アップ［Ⅴ］＆ＭＰ獲得量アップ［Ⅵ］＆杏子にコネクトし

た場合確率でクリティカル
マギア
ＴＥＭＰＥＳＴＯＳＯ
敵単体にダメージ［Ⅶ］＆ＭＰ獲得量アップ［Ⅷ］（自／２ターン）
＆確率でクリティカル（自／３ターン）
ドッペル
表情づくりのドッペル
敵全体にダメージ［ＶＩＩＩ］＆ＭＰ獲得量アップ［Ⅸ］＆必ずバ
インド
ボイス集
魔法少女
自己紹介１
「俺の名前は朝倉霧子！見ての通り家なしの野良だが、実力のほうに
かけては信用できるぜ。まぁ自分で言うのもなんだけど。」
自己紹介２
「風見野から俺は来たんだ。あそこでちょっとゴタゴタがあってな…
安心しろよ、まきこまないように努力するから。」
育成
強化完了
「よし、いい感触だ。」
強化（Ｌｖ最大時）
「まずはここで一区切り。でもまだ俺は強くなれるぜ？」
エピソードＬｖアップ
「…過去はいつまでもついてくる。振り払おうとしても、振り払おう
としてもっ…！」
魔力開放①
「ほぉ…出力が上がったか？」
魔力開放②
「魔力が跳ね上がると同時に、戦い方もまた考える必要がある。油断
しないことだ。」
魔力開放③

「俺たち魔法少女は魔力がなくなると死ぬ…総量が増えたことに胡坐をかいて慢心すれば、死につながることだってあるんだぜ。」
マギアレベルアップ
「また、殺しがうまくなったか…」
魔法少女覚醒①
「昔の話だ。俺には恩人がいたんだ。あの人が助けてくれたからまだ俺はここにいる。その人に恥じないように、この力を振るい、アンタを守るよ。」
魔法少女覚醒②
「幾多もの死を積み上げて、まだ俺はここにいる…生きてる意味はあるのか？なぁ、教えてくれよ。」
ログイン（初回ログイン時）
「さあ今日も仕事だ。魔女狩りいくぞ！」
ログイン（朝）
「朝から早いねぇ～早起きは三文の得ってか？」
ログイン（昼）
「昼時か。万々歳にでも行くか？」
ログイン（夜）
「俺たち魔法少女は、この時間帯に狩りを始める。競合相手が増えるぜ？」
ログイン（深夜）
「なんだ、まだ起きてたのかよ。ここからは俺の時間だ、いい子ちゃんは眠ってな。」
ログイン（その他）
「このグリーフシード、もうｓ…あぁ何でもない。脅かすなよ…」
ログイン（ＡＰ最大時）
「元気そうだな。いいことだ。」
ログイン（ＢＰ最大時）
「鏡の魔女結界。危害はたいしてないはずなんだが、なんかなぁ…不思議と倒したいって思っちゃうのよ。」
魔法少女タップ①

「俺の魔法はただの糸だ…おっと、侮るんじゃないぜ？構造さえ理解できればコイツでたいていの武器を作れんだよ。羨ましいかい？」
魔法少女タップ②
「何読んでるかって？武器の構造について書かれた本さ。これで戦略を広められるし、技の再現もできるようになるって話よ。」
魔法少女タップ③
「他人の技でもそこには特色がある。どんな奴でも逆転の一手ってのは持ってるんだ。だから油断せず、最後まで、確実に戦うんだ。そしてその技を模倣すればその力を手にできる…そうして強くなっていくんだよ。」
魔法少女タップ④
「魔法少女の末路っていうのは考えたことあるか？俺たちが死ぬときは大体死体すら残らない。ただいなくなる。…友達を作っておけ、できるだけ多く。覚えてもらえてることは、とても幸福なことなんだ。」
魔法少女タップ⑤
「ま、それはそれでこれはこれだ。割り切っていくんだ。背負い過ぎたら、その重みに潰されるぜ？」
クエスト開始
「緊張せず、平常に。ゆる～くやってこう。」
クエスト勝利①
「やることも終わったし、そろそろ帰ろうぜ。」
クエスト勝利②
「手当てが必要な奴はこっちにこい！…一歩間違えば見てらんない事になったかもな。」
クエスト勝利③
「また、生き延びたか…」
ディスク選択時
「りょーかい」
「そこか？」
「いくぜ。」
攻撃時

「ぜぇっ！」
「遅い！」
「見切った！」
　コネクト時
「さ、合わせてくれよ？」
　被コネクト時
「まいど！」
　被コネクト時（一部メンバー）
「信じてるぜ。」
　被ダメージ時
「っつ！」
　被ダメージ時（瀕死）
「体のほうは限界かっ……！」
　死亡時
「悔しくはあるな」
　ドッペル発動時
「断ち切れはしない…」
　専用メモリア
「業」
　剣、槍、銃、斧…彼女は自らの戦いを、対峙したものを、殺してきた同胞さえもすべて覚えている。
　一見彼女は割り切ってるかのように見えるがその罪悪感は心を離れず、
　静かに魂を蝕み殺していった。
　効果：ＭＰ獲得（３０％。限凸で５０％）

神名あすみ
ステータス
タイプ：エクシード
属性：無
初期レアリティ：☆４
プロフィール
見滝原の魔法少女。もとは純粋な性格であったが凄惨な虐待と父親から見捨てられた怒り、身の回りの悪意にさらされ呪いを願った。
人の不幸を望み続ける陰湿な性格。同時にどこか母親のような人を望んでる節がある。
出身地：見滝原市
年齢：１３歳
身長：１４０ｃｍ
願い事：自分の知る周囲の人間の不幸
固有魔法：精神攻撃
ソウルジェムの形状／色／位置：楕円／銀色／帽子の髪飾りの中
武器：モーニングスター
魔法少女服：ゴスロリ調のドレス。頭部にヴェールと帽子型の髪飾り
魔法少女歴：本編開始時点で一年
声優：小松未可子（イメージ）：なし
ＥＸスキル
カースド・ハートブレイク
攻撃属性を闇に変化＆攻撃時確率で全効果・スキル無効（１ターン）を付与（Ⅲ）
ディスク
ブラスト（横）×２、（縦）×１、アクセル×１、チャージ×１
コネクト
「壊れちゃえ！」
攻撃力アップ［XⅢ］＆被コネクト者からＭＰを２０吸収＆被コネクト者のＨＰ５０％減少【デメリット】＆環いろはにコネクトした場

合デメリットを無効化
マギア
悲鳴狂想曲（カールマイヤー）
敵全体にダメージ［Ⅶ］＆必ずスキル封印状態（３ターン）を付与
ドッペル
鬱屈のドッペル
敵全体にダメージ［ＶＩＩＩ］＆必ず呪い＆必ずバインド＆攻撃力低下［Ｖ］
ボイス集
魔法少女
自己紹介１
「な～に？私に用があるの？そ、私は神名あすみ。まぁ仲良～くやってこうじゃない？」
（仲良～く以降棒読みかつゲス笑い）
自己紹介２
「私が誰かって？そ～れ！どう？まぁ聞いてもわからないよね、そんな状態ならさ！」
（手のひらに魔方陣出現。画面がバグる。）
育成
強化完了
「あっはは！強くなってる！ほんとにいいのかなぁ!?」
強化（Ｌｖ最大時）
「ふ～ん。そんなにしてくれるの。じゃあ根こそぎ毟り取ってあげる！」
エピソードＬｖアップ
「見るなよ。」
魔力開放①
「私って幸せそうにしてるやつが嫌いなの！そう、オマエのこと。」
魔力開放②
「絶望してる顔を見るのって面白いよね～ｗ不幸なのは私だけじゃない。そいつもいま本当の不幸を知ったんだって！」

魔力開放③
「お母さんが死んで、糞親父に裏切られて…誰も私を見ようとしない。そんなことは許せない。」
マギアレベルアップ
「っふふ！いい表現方法思いついちゃったぁ～！」
魔法少女覚醒①
「魔法少女になったときは本当にうれしかったよ。これですべてを不幸にできるってねぇ！」
魔法少女覚醒②
「幻覚、願いにその裏の絶望！っはは！それできれいごとがはがれる瞬間はいつも面白いよ！」
ログイン（初回ログイン時）
「あっれ～？今日もきたの！そのまま来なくてもよかったのに。」
ログイン（朝）
「ねっむ。起こさないで」
ログイン（昼）
「もう昼か。適当な学校にちょっかい出しに行こうかなぁ？」
ログイン（夜）
「さ、不幸の何たるか。教えてやろうじゃん？」
ログイン（深夜）
「こんな時間に会うなんてねぇ。っふふふ！」
ログイン（その他）
「え～？なんできたのぉ？」
ログイン（ＡＰ最大時）
「うざ。」
ログイン（ＢＰ最大時）
「ちょうどいいの見っけ！あぁどうやって壊そうかなぁ!?」
魔法少女タップ①
「あきないねぇ、貴方をどうやって不幸にするか考えるのはさ！」
魔法少女タップ②
「【あっちむいてほい！】」

（お気に入り魔法少女があすみから勝手に変更される。）
魔法少女タップ③
「いろはのご飯は味が薄いけどさ、不思議と箸がすすむんだよねぇ。なんでだろ。」
魔法少女タップ④
「由比鶴乃。…ふふ、っふふふ！あいつみたいな本心を隠してるの、私は好きだよ？だってそういう奴ほどいいリアクションするもん！」
魔法少女タップ⑤
「何してるの？私はたっくさん殺してきたし、不幸にしてきた。あなたも不幸になるから逃げたほうがいいよ～？」
クエスト開始
「誰も幸せにはならないよ？私がみんな不幸にするもん！」
クエスト勝利①
「これで私のサヨナラ勝ち。」
クエスト勝利②
「いった…ムカつくからもうちょっとミンチにするか。」
クエスト勝利③
「地獄で千殺しだ糞野郎。」
ディスク選択時
「いーやっ！」
「へぇ、」
「どうしようか。」
攻撃時
「潰れろ！」
「消えろ！」
「アッハハ！」
コネクト時
「どこまで耐えられるかなぁ!?」
被コネクト時
「せいぜい利用させてもらうよ。」
被コネクト時（一部メンバー）

「…ありがと。」
被ダメージ時
「っつ！」
被ダメージ時（瀕死）
「殺してやる！」
死亡時
「これで終わりなの…？」
ドッペル発動時
「私は…！」
専用メモリア
「ひしゃげた髪飾り」
かつて彼女は幸福だった
かつて彼女の傍らには母がいた。
かつて彼女は優しい子だった。
それはすべて過去のこと。凄惨な虐待に、卑劣ないじめに、父から見放されたことに彼女の心は砕かれた。
此処にいるのは不幸の使者。呪いの魔法少女。
自分が受けている状態異常を相手の内ランダムな一人に移す

マギウス編～Ｐｒａｙｅｒ　ｔｏ　ｌｏｖｅ　ｐａｉｎ～

２９：謝罪行脚～ミラーズにて謔ェ鬲斐冖繧？繧峨←繧医ｋ謾ッ謠エ繝輔Λ繧ｰを成立

う～ん、なんで？（宇宙猫

いや霧子がバッドエンド黒い沈黙したのに和解エンドになってるんですが…まぁやちよに引き戻されて大目玉喰らったけどヨシ！（現場猫

さてこれからはあすみも動かせるようにするために神浜市の魔法少女たちに顔見せ、および謝罪をする必要があります。味方となった彼女は燃費が高い代わりに弱体化したとはいえ精神干渉というマギカシリーズ屈指の強魔法。高い攻撃力が強みです。

ただあすみと同じく呪いを願った調整屋たち同様魔女には攻撃が効きにくいのが欠点ですね。ただそれも精神攻撃と併用して魔女を弱体化、高い攻撃力でごり押しで解決できますが。

「で、何しようってわけ？」

いろはに事前に予定を知らせておいたのでいろはのほうから謝りに行くことを提案してくれます。というわけで神浜で厄介ごとかけた奴は？

「あの青いの、水波レナと…由比鶴乃に、鈴音と、傭兵を名乗ってたフェリシアっての。あと黄色いピエロみたいなやつに、頭にガトリングのっけた奴だっけ？」

ア”ア”ア”ア”ア”ア”ア”！おまっ何してくれとんじゃぁ!?総勢６名ですが内３名が厄ネタです。黄色ピエロはささささ、ガトリングは神楽燦ですね。…ささがこの神浜市を徘徊してるとか聞いただけで胃もたれしそうですが燦も燦で勧誘地獄確定…

しかもフェリシアとか、これ絶対ドッペル症なってるゾ…

「フェリシアのほうは急いだほうがいいと思うよ。あと魔法使わせて。まだ爆発はしてないけど遅かれ早かれ手遅れになるから！」

ふ　ざ　け　ん　な！すぐに向かいましょう。多分魔女結界で当たり散らしてればいいんですけど…お、七海ィ！許可をくれ！すぐに特定しなきゃなんねぇんだ！
「詩音さんの固有魔法でもいいと思うのだけど」
「いや、あいつ、自分の固有魔法で厄い記憶を封じ込めてる。私はそれを少し緩めたの。千里の解除だったら封じ込めも消えちゃうから…」
「封じ込め直せるあなたのほうが適任ということね…」
　ではまず鈴音に謝ってフェリシアを探しに行きましょう。確か原作ではなんか組がスカウト→狂犬過ぎてリリースだったのでそういう魔法少女がいたか聞いてみます…えっいま契約を結んでみたところ!?ナイスゥ！場所は？よし分かったウォールナッツ跡地！イクゾー！（デッデッデデデデ！カーン

「潰れろぉぉぉぉっ！」
　うわぁ…いつもより荒々しい戦闘スタイルですね…味方も巻き込みかねない勢いです。事故ってＳＧ割れても困るので砂で射抜きます。フレンドリーファイアも怖いのでね。
「まさに狂犬ですわね…しかし、貴方たちもなにようで？」
「…前は迷惑かけてごめんなさい。それと、あのフェリシアに会わせてくれる？…迷惑かけたしりぬぐいしたいから」
「…まだあなたを完全に信用したわけではありません。ですがあなたがこれ以上の悪行をしないのなら、私もそれを信じましょう。」
　身内を精神攻撃された分あたりは少し冷たいですね…ではフェリシアに合わせましょう。

「ごめん、フェリシアだっけ、ちょっといい？」
「あぁ？なんだよ？…何すんだっ!?」
魔方陣が光りました。さて結果は…？
「…そういや何でオレ、こんなにムシャクシャしてたんだ…？」
「それやったの、私なの。…ごめんなさい。」
「けど、たぶん今それを消してくれたんだろ？別にいいよ。」
ちゃんと直してくれましたねぇ。あとは鶴乃とささと燦に謝りに行くのですが…鶴乃は良しとして後二名がスーパーハードなんですよね…きっつい。まぁ適当に分かれて万々歳に行って鶴乃に謝りましょう…
「いーよいーよ！ところで何か食べてく？」
折角だからいただきましょう！食べ物を食べることでコンディションを整えたり一部ステータスを上昇できますが鶴乃の料理の特色は…５０点。食べてもなんの変動もありません（無慈悲
ただそれを逆手にとって嫌いなものをストレス値上昇なしで食べるという芸当ができます。
というわけでここで昼めし食いましょう！え？ささささ燦？なんのこったよ（現実逃避
そんじゃさ，ｓ探しに行きましょう！

……

誓約ショ
ワタシハ、魔ホウ少ジョヲ、
滅ボスコトヲ、誓イマ、ス
ナマエ：――――――

「これは…？」
「名前書いてみる～？」
鏡の招待状ですね…鏡の魔女からのもの。混沌を操っていたもの、ななかが復讐を決意し、霧子ちゃんがあやめを喪い、アザレア一家が崩壊した真の原因、瀬奈みことからのものです
彼女の状態は人に憑依する怨霊といってもいいです。この怨霊の挙動は憑依者を神浜を破滅に向かわせるように行動を操作するもの。こんなのに憑かれたら操作キャラそのものがガバメーカーと化すことになりますが…
はっきり言って招待状に応じないわけにはいかないんですよね。ミラーズでは経験値と報酬がうん、おいしい！しワルプルギス戦で”保険”をかける場でもあるんです。というわけでミレナ座、イクゾー！（デッデッデデデデ！（カーン）
「その誓約書は処分しておきましょう。」

～鏡屋敷へ移動～

「いらっしゃ～い♪」
「いろはたちが鏡の招待状を受け取った。ミラーズの開放を頼む。」
「そう、気を付けてね。」
というわけで鏡屋敷です。途中型を取られるのｔ
「きゃぁっ!?」
「いろは!?――返せぇぇぇ！」
「落ち着いなさい、すぐに出てくるわ。それに貴方、変身できないで

しょう。」
いろはが型を取られましたね。
出てくるまでコピーの警戒を行いましょう。ストーリーで霧子を操作してきた私から言わせてもらいますと彼女、ものすごく強いです。鈴音相手に夜明けまで耐久、圧倒的な対魔法少女特攻をもつあすみから逃亡を成功、見えない相手にも対処し、何より魔境死地そのものの神浜で生き残る。
はっきり言ってチートです。そんな魔法少女の精巧なコピーでも取られたら詰んでしまう恐れがあります。というわけで警護を
「…あれ？」
あ、出てきましたね。真っ先にあすみが駆け寄ってます。あとは通常通りなら笑い声をあげるだけの偽いろはが出てくるだけ。ただコイツを取り逃がすと優しさの化身であるいろはの反転なので内部から某風の氏族長のごとく神浜を崩壊させられる恐れがあります（1敗
「あっはははあは！」
仕留めましょう。弓矢を乱射してくるので双剣で振り払い。やちよに後続を任せてフィニッシュ。チュートリアルのようなものなのでまだ簡単な相手でした。
「これって…」
「偽物だろうね。大方、この結界の主の魔法は魔法少女の偽物を作るってところかな？」
あすみちゃんはすぐに特性を理解したようですね。だてに1年活動していません。さてあとはいろはをミラーズで鍛えてレベルを20ぐらい上げて解散としましょう。
「疲れました…」
「ま、戦いにはなれただろ？強くなって損することはない。」
「そろそろタイムセールの時間ね。帰りましょ。」
チームみかづきを見送って…さて、もう一つの用事を済ませましょう。念のためセーブデータのバックアップを取って、さらに別のデバイスに保存して…第6階層をうろつきましょう。コピーは積極的にブッ頃。窓枠を探しましょう。

…

（3時間ほどかかったのでカットォ！）

…

あった！やっとみつけましたよもぉ～こ→こ←に窓枠…あるでしょ？呪いより禍々しい色が見えてるでしょ？これ、悪魔ほむらと出会えるゲートウェイです。極低確率ですがこのマギレコＲＰＧ、デビほむとも交流できるんですよ。まぁ大抵会話の土俵にすら上がれないんですけど。

まあそれでいいです。デビホむ様を探した目的は「ワルプルギス戦の保険」です。

このハードモードではアルまど様からの救援が来るか不確定なんですよねぇ～。全員生存させても羽が来なくてＺＥ☆Ｎ☆ＭＥ☆ＴＵ☆なんてこともあるのです。

しかも来る基準は現状生存している魔法少女の数に比例。結構氏んでるこの状態ではひっじょうにまずい。確実に来てくれないでしょうね。というわけで悪魔頼みというわけです。

やり方は簡単。ただこの世界を観測させるだけ。まどかさえ生きていればその世界を守るためいろいろしてくれます。しかしデメリットとしてまどかが氏んだら即世界崩壊。死ぬよりひどいことになっても即世界破壊。さらに女神側から抑止力としてサーヴァント系魔法少女が来る恐れあり。そして世界がメチャクチャ不安定になります。

それでもどんな状況だろうがワルプルギスは乗り越えられる。この魅力は大きい。というわけでダイブ！

人工物のような羽、黒いドレス。悪魔ほむらです。少なくともこの世界の魔法少女が一人いるわけですからこの世界は観測できてるはず…

やぁやぁ悪魔さん。ここにまどかが生きてる世界あるんだけど…欲しくない？（世界を売る走者の屑

「――？」
…ねぇこれまどか氏んでないよね？だとしたら世界ごとあぼーんなんだけど。
「……そう。あの子がいる世界なのね。」
あっいま微笑みました！邪悪にしか見えませんがこの子結構いい娘なんです！確実に助けには来てくれるでしょう！あとは霧子ちゃんを無事に返してくれるかです！
「いいわ。…手を出し過ぎるとこの世界も壊れかねないから…貴方に、協力してもらうわよ…」
同サイズのデビほむと話してたらいきなり摘み上げられた…何を言ってるかわかんねぇが…ってまって！ほんと余計なことはしないでください！お願いします！ぼろ雑巾は嫌だぼろ雑巾は嫌だ…
「あの子を、まどかを死なせないようにしなさい。」
＞悪魔の契約を取得しました。Ｉ　ｃａｎ，ｔ　ｌｅｔ　Ｍａｄｏｋａ　ｄｉｅ．
…変なパッシブ付けられましたがこれでデビほむイベントは完遂。あとはまどかを死なせないように立ち回り、なおかつチームみかづきも生存させる。――やってやりましょう。超一流の悲劇より、三流でもハッピーエンドが見たいんです、私は。

３０：ファッ!?まどかさん!?

っすぅ～まぁヨシ！ではハードモード１年放置神浜、やっていきましょう！

いまはミラーズから出ていろはを誘って魔女狩り中！今回調教する魔女は、石中魚の魔女っ！流線型のこのボディ（嫉妬）この魔女は私の調教に耐えることができるでしょうか？それでは、ご覧ください。

メイスで突貫してスタンにかけいろはの援護射撃で動きを制限。手を振りかぶってきますが大剣で切断。その後剣でみじん切りにして終わり！これでグリーフシード４個といったところでしょうか。２つを使用分に、２つを調整代に回すとして…後で万々歳で鶴乃に会うのと、ななか組との好感度稼ぎ。…にしても無学歴魔法少女、いいですねぇ。学校に行かなくて済むから魔法少女ライフに専念できる。

「きりこ～！」

鶴乃には特訓を頼みましょう。好感度稼ぎにも役立ちますしいろはの実力アップにもつながります

「お願い、鶴乃ちゃん。」

「いいよ！」

事故が起きないよう霧子は監督に回ります。…ってそこまで！いろは、あんた訓練でドッペル撃とうとしましたね!?

「あ…ごめんなさい、あの時の力をもっとうまく使いこなせたらういを探すのにいいかなって」

「はっきり言ってアレは謎が多い。使わないに越したことがないぞ。」

此処（路地裏）でドッペル出されたらここらの建物が壊れかねませんよもぉ～。

ではステータス割り振りに調整屋に行きましょう。

「そういえばきりこ、ここ最近いろはと一緒にいることが多いけど…」

あ～、そうですかい。一応いろはのレベルもかなり上がってますし鶴乃の精神維持のために時間を作っておきましょうか…根が頑張り屋なのでまだましですけど依存デバフ、かなりまずいことになりかねないんですよねぇ…

「いつか、すべての魔法少女がこの苦しみを背負わなくてよくなりますように…七夕だもの。それぐらい願っていいんじゃない？」
「より多く、不幸を減らす。そのために戦おう！」
「ごめんね、霧子…最後に――――」

「霧子さん、反応が！」
　また魔女が出たので片手間で殲滅。神浜最強の炎使い、ヒーラー、万能エースがいるならこんなもんですよ。…なんか霧子さんぼーっとしてない？あっいろはが調整屋に行こうと袖を引っ張ってきましたね。距離感バグってんなこのｋ
　>>まて、なにか起こってる――――！
　えっ霧子さんいろはの腕をひっつかんで、ん？なにか風景がモノクロがかって、鶴乃もとまって、てまさか時間停止!?ナイフを投げ上げてみましたが空中で停止。次に糸を鶴乃につなげて…動き出しました。
「離れるな、何かヤバイ！」
　この魔法が使える魔法少女は、モブがやらかしたという線を除けば暁美ほむらのみ、そしてこんな行動に出るってことは確実にクーほむ！
「――――」
「だれ？これ、貴方の魔法でしょ？」
　霧子が鶴乃を制止する手ぶりをしています。実際クーほむは警戒心高いし下手な話し方すれば鉛玉の刑です。…にしてもなぜにいろはをピンポイントで時間停止対象から外した？…よもや既にマギアレコード時間軸を経験しているとでも…!?
　>>おそらくアイツの魔法は広範囲の動きを止めるもの…まさか、時間停止か？あやめに進められて読んだ漫画にそんな奴がいたっけ。
　>>だとしたらなぜいろはをピンポイントで動けるようにした？なぜ鶴乃や俺を攻撃しない？…敵対目的ではないのか…？
　交渉開始です。何とか穏便に帰ってもらうほかありません。

「なぁ、アンタいろはが目的か？」
「それを聞いて、貴方に何の関係があるのかしら。」
「あんまり血を流すような事態にはしたくない。もしいろはを連れ去るとか物騒な案件でなかったら聞くよ。」
「…そう。環いろは。」
「え？」
「あなたに頼みがあるの。…でてきて。」
　物陰からだれか出てきました。ピンク髪、ツインテール…えっファッあああ!?
まどかさん!?
「この神浜で、この子を守って。」

焔の意志

《運命を変えたいなら、神浜市にきて。》

幸運。これ以上ない好機。その声を聴いたとき、私はそう確信した。この時間軸はうまくいってる方。まどかが魔法少女にならず、巴マミもあの魔女に頭を食い千切られず、美樹さやかも順当に強くなり、佐倉杏子とも接触した。それにこのパターン。今度こそ、まどかを救えるかもしれない。

神浜市において、魔法少女は魔女にならず、代わりにドッペルが発動する。さらにうまくいけばこの自動浄化システムが世界中に拡散し、インキュベーターも放逐される。私がこのパターンの時間軸に入ったのは今回で三度目。

一度目はワルプルギスの夜との戦いでみんな死んだ。

二度目は…まどかは人の悪意に殺されたようなもの。

もう失敗したりしない。まどかを死なせない、殺させてなるものか。

ならまずどうすべきか。自動浄化システムを広げやすい位置に行くしかないでしょう。マギウスの翼…その幹部級。梓みふゆのような立ち位置を目指すべきでしょうね。

マギウスに取り入るために神浜と見滝原を往復する日々が始まった。そして少しづつ、確実に状況が悪くなっていった。発端は杏子とさやかの争い。それを止めるためにまどかがさやかのソウルジェムを投げ捨て、ソウルジェムこそが魔法少女の魂と判明した。

さやかは自暴自棄となり、マミの静止も通じず転がり堕ちるように破滅に近づいていった。私がさやかを見つけたのは神浜の駅。その時はもうすでにさやかはほぼ毎回見る魔女（人魚の魔女）と混ざり合ったような異形になれ果てていた。杏子が抑えていたがそこに巴マミも鉢合わせ、錯乱。結局白羽根を十数人と梓みふゆを呼んで状況を収めた。

本来なら2回目のようにさやかがいろはたちを助けに行けば望ましい展開にはなったのでしょうけど、そこは仕方がない。何より自動浄化システムを広げる中心的立ち位置に近づけばより確実にまどかを助ける道に近づける。なら次はまどかをどうすべきか。口酸っぱく契約のリスクを教えてるけどあの娘のことだからいつ契約してしまうかわからない。…そうね、被膜がありインキュベーターの入ってこれない神浜で、保護してもらおう。

目星を付けるべきはいろは達みかづき荘。彼女らなら確実にまどかを守ってくれるでしょう。そのためにいろはに接触しようとしたのだけど…

例外（イレギュラー）がいた。それも三人も。二人はみかづき荘にいた。銀髪ボブカット、年は13ばかり。それとポニーテールの魔法少女。そして今対峙している黒い、スーツ風の魔法少女。ほぼ事故のような偶然から時間停止を看破し、他のチームメイトを復帰させるその警戒心と判断力。間違いない。彼女の実力は巴マミと同格――けれどまどかを守るには利用できるかもしれない。目的を説明し、いろはにまどかを託す。これでいい。複数の黒羽根にもグリーフシードを対価にまどかの監視を言いつけた。あの娘が契約するリスクを極限まで減らせた…

なら次は”その後”だ。神浜に残った自動浄化システムを強奪するべく二木の魔法少女が攻めてくる。それだけならまだいい。問題は佐鳥かごめ。彼女が魔法少女を広めたばかりに全世界で魔法少女の迫害・利用が始まる羽目になった。ネオマギウスもその要因の一つではあったらしいが、まず広めるリスクのほうを潰す。

……いた。神浜での魔女大量発生の時に見たことがある。時間を止めて頭に銃弾を撃ち込む。これで一つリスクを潰せた。まどかを守るために必要なことよ。これで…え？

銃弾が黒い帯に包まれるようにして拭い去られる。さらに横から何かが落ちて積み重なるような音。

「なんか、きな臭いとは思ってたんがなぁ。」

――想像以上に厄介なようね。

「あたりにいた黒羽根共はのしておいたし…後はテメェだな。」
「直接人ぶっ殺そうとしてんならその時点でアウトだよ、ほんとのところは何が目的だ。返事によっては――」
黒い魔法少女の手に剣が現れ、その貌は黒い仮面で隠される。
「まぁ口を割らないのは目に見えてるか。」
眼にもとまらぬ速さでの斬撃。とっさに盾で防ぐも、力が強い、押し込まれるッ！今は逃げるのが先決。どこかに糸がつながれてるはず。
「切ろうとしても無駄だよ。どこにあるかわからんものを探そうと時間の無駄さ。それに強度には自信があるんだ。」
神浜の路地裏、夕日が差し込む中、二人の魔法少女が飛び上がる。戦いの始まりだ。

31：VSほむら、そして邂逅

さて…どうしましょうかこの状況

折角だからこのクーほむを観察しようとしたら次々黒羽根とエンカした挙句かごめをブッ頃しようとしてたから止めたのですけど。

彼女は二部のキーキャラクターであるのですがそれがブチ頃がされたらもうたまったもんじゃないです。多分色々狂って？時計が0時を示す？んじゃないでしょうか。

じゃあこ→こ←。人が寄り付きませんから…戦ってかない？

風景が白黒になりました。時間停止ですが糸を結びつけてあるので効きません。なので弾幕バトルになります。初っ端から機銃掃射が来ましたね。糸でスパイダーマッ！のごとく回避。

こちらも銃を…ってほむほむの射程長過ぎません？どうやら魔力で弾丸をエンチャント。時間停止中でもこちらより長い間合いで撃つことができるようです。これ確実に背後にヤバイ級魔法少女組織がいますね。ほむほむって魔力の扱いが苦手なはずですので。

剣を多数生成。そのすべてに糸をつないでソードビット。自身も突貫して鉄骨置き場の中心に誘い込んで、その空いた手で建材をカット…すみません、まぁだかかりそうですかねぇ…ヨシ、じゃあ現場猫になりなぁ！

轟音が鳴り響き、世界に色彩が戻った。
「…さて、と。」
魔法少女の固有魔法が解かれるとしたら要因は三つだ。一つはソウルジェムが割れて死亡。もう一つは強いショックを受けて意識が途切れる。最後に魔力切れの苦痛。ソウルジェムは濁っていたとはいえまだ魔法を使える範囲。となれば…
「生きてたか。」
紫の輝きを見据えてつぶやく。剣をあて、いつでも砕けるようにしておく。彼女が何のためにその凶行に及んだのかを聞こう。そんな、敵を殺してきた彼女にしては”らしくない”考えで。そしてその代償は思うより早くやってきた。
轟雷が迸る。その手には戦斧。髪は金色、霧子を見据えるその眼は後悔に濁っていた。
「久しぶり。」
「葉月…」
霧子の黒面に隠されたその顔もきっと悔恨に染まっているだろう。
「生きててっ…いや、その話はよそうか。」
「そうだね、アタシもまだ整理がついてない。霧子は悪くないと分かってても、どうしてもさ。」
「それより、何故マギウスの翼に?」
「弔い、かな。…マギウスの計画、あれが成功したらもう魔法少女が魔女化することはなくなる。そして魔法少女は戦わずに済むようになるんだよ。」
「――――!!」
僅かな息遣いの乱れ。驚愕、疑い、一抹の希望、それを飲み込み瞬時に平常を取り繕い、さらに探りを入れる。
「どういうことだ」
「ドッペルシステムの拡大。これでソウルジェムが濁り切ってもドッ

ペルが出るだけになるでしょ？」
「ジェム浄化の必要がなくなる。それで、後は残りの魔女を片づければ…」
「そう。すべての魔法少女は死ぬ必要がなくなる。」
　このままでは相手のペースにのまれてしまう。そう思い話題を変える。
「それがどうして弔いになるんだ？」
「もう私の家族みたいに死んでしまう子がいなくなる。これが私の弔いだよ。」
「――――じゃあこれｋ…」
　反論につなげようとするも黒羽根に阻まれた。
「葉月さん、時間を取り過ぎです。ほむらさんの回収準備も整いました。至急撤退を。」
「わかった。じゃあね、霧子。」
　ならば先の一般人の襲撃。これを尋ねようと口を開く。
「最後に一つ。そいつは一般人を殺そうとしていたぞ。」
「そうか。でも霧子は見ず知らずの人間を助けようとする性分ではなかった気がするけどなぁ。」
「東西で動くためにそうしてんだよ。」
「…襲撃については私から説明を。」
　黒羽根の一人が口を開く。
「ほむらさんは私たちの中でも独断行動が目立っていました。今まではそれを見過ごしていましたが、このような凶行に及ぶを見過ごしたのは私たちの責任です、今後はあのようなことを起こさぬようにいたします。では。」
　黒羽根と使い魔に連れられ、魔法少女たちは去っていった。その背を目に、霧子は独り言つ。
「じゃ、あのうわさと行方不明者の数、どう説明すんのかね。」
　その手にはやちよから渡されたメモがあった。

32：これから

さ～て、終わったぁぁぁ！（安堵

あと遊佐葉月も見つかりましたね。なんか目が死んでてマギウスに入ってたけど生きてるのでヨシ！

「いらっしゃーい！」

「塩ラーメン一杯。」

さてここはラストオーダー間近の万々歳。人もおらず鶴乃ともプライベート寄りの話ができます。…が、数個の席にまだ器が残ってますね。1年放置時の騒乱の影響で食べ物に贅沢言ってられないと万々歳に人が集まったのでしょうか。とにかく閉店間近で食事の形跡があるのはだいぶイレギュラーです。

「はい、どーぞ！閉店間近タイムセールでチャーシューをサービスしといたよ！」

ラーメン啜りながら、これからの話でもしましょうか。これからは会話シーン垂れ流しなので、どうぞ！

テレビから流れるワイドショーの音、食事の音。少女たちの会話。そのけっして大きくない音は1年前の万々歳を思い出させる。

「やっぱ人来るようになったなぁ～、万々歳。こうして鶴乃と話できるのも閉店前くらいだし。」

「そうだね～、人が来るのは嬉しいけど、少し大変かなぁ。」

混沌事変にて多くの人が食に困る事態となったためか５０点と言われ続けた万々歳にも人が来るようになったのだ。前のように営業中に会話をする…ということができなくなってしまった。
「ん…で、あのピンクのツインテールの…まどかっての、これからどうすんだ？」
「基本は調製屋にいて私と鈴音が守るから安全だよ！寝るときとか食事の時は魔法の鏡で一瞬で家とここを行き来できるんだって。すごいよね～、最近の技術って。」
まどかは特殊な鏡を持っている。見滝原中学校は連日の生徒の行方不明事件により休校だ。神浜にいても問題はないだろう。
「ほっか…そういえば、マギウスの翼ってのは知ってるだろ。」
「うん。やちよから聞いたの。魔女を守ってる黒いローブの魔法少女が何人も…まさか、あの鏡って!?」
鶴乃の地頭はよいほうだ。この状況でこの話題。察するのも当然だ。
「おそらく、マギウスのものだろうな。」
「じゃあまどかは…」
「たぶん関係ない。というかほむら自身マギウスを利用してたようなもんだと思う。」
「尾行でもしたの…？」
鶴乃は不安げに霧子を見つめた。霧子は申し訳なさげに言う。
「まぁ、な…いろいろあったんだがローブたちとの会話から聞くにそんな感じだったわ。」
「危ないことするなら私にも言ってよ。ホオズキ市の時もそうだったし。」
平謝りしながら霧子は箸を進めた。
「もうちょっと私を信じてよね。」
「あのときの鶴乃には無理させたくなかったんだ。ごめんな。」
ラーメンを食べ終わる。
「ごちそうさま。…明日はどうするんだ？」
「やちよししょーがウワサの調査に行くんだって。なんでも会いたい

人に会えるウワサだとか…」
「そりゃまた…まぁどうせ魔力で編まれた偽物だろーけど。」
「ちょ、夢がないと思うよぉ！」
「そう思わねぇと自分を守れねぇからな。…んじゃ、明日も学校あるだろ？今日はもう終わりにしよう。」
抗議の騒ぎ声を宥めて霧子は席を立った。
「うん。じゃあな。」
これからの日々について彼女は考えをめぐらした。ウワサの調査、あすみやまどか周りの監視、この地に来ていた幼馴染にマギウスの翼に居た葉月。……そしてこの先にも命を奪うことになるのかという絶望ともしかしたらという願望。
［Ｙｏｕ，ｒｅ ｔｈｅ ｏｎｅ ｗｈｏ ｋｎｏｗｓ ｂｅｓｔ．］
何かにつかまれる間隔が走り、霧子の目が揺れ何かから逃げるように走り出した。
［Ｙｏｕ ｗｉｌｌ ｃｏｎｔｉｎｕｅ ｔｏ ｋｉｌｌ．］
「止めろ」
無我夢中で走ってあたりを見渡す。誰もいない。あすみは何の手違いもなければいろはのところにいるはず。誰がいるのかと糸を走らせ、そして見つけたのは――
［Ｙｏｕ ａｒｅ ｍｅ］
白磁の仮面をかぶった自分だった。
「出て行ってくれ！」
瞬間、眼前の地面が抉れた。気づいたときに手にあったのは折れた剣。
一度みかづき荘に戻り、糸でカーテンを動かした。あすみはいろはの腕に包まれて眠っていた。動いた形跡もない。
「なんだったんだよ…」
おぼつかない足取りで霧子は自分のプレハブ小屋に戻っていった。